

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
理学部化学科	教授	野宮 健司	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
優れた教育方法の実践例 「無機合成系学生実験のテーマとしての酸化物高温超伝導体の合成と物性」		1992年 9月 ～現在に至る	本学化学科3年生の学生実験テーマとして「酸化物高温超伝導体の合成と物性」を取り上げた。粉体混合による固相反応法と金属硝酸塩の均一水溶液から出発するクエン酸塩法の二通りの合成を行って、マイスナー効果、臨界温度測定、粉末X線回析、熱分析によるキャラクタリゼーションを含めて4.5週で実施できるようにした。
dot Campusを活用した授業の実践		2013年 5月29日 ～現在に至る	「化学研究法1」でdot Campusを活用し、資料を配付したことで予習復習が可能になった。
dot Campusを活用した授業の実践		2014年 6月 4日 ～現在に至る	「化学研究法1」でdot Campusを活用し、資料を配付したことで予習復習が可能になった。
2 作成した教科書、教材			
制作した教材の概要 「化学表現IIテキスト」		1994年 9月 ～現在に至る	化学における英語表現と日本語表現の違いを、周期表元素名、無機化合物の命名法、実験器具、実験室用品の名称、実験器具の使用法、数学、数式、化学式の読み方などを通して学べるようにしたテキストを作成した。また化合物の性質を英文で書かれた辞典で調べられるような訓練もできるようにした。平成6年度以降毎年テキストの改訂を行っている。
教育上効果をもたらすための工夫「無機化合物の分子模型ーポリ酸と多面体モデルー」		2001年 9月 ～現在に至る	分子性の金属酸化物クラスターであるポリ酸塩の中で2つの基本的な構造のポリ酸イオン (Keggin型とDawson型) について、多面体モデルを用いることによりそれらの性質 (酸性質、酸化還元性、幾何異性体、欠損種、置換体など) が理解しやすくなることを「化学と教育」 (49巻, pp. 564-568 (2001)) に発表した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
2008年前期授業評価アンケート結果 (無機化学IV)		2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目: 無機化学IV (生物無機化学)) (1) 授業内容 (説明はわかりやすかったか、ねらい・達成目標の提示、シラバスに基づいていたか、興味・関心をもてたか等) については約98%が「はい」および「ほぼはい」の評価、(2) 授業方法 (話し方が明確か、板書がわかりやすいか、創意・工夫されていたか、熱意を感じたか等) についても約98%が「はい」および「ほぼはい」の評価を得た。

2008年度後期授業評価アンケート結果（化学表現Ⅱ）	2009年 4月 ～現在に至る	（授業科目：化学表現Ⅱ）（1）授業内容（説明はわかりやすかったか、ねらい・達成目標の提示、シラバスに基づいていたか、興味・関心をもてたか等）については約98%が「はい」および「ほぼはい」の評価、（2）授業方法（話し方が明確か、板書がわかりやすいか、創意・工夫されていたか、熱意を感じたか等）についても約98%が「はい」および「ほぼはい」の評価を得た。
2008年度後期授業評価アンケート結果（無機化学Ⅲ）	2009年 4月 ～現在に至る	（授業科目：無機化学Ⅲ（遷移元素化学））（1）授業内容（説明はわかりやすかったか、ねらい・達成目標の提示、シラバスに基づいていたか、興味・関心をもてたか等）については約98%が「はい」および「ほぼはい」の評価、（2）授業方法（話し方が明確か、板書がわかりやすいか、創意・工夫されていたか、熱意を感じたか等）についても約98%が「はい」および「ほぼはい」の評価を得た。
2010年度前期授業評価アンケート結果（無機化学Ⅳ）	2010年 9月 ～現在に至る	2010年度前期「無機化学Ⅳ」の学生による授業評価アンケートにおいて、「授業の達成目標の明確な提示」「シラバスの授業計画通りの授業だったか」「授業の内容の説明や話し方」「教材の提示方法の工夫」「教科書、参考書、配布資料」「学生が授業に積極的に参加できるような工夫」「事前・事後学習課題の適切な指示」および「全体としての満足度」が高く評価された（5点満点でそれぞれ4. 1, 3. 9, 4. 3, 4. 0, 3. 9, 3. 6, 3. 8, 4. 0）。
2010年度後期授業評価アンケート結果（化学表現Ⅱ）	2011年 4月 ～現在に至る	2010年度後期「化学表現Ⅱ」の学生による授業評価アンケートにおいて、「授業の達成目標の明確な提示」「シラバスの授業計画通りの授業だったか」「授業の内容の説明や話し方」「教材の提示方法の工夫」「教科書、参考書、配布資料」「学生が授業に積極的に参加できるような工夫」「事前・事後学習課題の適切な指示」および「全体としての満足度」が高く評価された（5点満点でそれぞれ4. 1, 3. 9, 3. 9, 3. 4, 4. 2, 3. 5, 4. 4, 3. 7）。
2010年度後期授業評価アンケート結果（無機化学Ⅲ）	2011年 4月 ～現在に至る	2010年度後期「無機化学Ⅲ」の学生による授業評価アンケートにおいて、「授業の達成目標の明確な提示」「シラバスの授業計画通りの授業だったか」「授業の内容の説明や話し方」「教材の提示方法の工夫」「教科書、参考書、配布資料」「学生が授業に積極的に参加できるような工夫」「事前・事後学習課題の適切な指示」および「全体としての満足度」が高く評価された（5点満点でそれぞれ3. 7, 3. 8, 3. 7, 3. 6, 3. 6, 3. 5, 3. 5, 3. 6）。

2011年度前期授業評価アンケート結果（無機化学Ⅳ）	2011年 9月 ～現在に至る	2011年度前期「無機化学Ⅳ（生物無機化学）」の学生による授業評価アンケートにおいて、「この授業を履修してよかったか」「授業の達成目標の明確な提示」「シラバスの授業計画通りの授業だったか」および「事前・事後学習課題の適切な指示」が高く評価された（5点満点でそれぞれ4. 3, 4. 0, 4. 0, 4. 1）。			
2012年度後期授業評価アンケート結果（化学表現Ⅱ）	2012年 4月 ～現在に至る	2012年度後期「化学表現Ⅱ」の学生による授業評価アンケートにおいて、「この授業を履修してよかったか」「授業の達成目標の明確な提示」「シラバスの授業計画通りの授業だったか」および「事前・事後学習課題の適切な指示」が高く評価された（5点満点でそれぞれ4. 0, 4. 3, 4. 2, 4. 4）。			
2012年度後期授業評価アンケート結果（無機化学Ⅲ）	2012年 4月 ～現在に至る	2012年度後期「無機化学Ⅲ（遷移元素化学）」の学生による授業評価アンケートにおいて、「この授業を履修してよかったか」「授業の達成目標の明確な提示」「シラバスの授業計画通りの授業だったか」および「事前・事後学習課題の適切な指示」が高く評価された（5点満点でそれぞれ4. 2, 3. 9, 3. 9, 4. 0）。			
2012年度前期授業評価アンケート結果（無機化学Ⅳ）	2012年 9月 ～現在に至る	2012年度前期「無機化学Ⅳ（生物無機化学）」の学生による授業評価アンケートにおいて、「この授業を履修してよかったか」「授業の達成目標の明確な提示」「シラバスの授業計画通りの授業だったか」および「事前・事後学習課題の適切な指示」が高く評価された（5点満点でそれぞれ4. 3, 4. 0, 4. 0, 4. 1）。			
2014年度グッドティーチャー賞受賞	2014年 9月26日 ～現在に至る	研究室運営、化学入門科目、教職課程の化学関連科目の担当・研究者の育成につながる学生指導。無機化学Ⅲおよび化学表現Ⅱの授業内容をWEB上で公開する。			
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
特記事項なし					
5 その他					
神奈川大学の公開講座講師	2007年10月 6日 ～現在に至る	高校生向け公開講座「理学入門」「えっ！貴金属が薬になるの？」を担当した。錯体化学の入門として貴金属錯体の薬理効果を解説した。パワーポイントを使用して説明。それを配布資料とした。			
神奈川大学の公開講座講師	2014年 6月14日 ～現在に至る	高校生向け公開講座「理学入門」「えっ！貴金属が薬になるの？」を担当した。錯体化学の入門として貴金属錯体の薬理効果を解説した。パワーポイントを使用して説明。それを配布資料とした。			
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数

著書					
Polymeric Materials with Antimicrobial Activity from Synthesis to Applications; Chapter 7 "Synthesis, Structure and Antimicrobial Activities of Polymeric and Nonpolymeric Silver and Other Metal Complexes"	共著	2014年 1月	(RSC Publishing)	<u>Kenji Nomiya</u> , Noriko Chikaraishi Kasuga, Akihiko Takayama	156-207頁
論文					
Relation among the 2 : 2- , 1 : 1- and 1 : 2-type complexes of hafnium(IV)/zirconium(IV) with mono-lacunary α 2-Dawson polyoxometalate ligands: Synthesis and structure of the 2 : 2-type complexes [$\{\alpha$ 2-P2W17O61M(μ -OH)(H2O)}2]14- (M = Hf, Zr) (査読付)	共著	2010年	Inorg. Chim. Acta 363	Y. Saku, Y. Sakai and <u>K. Nomiya</u>	967-974頁

Transformation of Tri-Titanium(IV)-Substituted α -Keggin Polyoxometalate (POM) to Tetra-Titanium(IV)-Substituted POMs: Reaction Products of Titanium(IV) Sulfate with the Dimeric Keggin POM Precursor under Acidic Conditions (査読付)	共著	2010年	Materials 3	Y. Mouri, Y. Sakai, Y. Kobayashi, S. Yoshida and <u>K. Nomiya</u>	503-518頁
ポリ酸塩の欠損部位を新しい化学反応空間とした新規のクラスターカチオンサンドイッチ型化合物の設計と合成	共著	2010年	Science Journal of Kanagawa University 21	野宮健司、力石紀子、松永 諭、坂井善隆、長谷川 剛、木村卓央	43-46頁
Intercluster Compound between a Tetrakis(triphenylphosphinegold(I))oxonium Cation and a Keggin Polyoxometalate (POM): Formation during the Course of Carboxylate Elimination of a Monomeric Triphenylphosphinegold(I) Carboxylate in the Presence of POMs (査読付)	共著	2010年 9月	Inorg. Chem. 49	<u>K. Nomiya</u> , T. Yoshida, Y. Sakai, A. Nanba, S. Tsuruta	8247-8254頁

Chemistry of Group IV Metal Ion-Containing Polyoxometalates (査読付)	共著	2011年	Eur. J. Inorg. Chem.	<u>K. Nomiya</u> , Y. Sakai, S. Matsunaga	179-196頁
Polyoxometalate (POM)-based, multi-functional, inorganic-organic, hybrid compounds: syntheses and molecular structures of silanol- and/or siloxane bond-containing species grafted on mono- and tri-lacunary Keggin POMs (査読付)	共著	2011年	Dalton Trans. 40	S. Aoki, T. Kurashina, Y. Kasahara, T. Nishijima, <u>K. Nomiya</u>	1243-1253頁
Synthesis, structure and antimicrobial activities of meso silver(I) histidinate [Ag ₂ (D-his)(L-his)] _n (Hhis = histidine) showing different self-assembly from those of chiral silver(I) histidinate (査読付)	共著	2011年	Inorg. Chim. Acta 368	N. C. Kasuga, Y. Takagi, S. Tsuruta, W. Kuwana, R. Yoshikawa, <u>K. Nomiya</u>	44-48頁
広い抗菌活性スペクトルを示すヒスチジン銀(I)錯体の合成、構造と投与後のバクテリアの電子顕微鏡観察	共著	2011年	Science Journal of Kanagawa University 22	力石紀子、野宮健司、高木由貴、吉田拓也、吉川理絵、伊能小百合、鈴木季直、早津学、井上和仁、北島正治、川上洋司	29-35頁

<p>Encapsulation of anion/cation in the central cavity of tetrameric polyoxometalate, composed of four tri-titanium(IV)-substituted α-Dawson subunits, initiated by protonation/deprotonation of the bridging oxygen atoms on the intramolecular surface (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>2011年 7月</p>	<p>Inorg. Chem. 50</p>	<p>Y. Sakai, S. Ohta, Y. Shintoyo, S. Yoshida, Y. Taguchi, Y. Matsuki, S. Matsunaga, <u>K. Nomiya</u></p>	<p>6575-6583頁</p>
<p>Synthesis and Structure of Dawson Polyoxometalate-Based, Multifunctional, Inorganic-Organic Hybrid Compounds: Organogermyl Complexes with One Terminal Functional Group and Organosilyl Analogs with Two Terminal Functional Groups (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>2011年10月</p>	<p>Inorg. Chem. 50</p>	<p><u>K. Nomiya</u>, Y. Togashi, Y. Kasahara, S. Aoki, H. Seki, M. Noguchi, S. Yoshida</p>	<p>9606-9619頁</p>

Synthesis and Structure of Dawson Polyoxometalate-Based, Multifunctional, Inorganic-Organic Hybrid Compounds: Organogermeryl Complexes with One Terminal Functional Group and Organosilyl Analogs with Two Terminal Functional Groups (査読付)	共著	2011年10月	Inorg. Chem. 50	K. Nomiya, Y. Togashi, Y. Kasahara, S. Aoki, H. Seki, M. Noguchi, S. Yoshida	9606-9619頁
Keggin型ヘテロポリア ニオンと金(I)多核ク ラスターからなる新規 クラスター間化合物の 合成	共著	2012年	Science Journal of Kanagawa University 23	野宮健司、吉田拓也、伊能小百 合、保田裕太、力石紀子、松永 諭	21-25頁
Reaction products of titanium(IV) sulfate with the two, dimeric precursors, 1,2,3-tri-titanium(IV)- and 1,2-di-titanium(IV)-substituted α -Keggin polyoxometalates (POMs), under acidic conditions. A tetra-titanium(IV) oxide cluster and one coordinated sulfate ion grafted on a di-lacunary Keggin POM (査読付)	共著	2012年	Inorg. Chem. Commun. 19	K. Nomiya, Y. Mouri, Y. Sakai and S. Matsunaga	10-19頁

Syntheses, Structures, and Antimicrobial Activities of Remarkably Light-Stable, and Water-Soluble Silver Complexes with Amino Acid Derivatives, Silver(I) N-Acetylmethioninates (査読付)	共著	2012年 2月	Inorg. Chem. 51	N. C. Kasuga, R. Yoshikawa, Y. Sakai, <u>K. Nomiya</u>	1640-1647頁
無機化合物の新しい呼び方について	単著	2012年 3月	神奈川大学 心理・教育 研究論集 (第31号)		139-140頁
Novel intercluster compound between heptakis(triphenylphosphinegold(I))dioxonium cation and a-Keggin polyoxometalate anion (査読付)	共著	2012年 8月	Dalton Trans. 41	T. Yoshida, <u>K. Nomiya</u> and S. Matsunaga	10085-10090頁

2 : 2-Type complexes of zirconium(IV)/hafnium(IV) centers with mono-lacunary Keggin polyoxometalates: Syntheses and molecular structures of $[(\alpha\text{-SiW}_{11}\text{O}_{39}\text{M})_2(\mu\text{-OH})_2]^{10-}$ (M = Zr, Hf) with edge-sharing octahedral units and $[(\alpha\text{-SiW}_{11}\text{O}_{39}\text{M})_2(\mu\text{-OH})_3]^{11-}$ with face-sharing octahedral units (査読付)	共著	2013年	Polyhedron 52	H. Osada, A. Ishikawa, Y. Saku, Y. Sakai, Y. Matsuki, S. Matsunaga, and <u>K. Nomiya</u>	389-397頁
Novel Intercluster Compounds Composed of a Tetra{phosphanegold(I)}oxonium Cation and an α -Keggin Polyoxometalate Anion Linked by Three Monomeric Phosphanegold(I) Units (査読付)	共著	2013年	Chem. Lett. 42	T. Yoshida, S. Matsunaga, and <u>K. Nomiya</u>	1487-1489頁
Synthesis, structure and antimicrobial activity of L-argininesilver(1+) nitrate (査読付)	共著	2013年	Polyhedron 52	A. Takayama, R. Yoshikawa, S. Iyoku, N. C. Kasuga and <u>K. Nomiya</u>	844-847頁

<p>バクテリア、酵母、カビに対して広い抗菌活性スペクトルを示す新規銀(I)錯体の合成、構造解析と抗菌機構の解明</p>	<p>共著</p>	<p>2013年</p>	<p>Science Journal of Kanagawa University 24</p>	<p>力石紀子、野宮健司、松永 諭、早津 学、鈴木季直</p>	<p>31-39頁</p>
<p>Monomer and Dimer of Mono-titanium(IV)-Containing α-Keggin Polyoxometalate: Synthesis, Molecular Structures and pH-Dependent Monomer-Dimer Interconversion in Solution (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>2013年 4月</p>	<p>Eur. J. Inorg. Chem.</p>	<p>Y. Matsuki, Y. Mouri, Y. Sakai, S. Matsunaga, and <u>K. Nomiya</u></p>	<p>1754-1761頁</p>
<p>Tetranuclear Hafnium(IV) and Zirconium(IV) Cationic Complexes Sandwiched between Two Di-Lacunary Species of α-Keggin Polyoxometalates: Lewis Acid Catalysis of the Mukaiyama-Aldol Reaction (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>2013年 7月</p>	<p>Bull. Chem. Soc. Jpn. 86</p>	<p><u>K. Nomiya</u>, K. Ohta, Y. Sakai, T. Hosoya, A. Ohtake, A. Takakura, and S. Matsunaga</p>	<p>800-812頁</p>

Two types of tetranuclear phosphanegold(I) cations as dimers of dinuclear units, $[(Au\{P(p-RPh)_3\})_2(m-OH)]_2^{2+}$ (R = Me, F), synthesized by polyoxometalate-mediated clusterization (査読付)	共著	2013年 8月	Dalton Trans. 42	T. Yoshida, S. Matsunaga, and <u>K. Nomiya</u>	11418-11425頁
Synthesis, characterization and antimicrobial activities of sodium salt of L-histidinatoargentate(I) derived from the pH 11 solution (査読付)	共著	2014年 9月	Polyhedron 80	A. Takayama, Y. Takagi, K. Yanagita, C. Inoue, R. Yoshikawa, N. C. Kasuga and <u>K. Nomiya</u>	151-156頁
Zirconium(IV)- and Hafnium(IV)-Containing Polyoxometalates as Oxidation Precatalysts: Homogeneous Catalytic Epoxidation of Cyclooctene with Hydrogen Peroxide (査読付)	共著	2014年11月	J. Mol. Catal. A: Chem. 394	H. Aoto, K. Matsui, Y. Sakai, T. Kuchizi, H. Sekiya, H. Osada, T. Yoshida, S. Matsunaga, and <u>K. Nomiya</u>	224-231頁

Various Oxygen-Centered Phosphane-gold(I) Cluster Cations Formed by Polyoxometalate (POM)-Mediated Clusterization: Effects of POMs and Phosphanes (査読付)	共著	2014年12月	Inorganics 2	T. Yoshida, Y. Yasuda, E. Nagashima, H. Arai, S. Matsunaga, <u>K. Nomiya</u>	660-673頁
その他					
Synthesis and Crystal and Molecular Structures of Light-stable and Water-soluble Silver(I) Complexes Showing Effective Antimicrobial Activities	共著	2010年 7月	International Symposium in Advancing the Chemical Sciences (ISACS3), Hong Kong China	K. Nomiya, N. C. Kasuga, R. Yoshikawa, Y. Takagi	
Hf(IV) 四核クラスターカチオン/Keggin型-1, 2-二欠損種系サンドイッチ型ポリ酸塩の合成と構造	共著	2010年 9月	第60回錯体化学討論会 2PA-50	<u>野宮健司</u> 、坂井善隆、佐久 惟、太田和明、大竹敦史	
Keggin型ポリ酸塩チタン(IV)二置換体二量体と硫酸チタンの反応による2ホスト/4ゲスト型ポリ酸塩単量体の合成と分子構造	共著	2010年 9月	第60回錯体化学討論会 2PA-51	<u>野宮健司</u> 、毛利有貴、坂井善隆	
ホスフィン金(I)クラスターカチオンと飽和Keggin型ポリ酸塩から成るクラスター間化合物の合成と構造	共著	2010年 9月	第60回錯体化学討論会 1PA-49	吉田拓也、 <u>野宮健司</u> 、坂井善隆	

光に安定で水溶性の N-アセチル-DL-, L- メチオナト銀(I)錯体 の合成、分子構造と抗 菌活性	共著	2010年 9月	日本防菌防黴学会第37回 年次大会 15PA-05	野宮健司、力石紀子、吉川理絵 、桑名 渉、高木由貴	
硫黄架橋環状銅錯体の 酸素に対する反応性	共著	2010年 9月	第60回錯体化学討論会 1PA-28	林 佑季子、但野ますみ、野宮健 司、川本達也	
aurophilic interactionを示すメ チルジフェニルホスフ ィン金(I)錯体の合成 及び分子構造	共著	2011年 3月	日本化学会第91春季年会 1PB-155	野宮健司、伊能小百合、吉田拓 也、力石紀子	
Dawson型ポリ酸塩の固 体プロトン酸含有ポリ マーによるエステル化 反応に対する不均一系 酸触媒作用	共著	2011年 3月	日本化学会第91春季年会 1PB-059	野宮健司、富樫欣洋、長谷川 剛	
ジルコニウム(IV)及び ハフニウム(IV)含有 Keggin型ポリ酸塩の合 成と過酸化水素による シクロオクテンの触媒 的エポキシ化	共著	2011年 3月	日本化学会第91春季年会 1PB-058	野宮健司、青戸宏樹、坂井善隆 、口地哲平、関谷博美	
ペンタフルオロベンゼ ンチオレート銀(I)配 位ポリマーとメチルジ フェニルホスフィンに よる六核及び二核銀 (I)錯体の合成と相互 変換	共著	2011年 3月	日本化学会第91春季年会 1PB-152	野宮健司、黒田真梨恵、桑名 渉 、吉川理絵、力石紀子	
光に安定で水溶性の 3-(メチルチオ)プロ ピオン酸銀(I)錯体の 合成と分子構造	共著	2011年 3月	日本化学会第91春季年会 1PB-151	野宮健司、吉川理絵、力石紀子	

分子サイズを拡大したポルフィリン配位子を用いた多孔性金属錯体の気体吸蔵特性と構造安定性	共著	2011年 3月	日本化学会第91春季年会 2A5-25	北村直己、松永 諭、 <u>野宮健司</u> 、森 和亮	
水溶性アレーンルテニウム(II) 錯体担持 Keggin 型ポリ酸塩を用いた分子状酸素によるベンジルアルコールの触媒的酸化反応	共著	2011年 3月	日本化学会第91春季年会 1PB-060	<u>野宮健司</u> 、後藤 学、坂井善隆	
金(I)/カルボン酸/PPh ₃ 系錯体とヘテロ原子AlのKeggin型ポリ酸塩の反応によるクラスター間化合物の形成	共著	2011年 3月	日本化学会第91春季年会 1PB-154	<u>野宮健司</u> 、吉田拓也、坂井善隆	
Dawson 型ポリ酸塩のプロトン酸及びそれを含有するポリマーの合成と不均一系酸触媒作用	共著	2011年 8月	日本化学会第5回関東支部大会 PA2a001	<u>野宮健司</u> 、富樫欣洋、長谷川 剛	
ZrIV/HfIV四核クラスターカチオン/ α -Keggin 型二欠損種系サンドイッチ型ポリ酸塩の合成と構造	共著	2011年 8月	日本化学会第5回関東支部大会 PB2a016	<u>野宮健司</u> 、大竹敦史、坂井善隆、太田和明	
ZrIV含有ポリ酸塩をルイス酸触媒とした向山アルドール反応	共著	2011年 8月	日本化学会第5回関東支部大会 PA2a003	<u>野宮健司</u> 、太田和明、坂井善隆、大竹敦史	
ジルコニウム(IV)/ハフニウム(IV)含有 Keggin 型ポリ酸塩を触媒前駆体とした過酸化水素によるシクロオクテンの触媒的エポキシ化	共著	2011年 8月	日本化学会第5回関東支部大会 PA2a002	<u>野宮健司</u> 、青戸宏樹、坂井善隆、口地哲平、関谷博美	

フェニル基延長により細孔を拡大したポルフィリン配位子を用いた多孔性金属錯体の構造と気体吸蔵	共著	2011年 8月	日本化学会第5回関東支部大会 PB2a014	北村直己、松永 諭、野宮健司、森 和亮	
水溶性のS-メチル-L-システイン銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2011年 8月	日本防菌防黴学会第38回 年次大会 P42-31P	野宮健司、力石紀子、吉川理絵	
水溶性のトリス (3-スルホナトフェニル) ホスフィン配位子とした水溶性金(I)錯体の合成と抗菌活性	共著	2011年 8月	日本防菌防黴学会第38回 年次大会 P44-31A	野宮健司、力石紀子、伊能小百合、吉田拓也	
水溶性ヒスチジン銀(I)錯体を加えて培養したバクテリアの電子顕微鏡観察	共著	2011年 8月	日本防菌防黴学会第38回 年次大会 P43-30P	野宮健司、力石紀子、吉川理絵、高木由貴、伊能小百合、吉田拓也、鈴木季直、早津 学	
酸化還元活性な配位子を有するニッケル錯体の触媒作用	共著	2011年 8月	日本化学会第5回関東支部大会 PA2b020	林 佑希子、三鶯 学、野宮健司、川本達也	
金(I)/カルボン酸/Ph ₃ 系錯体とヘテロ原子B のKeggin 型ポリ酸塩の反応によるクラスター間化合物の形成	共著	2011年 8月	日本化学会第5回関東支部大会 PB2a015	野宮健司、吉田拓也	
2種類のpaddlewheelユニットを有する多孔性貴金属錯体の合成と構造	共著	2011年 9月	第61回錯体化学討論会 2PA-98	松永 諭、森 和亮、挾田謙一、杉浦健志、北村直己、野宮健司	

チタン(IV)三置換 Dawson型ポリ酸塩単量体の合成およびそれをビルディングブロックとした中心空間にカチオンをカプセル化した四量体の誘導	共著	2011年 9月	第61回錯体化学討論会 1PA-15	野宮健司、松木悠介、坂井善隆、田口裕己、高久祥子	
分子サイズを拡大したポルフィリン誘導体を用いた三次元多孔性金属錯体の合成と構造と気体吸蔵	共著	2011年 9月	第61回錯体化学討論会 1PA-17	北村直己、松永 諭、野宮健司、森和 亮	
末端がカルボン酸及びメチルエステル体のオルガノシリル基が担持された新しいKeggin型ポリ酸塩の合成及びそれらの分子構造	共著	2011年 9月	第61回錯体化学討論会 1PA-16	富樫欣洋、野口真梨瑛、笠原友樹、野宮健司	
金(I)/カルボン酸/PR ₃ 系錯体 (R = Ph, 2-tolyl) とヘテロ原子A1の飽和Keggin型ポリ酸塩の反応によるクラスター間化合物の形成	共著	2011年 9月	第61回錯体化学討論会 1PA-14	野宮 健司、吉田 拓也	
金(I)/カルボン酸/Ph ₃ 系錯体と種々のポリ酸塩の反応から形成される新しいクラスター間化合物	共著	2011年11月	第1回CSJ化学フェスタ Abstr. P8-26	吉田拓也、野宮健司	
L-アルギニン銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 Abstr. 1PB-060	野宮健司、力石紀子、高山晃彦、吉川理絵、伊能小百合	

L-ヒスチジンを配位子としたアニオン性三核銀(I)錯体の合成、キヤラクタリゼーション及び抗菌活性	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 Abstr. 1PB-061	野宮健司、力石紀子、柳田貢助、吉川理絵、高木由貴	
Zr(IV)/Hf(IV) 二核クラスターカチオン含有Kegginサンドイッチ型ポリ酸塩を触媒前駆体とした過酸化水素によるオレフィンのエポキシ化	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 Abstr. 1PB-001	野宮健司、青戸宏樹	
α -Keggin型シリコタングステン酸塩一欠損種でサンドイッチされたZr(IV)/Hf(IV)二核稜共有及び面共有型錯体の合成と分子構造	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 Abstr. 1PB-005	長田宏紀、佐久惟、松木悠介、石川晃央、松永 諭、野宮健司	
チタン(IV)三置換Dawson型ポリ酸塩単量体の合成とそれをビルディングブロックとした中心空間にカチオンをカプセル化した架橋なし四量体の誘導	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 Abstr. 1PB-006	野宮健司、松木悠介、高久祥子	
末端カルボキシ基を有するオルガノシリル基担持 Keggin 型ポリ酸塩を配位子としたロジウム二核錯体の合成	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 Abstr. 1PB-001	野宮健司、松永 諭、甲田竜也、野口真梨瑛	
金(I)/カルボン酸/P(p-tolyl) ₃ 系錯体とKeggin型ポリオキシメタレートの反応による新しいクラスター間化合物の形成	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 Abstr. 3F1-27	野宮健司、吉田拓也	

Dawson型ポリ酸塩チタン(IV)三置換体単量体にカチオン性有機金属種を担持新規化合物の合成	共著	2012年 9月	第62回錯体化学討論会 Abstr. 2PA-072	高久祥子、松木悠介、松永 諭、 <u>野宮健司</u>	
L-アルギニンを配位子とするポリマー性銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2012年 9月	日本防菌防黴学会第39回 年次大会 Abstr. 12Pa-02	高山晃彦、 <u>野宮健司</u> 、力石紀子、 吉川理絵、伊能小百合	
L-アルギニンを配位子とするポリマー性銀(I)錯体の合成、分子構造及び抗菌活性	共著	2012年 9月	第62回錯体化学討論会 Abstr. 1PA-052	<u>野宮健司</u> 、力石紀子、高山晃彦、 伊能小百合、吉川理絵	
L-グルタミン酸を配位子とするポリマー性銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2012年 9月	日本防菌防黴学会第39回 年次大会 Abstr. 12Pa-11	伊能小百合、 <u>野宮健司</u> 、力石紀子、 高山晃彦、高木由貴	
L-ヒスチジンを配位子とするアニオン性三核銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2012年 9月	日本防菌防黴学会第39回 年次大会 Abstr. 12Pa-06	<u>野宮健司</u> 、力石紀子、吉川理絵、 柳田貢助、伊能小百合、高木 由貴、高山晃彦	
α -Keggin型シリコタングステート欠損種でサンドイッチされたZr(IV)二核ペルオキシ基配位ポリ酸塩の合成と分子構造	共著	2012年 9月	第62回錯体化学討論会 Abstr. 2PA-107	長田宏紀、青戸宏樹、松永 諭、 <u>野宮健司</u>	
金(I)/カルボン酸/ホスフィン系錯体とKeggin型ポリ酸塩の反応による新しい金(I)クラスターカチオン種の形成と構造	共著	2012年 9月	第62回錯体化学討論会 Abstr. 1Ad-01	吉田拓也、 <u>野宮健司</u>	
L-アルギニンを配位子とするポリマー性銀(I)錯体の合成、構造解析及び抗菌活性	共著	2012年10月	第2回CSJ化学フェスタ 2012 Abstr. P1-19	高山晃彦、 <u>野宮健司</u> 、力石紀子	

Zr(IV)/Hf(IV)含有ポリ酸塩を触媒前駆体としたオレフィンのエポキシ化 (最優秀ポスター賞受賞)	共著	2012年10月	第2回CSJ化学フェスタ 2012 Abstr. P4-24	野宮健司、青戸宏樹	
α -Keggin型シリコタングステート欠損種でサンドイッチされたZr(IV)/Hf(IV)二核種共有及び面共有連結錯体の合成と分子構造	共著	2012年10月	第2回CSJ化学フェスタ 2012 Abstr. P5-19	長田宏紀、石川晃央、佐久 惟、松木悠介、松永 諭、野宮健司	
ジルコニウム(IV)/ハフニウム(IV)含有ポリ酸塩をルイス酸触媒とする向山アルドール反応	共著	2012年10月	第2回CSJ化学フェスタ 2012 Abstr. P4-30	高倉 章、野宮健司、坂井善隆、太田和明、細谷恭章	
チタン(IV)一置換 α -Keggin型ポリ酸塩単量体及び二量体の合成、分子構造とpHに依存性する単量体-二量体の平衡	共著	2012年10月	第2回CSJ化学フェスタ 2012 Abstr. P1-28	松木悠介、坂井善隆、松永 諭、毛利有貴、野宮健司	
金(I)/カルボン酸/PPh ₃ 系錯体と種々のポリ酸塩の反応による金(I)クラスターカチオン種の形成	共著	2012年10月	第2回CSJ化学フェスタ 2012 Abstr. P2-22	保田裕太、野宮健司、吉田拓也	
金(I)/カルボン酸/ホスフィン系錯体とKeggin型ポリ酸塩の反応による新しい金(I)クラスターカチオン種の形成	共著	2012年10月	第2回CSJ化学フェスタ 2012 Abstr. P2-21	吉田拓也、野宮健司	

ケギン型シリコタングステートー欠損種でサンドイッチされたZr(IV)/Hf(IV)二核稜共有および面共有連結錯体の合成と分子構造	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会 Abstr. 2PA-007	長田宏紀、松永諭、野宮健司	
L-リシン銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会 Abstr. 2PA-023	井上ちさと、力石紀子、吉田拓也、伊能小百合、高山晃彦、野宮健司	
チタン(IV)一置換ケギン型ポリ酸塩単量体および二量体の合成、分子構造と単量体-二量体のpHに依存した相互変換	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会 Abstr. 1B3-14	松木悠介、松永諭、坂井善隆、毛利有貴、野宮健司	
ポリフルオロ安息香酸銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会 Abstr. 2PA-024	古越裕也、力石紀子、伊能小百合、高山晃彦、野宮健司	
末端カルボキシ基を有するオルガノシリル基担持ケギン型ポリ酸塩を配位子とした鉄三核錯体の合成	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会 Abstr. 2PA-006	阿部稜司、松永諭、野宮健司	
金(I)/カルボン酸/P(m-FPh) ₃ 系錯体とケギン型ポリオキシメタレート反応による新しいクラスター間化合物の合成	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会 Abstr. 1B3-14	吉田拓也、野宮健司	
アルギニンを配位子とする種々のポリマー性銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2013年 9月	日本防菌防黴学会第40回 年次大会 Abstr. 10Pa-49	高山晃彦、野宮健司、力石紀子	
ポリフルオロ安息香酸銀(I)錯体の合成、構造解析及び抗菌活性	共著	2013年 9月	日本防菌防黴学会第40回 年次大会 Abstr. 10Pa-51	坂元亮介、古越裕也、高山晃彦、伊能小百合、力石紀子、野宮健司	

中性及びカチオン性の L-リシンを配位子とし た銀(I)錯体の合成、 構造解析抗菌活性	共著	2013年 9月	日本防菌防黴学会第40回 年次大会 Abstr. 10Pa-50	井上ちさと、力石紀子、吉田拓 也、伊能小百合、高山晃彦、野 宮健司	
L-リシンを配位子とす る銀(I)錯体の合成、 分子構造及び抗菌活性	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ 2013 Abstr. P1-74	井上ちさと、力石紀子、伊集院 久子、吉田拓也、高山晃彦、野 宮健司	
Zr(IV)/Hf(IV)含有ポリ 酸塩を触媒前駆体とし た過酸化水素による オレフィンのエポキシ 化	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ 2013 Abstr. P4-67	松井敬祐、青戸宏樹、野宮健司	
アルギニンを配位子と するポリマー性銀(I) 錯体の合成、構造解析 及び抗菌活性	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ 2013 Abstr. P1-65	高山晃彦、野宮健司、力石紀子	
アルミニウム(III)三置 換Keggin型知り個タン グステートの合成と分 子構造	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ 2013 Abstr. P1-73	長田宏紀、松永 諭、野宮健司	
ジルコニウム(IV)/ハ フニウム(IV)含有ポリ 酸塩のルイス酸構造と 向山アルドール反応に 対する触媒活性	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ 2013 Abstr. P4-66	高倉章、坂井善隆、太田和明、 細谷恭章、松永諭、野宮健司	
新規 NHC 配位子 1 : 2 かご型銀(I)錯体の 合成及び構造解析	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ 2013 Abstr. P1-67	坂元亮介、高山晃彦、力石紀子 、野宮健司	
新規 NHC 配位子 2 : 2 型銀(I)錯体の合成 及び構造解析	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ 2013 Abstr. P1-68	外山瑞季、坂元亮介、井上ちさ と、高山晃彦、力石紀子、野宮 健司	
金(I)/カルボン酸 /P(p-tolyl)3系錯体と ポリ酸塩の反応による 金(I)クラスターカチ オン種の形成	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ 2013 Abstr. P1-76	保田裕太、吉田拓也、野宮健司	

Keggin型ゲルマノタン グステート欠損種で サンドイッチされた新規 Zr(IV)/Hf(IV)含有 ポリ酸塩の合成と分子 構造	共著	2013年11月	第63回錯体化学討論会 Abstr. 2PA-015	長田宏紀、松永諭、野宮健司	
L-リシンを配位子とする 銀(I)錯体の合成、 分子構造及び抗菌活性	共著	2013年11月	第63回錯体化学討論会 Abstr. 2PA-018	井上ちさと、力石 紀子、伊集 院 久子、吉田 拓也、高山 晃彦、野宮 健司	
アルギニンを配位子と するポリマー性銀(I) 錯体の合成、分子構造 及び抗菌活性	共著	2013年11月	第63回錯体化学討論会 Abstr. 2PA-036	高山晃彦、力石 紀子、野宮 健司	
第4族元素含有ポリ 酸塩を触媒前駆体とし た30% H ₂ O ₂ aq. に よるオレフィンのエポ キシ化反応	共著	2013年11月	第63回錯体化学討論会 Abstr. 1PF-048	松井敬祐、青戸 宏樹、野宮 健司	
金(I)/カルボン酸/ホ スファン系錯体と Keggin型ポリ酸塩の反 応による新規金(I)ク ラスタカチオン種の 形成	共著	2013年11月	第63回錯体化学討論会 Abstr. 2PA-087	保田裕太、吉田拓也、野宮健司	
金(I)/カルボン酸/ホ スフィン系錯体と Keggin型ポリ酸塩の反 応による新しいクラ スター間化合物の形成と 構造	共著	2013年11月	第63回錯体化学討論会 Abstr. 3Ac-12	吉田拓也、新井秀和、野宮健司	
(D-, L-, DL-)アルギ ニン銀(I)錯体の合成、 分子構造と抗菌活性	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会 Abstr. 2PB-143	高山晃彦、力石紀子、野宮健司	

Dawson型ポリ酸塩六欠損種を出発錯体とした α 1-チタン(IV)二置換単量体および環状四量体の合成	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会 Abstr. 2PB-010	増田佳奈、大竹敦史、長田宏紀、松永 諭、 <u>野宮健司</u>	
Zr(IV)含有ポリオキソメタレート(POM)をLewis酸触媒とした含水溶媒系での向山アルドール反応	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会 Abstr. 2PB-111	高倉 章、 <u>野宮健司</u>	
アルミニウム(III)を組み込んだ新規型シリコタングステートの合成と分子構造	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会 Abstr. 2PB-012	長田宏紀、松永 諭、 <u>野宮健司</u>	
チタン(IV)三置換Dawson型ポリ酸塩単量体とカチオン性有機金属種の反応生成物の構造	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会 Abstr. 2PB-009	星野貴弘、松木悠介、 <u>野宮健司</u>	
ホスファン金(I)四核クラスターカチオンとポリオキソアニオンから成るクラスター間化合物を触媒前駆体としたジフェニルアセチレンの水和反応	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会 Abstr. 2PB-008	新井秀和、吉田拓也、保田裕太、長島江里、 <u>野宮健司</u>	
ポリオキソメタレートをテンプレートとしたホスフィン金(I)単核種のクラスター化	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会 Abstr. 2PB-011	吉田拓也、 <u>野宮健司</u>	
ポリ酸塩をテンプレートとした金(I)クラスターカチオン種の形成とポリ酸アニオンの効果	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会 Abstr. 2PB-007	長島江里、新井秀和、保田裕太、吉田拓也、 <u>野宮健司</u>	

Al(III) 16核クラスター構造を有するKeggin型ポリ酸塩 (POM) 4量体及びAl(III)を4つ置換したopen-Dawson型POMの合成および分子構造	共著	2014年 9月	第64回錯体化学討論会 Abstr. 2PA-069	井上雄介、長田宏紀、松永諭、 <u>野宮健司</u>	
N-複素環カルベン(NHC)銀(I)錯体の分子構造と抗菌活性	共著	2014年 9月	日本防菌防黴学会第41回 年次大会 Abstr. 25Pa-16	坂元亮介、外山瑞季、高山晃彦、 <u>力石紀子</u> 、 <u>野宮健司</u>	
pH 11の水溶液からのアニオン性L-ヒスチジン三核銀(I)錯体の合成及び抗菌活性	共著	2014年 9月	第64回錯体化学討論会 Abstr. 1PA-070	井上ちさと、力石 紀子、高木由貴、高山 晃彦、柳田貢助、 <u>野宮 健司</u>	
アニオン性L-ヒスチジン三核銀(I)錯体の合成及び抗菌活性	共著	2014年 9月	日本防菌防黴学会第41回 年次大会 Abstr. 25Pa-17	井上ちさと、力石紀子、高木由貴、柳田貢助、高山晃彦、 <u>野宮健司</u>	
チタン(IV)三置換Dawson型ポリ酸塩単量体の合成および中心空間にアニオンをカプセル化した架橋なし四量体の誘導	共著	2014年 9月	第64回錯体化学討論会 Abstr. 1PA-026	松木悠介、坂井善隆、星野貴弘、 <u>野宮健司</u>	
ヘテロ原子P, Si, GeのZr(IV)含有ポリ酸塩を触媒前駆体としたオレフィンのエポキシ化反応	共著	2014年 9月	第64回錯体化学討論会 Abstr. 1PF-049	松井敬祐、青戸宏樹、 <u>野宮健司</u>	
ポリ酸塩存在下のホスファン金(I)錯体触媒によるジフェニルアセチレンの水和反応	共著	2014年 9月	第64回錯体化学討論会 Abstr. 2PF-010	新井秀和、長島理絵、保田裕太、吉田拓也、 <u>野宮健司</u>	
環状構造を有するN-複素環カルベン(NHC)銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2014年 9月	第64回錯体化学討論会 Abstr. 1PA-054	坂元亮介、外山瑞季、高山晃彦、 <u>力石紀子</u> 、 <u>野宮健司</u>	

Keggin型シリコタンゲステート三欠損種を出発錯体とした種々のAlIII置換型POMの合成と分子構造	共著	2014年10月	第4回CSJ化学フェスタ2014	井上雄介・長田宏紀・松永諭・野宮健司	
N-複素環カルベン(NHC)銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性の相関	共著	2014年10月	第4回CSJ化学フェスタ2014	坂元亮介、外山瑞季、高山晃彦、力石紀子、野宮健司	
ガリウム(III)を組み込んだopen-Dawson型シリコタンゲストポリ酸塩の合成と構造解析	共著	2014年10月	第4回CSJ化学フェスタ2014	大滝卓也・井上雄介・長田宏紀・松永諭・野宮健司	
チタン(IV)三置換Dawson型ポリ酸塩単量体から中心空間にBr ⁻ イオンを内包した架橋なし四量体の合成	共著	2014年10月	第4回CSJ化学フェスタ2014	松木悠介・星野貴弘・野宮健司	
チタン(IV)三置換Dawson型ポリ酸塩単量体とCp*Rh ²⁺ 種の反応生成物の構造	共著	2014年10月	第4回CSJ化学フェスタ2014	星野貴弘・松木悠介・野宮健司	
ヘテロ原子P, Si, GeのZr二核稜共有種および面共有種を触媒前駆体としたオレフィンのエポキシ化反応	共著	2014年10月	第4回CSJ化学フェスタ2014	松井敬祐・青戸宏樹・長田宏紀・野宮健司	
ホスファン金(I)錯体触媒によるジフェニルアセチレンの水和反応に対するKeggin型ポリ酸塩の添加効果	共著	2014年10月	第4回CSJ化学フェスタ2014	新井秀和・長島江里・保田裕太・吉田拓也・野宮健司	
ポリ酸塩をテンプレートとしたp-F置換ホスファン金(I)クラスターカチオン種の形成とポリ酸アニオンの効果	共著	2014年10月	第4回CSJ化学フェスタ2014	長島江里・新井秀和・保田裕太・吉田拓也・野宮健司	

塩基性アミノ酸L-リシンを配位子とした銀(I)錯体の合成及び抗菌活性	共著	2014年10月	第4回CSJ化学フェスタ2014	井上ちさと、力石紀子、高山晃彦、野宮健司	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1971年 7月～現在に至る		日本化学会(国内学会)会員			
1978年 6月～現在に至る		錯体化学会(国内学会)会員			
1982年～現在に至る		国内共同研究(実吉奨学会)500,000円 実吉奨学会研究助成金(W12 040 を四座配位子とする四面体錯体の合成と光学的性質)			
1994年10月～現在に至る		American Association for the Advancement of Science(国際学会)会員			
1998年 4月～現在に至る		日本防菌防黴学会(国内学会)会員			
2002年 7月～現在に至る		触媒学会(国内学会)会員			
2003年 6月～現在に至る		日本防菌防黴学会 評議員			
2006年 1月～現在に至る		アメリカ化学会 (ACS)(国際学会)会員			
2006年 1月～現在に至る		イギリス王立化学会 (RSC)(国際学会)会員			
2007年 4月～現在に至る		神奈川大学大学院 大学院委員会委員			
2007年 4月～現在に至る		神奈川大学大学院 理学研究科化学専攻主任			
2009年 4月～2012年 3月		機関内共同研究(神奈川大学共同研究奨励金)6,000,000円 巨大 π 共役系を有する銅-硫黄クラスターによるレドックス触媒反応の開発			
2010年 4月～2012年 3月		科学研究費補助金 3,800,000円 「基盤研究 C 一般」ポリオキシメタレートの反応場での超分子金属錯体の構築(研究代表者)			
2010年10月～2011年 3月		企業からの受託研究(味の素株式会社)200,000円 アミノ酸およびその誘導体の金属錯体化検討			
2011年 4月～2012年 3月		企業からの受託研究(味の素株式会社)1,000,000円 アミノ酸およびその誘導体の金属錯体合成とその分析			
2012年 4月～現在に至る		その他の補助金・助成金(文部科学省)280,000,000円 「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」太陽光活用を基盤とするグリーン/ライフイノベーション創出技術研究拠点の形成(研究分担者)			
2012年 4月～2013年 3月		企業からの受託研究(味の素株式会社)1,000,000円 アミノ酸およびその誘導体の金属錯体合成とその分析			
2013年 4月～2015年 3月		神奈川大学大学院 学務委員会委員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部化学科	職名 教授	氏名 山口 和夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年前期授業評価アンケート結果		2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：基礎有機化学) (1) 板書や視聴覚教材がわかりやすいかに関しては、67%がそう思うおよび強くそう思う、(2) 60%が、授業内容に満足している、との評価を受けた。 (授業科目：高分子合成法) 73%が、教員に授業に取り組む熱意を感じた、との評価を受けた。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
シランカップリング剤 の効果と使用法 全面 改訂版	共著	2012年11月	(S&T出版)	山口和夫 伊藤倫子	
論文					

Crystal Orientation of Poly(ϵ -caprolactone) Homopolymers Confined in Cylindrical Nanodomains (査読付)	共著	2010年 4月	Macromolecules 43(8)		3916-3923頁
Precise patterning of photoactivatable glass coverslip for fluorescence observation of shape-controlled cells (査読付)	共著	2010年 7月	Supramol. Chem. 22(7-8)		396-405頁
Dynamic Culture Substrate That Captures Specific Extracellular Matrix Protein in Response to Light (査読付)	共著	2011年 3月	Sci. Technol. Adv. Mater. 12	Jun Nakanishi, Hidekazu Nakayama, Kazuo Yamaguchi, Anres J. Garcia, and Yasuhiro Horiike	044608頁
Photocontrol of cell adhesion on amino-bearing surfaces by reversible conjugation of poly(ethylene glycol) via a photocleavable linker (査読付)	共著	2011年 3月	Phys. Chem. Chem. Phys. 13(9)	Shingo Kaneko, Hidekazu Nakayama, Yutaro Yoshino, Daisuke Fushimi, Kazuo Yamaguchi, Yasuhiro Horiike and Jun Nakanishi	4051-4059頁
高精細な細胞運動制御および観察に向けた培養基板へのマイクロパターン形成手法の確立 (査読付)	共著	2011年 4月	IEEJ Trans EIS 131(4)	Michiko Sugawara, Wonjun Choi, Jun Nakanishi, Kazuo Yamaguchi, Hideo Yokota, Tohru Yagi	833-839頁

Crystallization Behavior and Crystal Orientation of Poly(ϵ -caprolactone) Homopolymers Confined in Nanocylinders: Effects of Nanocylinder Dimension, Macromolecules (査読付)	共著	2012年 2月	Macromolecules 45(4)	Shintaro Nakagawa, Ken-ichi Kadena, Takashi Ishizone, Shuichi Nojima, Takafumi Shimizu, Kazuo Yamaguchi, Seiichi Nakahama	1892-1900頁
Switchable adhesive substrates: Revealing geometry dependence in collective cell behavior (査読付)	共著	2012年 3月	Biomaterials 33(8)	Claudio G. Rolli, Hidekazu Nakayama, Kazuo Yamaguchi, Joachim P. Spatz, Ralf Kenkemer, Jun Nakanishi	2409-2418頁
Spatiotemporally Controlled Navigation of Neurite Outgrowth in Sequential Steps on the Dynamically Photo-Patternable Surface (査読付)	共著	2012年11月	Colloids and Surfaces B: Biointerfaces 99	Yoshikuni Edagawa, Jun Nakanishi, Kazuo Yamaguchi, Naoya Takeda	20-26頁
Crystallization Behavior of Poly(ϵ -caprolactone) Chains Confined in Nanocylinders: Effects of Block Chains Tethered to Nanocylinder Interfaces (査読付)	共著	2013年 3月	Macromolecules 46(6)	Shintaro Nakagawa, Takumi Tanaka, Takashi Ishizone, Shuichi Nojima, Yasuhiko Kakiuchi, Kazuo Yamaguchi, Seiichi Nakahama	2199-2205頁

Dynamic Substrate Based on Photocleavable Poly(ethylene glycol): Zeta Potential Determines the Capability of Geometrical Cell Confinement (査読付)	共著	2013年 6月	Langmuir 29(24)	Shingo Kaneko, Kazuo Yamaguchi, Jun Nakanishi	7300-7308頁
A Heterobifunctional Linker Bearing Azide-reactive Alkyne and Thiol-reactive Maleimide Connected with N-(2-nitrobenzyl)imide to Synthesize Photocleavable Diblock Copolymers (査読付)	共著	2013年 8月	Chem. Lett. 42(8)	Shota Yamamoto, Seiichi Nakahama, Kazuo Yamaguchi	791-793頁
A photoactivatable nanopatterned substrate for analyzing collective cell migration with precisely tuned cell-extracellular matrix ligand interactions (査読付)	共著	2014年 3月	PLOS ONE 9(3)	Yoshihisa Shimizu, Heike Boehm, Kazuo Yamaguchi, Joachim P. Spatz, and Jun Nakanishi	e91875頁
その他					
ケージド培養基板を用いた細胞極性の形成と観察	共著	2010年 5月	第71回分析化学討論会		

マイクロ相分離構造に由来するシリンダー状ナノ空間に拘束されたホモポリマーの結晶配向	共著	2010年 5月	第59回高分子年次大会		
ベンジル位の置換基が異なる光分解性2-ニトロベンジルエステル型シランカップリング剤から得られるSAMの評価	共著	2010年 9月	第59回高分子討論会		
光分解性6-ブロモ-7-ヒドロキシマリニルメチル誘導体を有する自己組織化単分子膜の作製	共著	2010年 9月	第59回高分子討論会		
表面開始リビングラジカル重合のための光分解性開始剤の開発	共著	2010年 9月	第59回高分子討論会		
2-ニトロベンジルエステル誘導体の光分解に対するベンジル位の置換基効果	共著	2011年 3月	日本化学会第91春季年会		
光分解性部位を持つデンドロンの自己組織化単分子膜の評価	共著	2011年 3月	日本化学会第91春季年会		
ケージド培養基板を用いた細胞極性の形成と観察	共著	2011年 5月	第71回分析化学討論会		
シリンダー状ナノ空間に拘束されたホモポリマー/ブロック鎖混合系の結晶化挙動	共著	2011年 5月	第60回高分子年次大会		
ポリエチレンオキシド鎖とポリプロピレンオキシド鎖からなる光分解性トリブロックコポリマーの合成	共著	2011年 5月	第60回高分子年次大会		

光分解性6-プロモ-7-ヒドロキシクマリニルメチル誘導体を有する自己組織化単分子膜の作製と評価	共著	2011年 5月	第60回高分子年次大会		
光分解性ブロックコポリマー合成のためのヘテロ二価性架橋剤の開発	共著	2011年 5月	第60回高分子年次大会	山本翔太、細田舞、伊藤倫子、中浜精一、山口和夫	
様々な大きさのシリンダー状ナノ空間中に拘束されたホモポリマーの結晶化	共著	2011年 5月	第60回高分子年次大会		
光分解性部位を持つデンドロンの自己組織化単分子膜の調製と性質	共著	2011年 8月	日本化学会第5回関東支部大会		
カイコ幼虫外皮蛋白質BMCP30の細胞接着活性の解析	共著	2011年 9月	日本動物学会第82回旭川大会		
クリックケミストリーによりポリエチレンオキシド鎖とポリプロピレンオキシド鎖を連結した光分解性トリブロックコポリマーの合成	共著	2011年 9月	第60回高分子討論会		
ケージド培養基板の細胞接着性変換能向上のための検討	共著	2011年 9月	第60回高分子討論会		
ナノシリンダー中に拘束されたホモポリマー/ブロック鎖ブレンドの結晶化	共著	2011年 9月	第60回高分子討論会		

ナノシリンダー中に拘束されたホモポリマーの結晶化挙動と結晶配向;ナノシリンダーの大きさの効果;	共著	2011年 9月	第60回高分子討論会		
ヘテロ二価性架橋剤で連結された光・熱応答性ブロックコポリマーの合成と評価	共著	2011年 9月	第60回高分子討論会		
両末端にアルキンとスクシンイミジルカーボネートを有する光分解性2-ニトロフェネチルリンカーを用いた自己組織化単分子膜の調製と評価	共著	2011年 9月	第60回高分子討論会		
光分解性2-ニトロベンジル基で連結した2-ブロモイソ酪酸エステルを含むシランカップリング剤の合成とそれを開始剤として用いたポリマーブラシの作製	共著	2011年 9月	第60回高分子討論会		
光分解性6-ブロモ-7-ヒドロキシマリニルメチル誘導体を有する自己組織化単分子膜の評価	共著	2011年 9月	第60回高分子討論会		
鎖長の異なるスペーサーを持つ光分解性2-ニトロベンジルエステル型シランカップリング剤から得られる自己組織化単分子膜の評価	共著	2011年 9月	第60回高分子討論会		

N-(2-nitrobenzyl)imideを有するヘテロ二価性架橋剤を用いた光分解性ジブロックコポリマーの合成と評価	共著	2011年11月	第20回ポリマー材料フォーラム		
アルキンとスクシンイミジルカーボネートを用いた光分解性2-ニトロフェネチルリンカーを用いた自己組織化単分子膜の調製と評価	共著	2011年11月	第1回CSJ化学フェスタ		
ケージド細胞培養基板のための感光性シランカップリング剤の開発	共著	2011年11月	第20回ポリマー材料フォーラム		
表面修飾のための2-ニトロベンジルエステルの置換基効果	共著	2011年11月	神奈川県ものづくり技術交流会		
2-ニトロベンジルエステル誘導体の光分解に対するベンジル位の置換基効果	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会		
アルコキシ置換基を有する光分解部位を持つデンドロンの自己組織化単分子膜の調製と性質	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会		
活性エステルと光分解性基を持つ置換ポリヒドラルオリゴマリックシルセスキオキサンの合成	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会		
アミン及びアジドの固定化と光放出可能な2-ニトロフェネチルリンカーに基づく自己組織化単分子膜の調製と評価	共著	2012年 5月	第61回高分子年次大会		

光分解性2-ニトロベンジルエステル型シランカップリング剤を用いた自己組織化単分子膜の調製と表面状態の解析	共著	2012年 5月	第61回高分子年次大会		
光分解性2-ニトロベンジルカルバメートで連結した2-ブロモイソ酪酸エステルを含むシランカップリング剤の合成とそれを開始剤として用いたポリマーブラシの作製	共著	2012年 5月	第61回高分子年次大会		
光分解性基で連結されたポリ (N-イソプロピルアクリルアミド)-b-ポリ (エチレンジリコール) からなる光・熱応答性ポリマーミセルの評価	共著	2012年 5月	第61回高分子年次大会		
様々な大きさのナノシリンドー中に拘束されたホモポリマー/ブロック鎖ブレンドの結晶化挙動	共著	2012年 5月	第61回高分子年次大会		
Formation of photosensitive self-assembled monolayer prepared from silane coupling agents and surface state analysis	共著	2012年 9月	IUMRS-ICEM 2012		

Preparation and characterization of the self-assembled monolayer capable of the catch and photorelease of amine and azide via a 2-nitrophenethyl linker	共著	2012年 9月	IUMRS-ICEM 2012		
ナノ空間内に拘束された高分子鎖の結晶化挙動に及ぼす鎖末端固定の効果	共著	2012年 9月	第61回高分子討論会		
ポリ(N-イソプロピルアクリルアミド)を有する光・熱応答性ジブロックコポリマーからなるポリマーミセルの評価	共著	2012年 9月	第61回高分子討論会		
ポリエチレングリコール鎖とポリプロピレンオキシド鎖からなる光分解性ABA型トリブロックコポリマーの合成と表面修飾剤としての応用	共著	2012年 9月	第61回高分子討論会		
二本鎖のフッ化アルコキシ基で置換された2-ニトロベンジルエステル型光分解性シランカップリング剤により形成された自己組織化単分子膜の評価	共著	2012年 9月	第61回高分子討論会		

光分解性2-ニトロフェネチルリンカーを用いた自己組織化単分子膜の調製と表面状態及び光放出能の解析	共著	2012年 9月	第61回高分子討論会		
光分解性2-ニトロベンジル基を有するシランカップリング剤を用いた表面開始ATRP によるポリマーブラシの作製とそのパターンニング	共著	2012年 9月	第61回高分子討論会		
光分解性6-ブロモ-7-ヒドロキシクマリニルメチルエステルを有するシランカップリング剤を用いた自己組織化単分子膜の調製と評価	共著	2012年 9月	第61回高分子討論会		
光分解性ヘテロ二価性架橋剤で連結されたポリtert-ブチルアクリレートとポリエチレングリコールからなる両親媒性ジブロックコポリマーの合成と評価	共著	2012年 9月	第61回高分子討論会		
2-ニトロベンジルエステル誘導体の光分解に対するベンジル位の置換基の効果	共著	2012年10月	第2回CSJ化学フェスタ		
光・熱応答性ジブロックコポリマーからなるポリマーミセルの解析	共著	2012年11月	第21回ポリマー材料フォーラム		
光分解性2-ニトロフェネチルリンカーを用いたパターン化基板の作製	共著	2012年11月	第21回ポリマー材料フォーラム		

光分解性2-ニトロベンジル基を有するポリマーブラシの作製とそのパターンニング	共著	2012年11月	第21回ポリマー材料フォーラム		
Characterization of polymeric micelle consisting of photo- and thermoresponsive diblock copolymer	共著	2012年12月	IPC2012		
Synthesis and Application for Surface Modification of Silane Coupling Agents containing Photodegradable 6-Bromo-7-hydroxycoumarinylmethyl Ester	共著	2012年12月	IPC2012		
2-ニトロベンジルエステル誘導体の光分解速度に対する α 位の置換基及び脱離基の影響	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会		
2-ニトロベンジルエステル型光分解性シランカップリング剤により形成された自己組織化単分子膜のパターンニング	共著	2013年 5月	第63回高分子年次大会		
クリック反応で固定化した光分解性6-ブロモ-7-ヒドロキシクマリンメチルエステルを有する自己組織化単分子膜の調製と評価	共著	2013年 5月	第63回高分子年次大会		
ラメラ状ナノ空間に拘束された高分子鎖の結晶化挙動	共著	2013年 5月	第62回高分子年次大会		

両末端にアルキンとスクシンイミジルカーボネートを有する光分解性2-ニトロフェネチルリンカーを用いたシランカップリング剤の合成と表面修飾	共著	2013年 5月	第63回高分子年次大会		
光・熱応答性ジブロックコポリマーからなる高分子集合体の解析	共著	2013年 5月	第63回高分子年次大会		
孤立ナノ空間内での高分子鎖の結晶化挙動に与える末端固定の効果	共著	2013年 5月	第62回高分子年次大会		
ドラッグデリバリーシステムを指向した光応答性高分子集合体の構造最適化	共著	2013年 7月	第23回バイオ高分子シンポジウム		
光応答性基板を用いた細胞集団移動のナノアーキテクトニクス	共著	2013年 7月	第23回バイオ高分子シンポジウム		
ω -位を官能基化あいたリンカーで修飾されたジオキセタン型化学発光化合物	共著	2013年 9月	2013年光化学討論会		
ポリエチレングリコールとポリプロピレンオキシドをクリック反応により連結した光分解性ABA型トリブロックコポリマーの合成	共著	2013年 9月	第62回高分子討論会		
マイクロ相分離構造中での高分子の結晶化	共著	2013年 9月	第62回高分子討論会		

光分解性2-ニトロフェネチルリンカーを用いた無機材料表面への修飾方法の違いによる表面状態及び光放出能の比較	共著	2013年 9月	第62回高分子討論会		
光分解性2-ニトロフェネチルリンカーを用いた無機材料表面への修飾方法の違いによる表面状態及び光放出能の比較	共著	2013年 9月	第62回高分子討論会		
光分解性6-ブロモ-7-ヒドロキシマリニルメチルエステルを有する自己組織化単分子膜の調製と評価	共著	2013年 9月	第62回高分子討論会		
光分解性ヘテロ二価性架橋剤で連結されたpoly(ϵ -caprolactone)とpoly(ethylene glycol)からなる両親媒性ジブロックコポリマーの合成	共著	2013年 9月	第62回高分子討論会		
有機薄膜トランジスタのための2-ニトロベンジルカルバメート型光応答性自己組織化単分子膜の調製と評価	共著	2013年 9月	第62回高分子討論会		
有機薄膜トランジスタ作製のためのペンタフルオロフェニル基を末端にもつ感光性自己組織化単分子膜の調製と評価	共著	2013年 9月	第62回高分子討論会		

様々な形状・大きさのナノ空間内に拘束された高分子鎖の結晶化に及ぼす鎖末端固定の影響	共著	2013年 9月	第62回高分子討論会		
疎水性鎖の長さが異なる光分解性ジブロックコポリマーから調製されたポリマーソームの特性比較	共著	2013年 9月	第62回高分子討論会		
光分解性基を持つポリマーブラシ作製の最適条件の探求	共著	2013年10月	平成25年神奈川県ものづくり技術交流会		
光分解性部位を持つデンドロン自己組織化単分子膜の調製と性質	共著	2013年10月	平成25年神奈川県ものづくり技術交流会		
感光性表面修飾剤の開発	共著	2013年10月	平成25年神奈川県ものづくり技術交流会		
光分解性ヘテロ二価性架橋剤で連結された両親媒性ジブロックコポリマーの合成と評価	共著	2013年11月	第22回ポリマー材料フォーラム		
無機材料表面への光分解性2-ニトロフェネチルリンカーの導入と評価	共著	2013年11月	第22回ポリマー材料フォーラム		
α 位にイソプロピル基を導入した4,5-ジメトキシ-2-ニトロベンジルエステル誘導体の光分解反応	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
	個人研究 カルボン酸型合成イオノホアの構造解析				
	個人研究 光分解性の保護基を持つシランカップリング剤を用いた無機固体表面の修飾				

	個人研究 光分解性リポソームの開発
1975年 1月～現在に至る	日本化学会(国内学会)会員
1975年 4月～現在に至る	有機合成化学協会(国内学会)会員
1978年 7月～現在に至る	高分子学会(国内学会)会員
1981年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 800,000円 「奨励研究A」 生体反応をモデルとした亜リン酸イミドイルエステルを用いるペプチド合成反応
1982年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 900,000円 「奨励研究A」 カチオン重合によるブロックコポリマーの合成
1985年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 800,000円 「奨励研究A」 高分子担持光学活性触媒によるカルボニル化合物の不斉還元反応
1987年～現在に至る	その他の補助金・助成金(財団法人守谷育英会研究助成金)800,000円 生体膜類似の表面構造をもつ高分子コロイドの合成(研究代表者)
1988年 1月～現在に至る	アメリカ化学会(国内学会)会員
1989年～現在に至る	その他の補助金・助成金(社団法人新化学発展協会研究奨励金)1,500,000円 リン脂質LB膜の面内配列制御法(研究代表者)
1989年～現在に至る	その他の補助金・助成金(第二回日写学術奨励資金)1,700,000円 ポリマー表面上への反応性基の導入位置制御(研究代表者)
1989年～現在に至る	その他の補助金・助成金(財団法人岩谷直治記念財団第16回岩谷科学技術助成金)1,900,000円 ポリマー表面の分子配列制御法(研究代表者)
1989年～現在に至る	その他の補助金・助成金(財団法人松籙化学技術振興財団第7回研究助成金)1,000,000円 末端にリン脂質を持つテレケリックポリマーによる生体膜と類似の表面構造を持つ材料の作製(研究代表者)
1991年～現在に至る	その他の補助金・助成金(中基研究奨励会研究助成金)900,000円 光分解性マイクロカプセルの開発(研究代表者)
2010年 4月～2011年 3月	その他の補助金・助成金(神奈川県)1,250,000円 「バイオ関連研究シーズ時事業化促進事業」ケージド細胞培養基板のための感光性表面修飾剤の開発(研究代表者)
2010年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 1,500,000円 「基盤研究(C)」感光性自己組織化単分子膜の高機能化と有機薄膜トランジスタ作製への応用(研究代表者)
2010年11月～2011年10月	その他の補助金・助成金(科学技術振興機構)8,000,000円 「研究成果最適展開支援事業(A-STEP) フィージビリティ(FS)・ステージ シーズ顕在化タイプ」感光性シランカップリング剤を用いたケージド細胞培養基板の実用化(研究分担者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部化学科	職名 教授	氏名 天野 力	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
学生による授業アンケート		2005年 4月 1日 ～現在に至る	授業アンケートの結果に基づいて、毎年講義するテーマのうち主要なものだけを残して丁寧に解説するようにし、また視覚メディアの使用も増やしている。		
思考レベルでの授業参加		2005年 4月 1日 ～現在に至る	問題解決能力を養うことを狙いとして、学生に模擬授業をさせている。授業をする学生には、問題、問題の解き方、答え、図と数式、重要な学術用語を解説させている。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
教員による授業評価		2008年 4月 1日 ～現在に至る	本学科と他学科の教員による授業参観および評価を受け、優の評価を受けた。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
湘南ハイテクセミナー		1998年 4月 1日 ～現在に至る	企業の若手研究者に対して機器分析、特にNMRの講義をしている。		
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
化学の魅力	共著	2010年 7月	(神奈川大学入門テキストシリーズ・お茶の水書房)	天野 力、木原伸浩、川本達也、平田善則、森 和亮	

論文					
Reaction rate constant as indicator of antioxidative activity of substances against hydroxyl radicals produced by Fenton's system (査読付)	共著	2010年 6月	Science Journal of Kanagawa University 21(1)	Chikara Amano, Kazuya Shinmura and Yasuno Nakajima	1-6頁
Shielded Lennard-Jones Potentials and the Crossover of Structures of Rare Gas Clusters	共著	2011年 6月	Science Journal of Kanagawa University 22	Chikara Amano, Yosuke Mikami、Shinji Mochizuki	1-7頁
Crystal Structure of Rare-Gas and Shielded Lennard-Jones Potential	単著	2014年 7月	Science Journal of Kanagawa University 25(1)		57-62頁
その他					
銀ナノ粒子の構造と紫外可視透過スペクトル	共著	2010年 9月	日本分析化学会第58回年会予稿集	濱田晋之介、天野 力	210頁
読書のススメ		2011年 5月	『化学』(化学同人)(5月号)		62頁
ペンタノールクラスターの振動数と構造	共著	2011年 9月	日本分析化学会第60年会要旨集	鈴木智弘	346(Y1004)頁
銀ナノ粒子の電子回折と紫外可視分光	共著	2011年 9月	日本分析化学会第60年会要旨集	濱田晋之介	86(D2008Y)頁
ペンタノールクラスターのIRとNMR	共著	2012年 9月	日本分析化学会第61年会講演要旨集	鈴木智弘、天野 力	

OHラジカルに対する高抗酸化性；アリルアミンとジメチルヒドラジン	共著	2013年11月	「グリーン/ライフイノベーション拠点の形成」報告書（神奈川大学）	飯田恭平、戸田浩彰、天野力	941頁
酸化チタン(IV)ナノ粒子の光触媒反応機構	共著	2013年11月	「グリーン/ライフイノベーション拠点の形成」報告書（神奈川大学）	小西正朗、天野力	941頁
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		国内共同研究 金コロイド粒子の色と大きさ			
		機関内共同研究 抗酸化能のESRによる研究			
		機関内共同研究 水素結合とメタノールクラスター			
1968年 4月～現在に至る		日本化学会(国内学会)会員			
1974年 4月～現在に至る		日本物理学会(国内学会)会員			
1988年12月～現在に至る		日本分析化学会(国内学会)会員			
1994年 1月～現在に至る		日本情報知識学会(国内学会)会員			
1995年 4月～現在に至る		個人研究 クラスター・ナノ粒子の構造と光学的性質			
1995年 4月～現在に至る		個人研究 物質の抗酸化性			
2000年 4月～現在に至る		個人研究 希ガスクラスターおよび結晶構造の分子動力学シミュレーション			
2005年 4月～現在に至る		アメリカ化学会(国際学会)会員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部化学科	職名 教授	氏名 西本 右子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
基礎無機分析化学授業法の改良		2008年 9月 ～現在に至る	学生の授業アンケートを受けて、教材を教科書からプリントへ変更		
2 作成した教科書、教材					
循環型社会論、授業資料の作成		2008年 9月 ～現在に至る	新規開講授業(複数担当)の資料をまとめ、製本した。これにより担当外の教員の教育内容等の情報交換ができた。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
高分子分析入門(査読付)	共著	2010年 4月	(講談社)		
基礎からわかる無機化学	共著	2010年12月	(丸善)	西本右子、小棹理子	
基礎からわかる 水の応用光学	共著	2011年 4月	(日刊工業新聞社)		183-189頁
実用プラスチック分析(査読付)	共著	2011年 5月	(オーム社)	西岡利勝・寶崎達也編	p83-96, p476-483頁
改訂6版 分析化学便覧		2011年 9月	(丸善)		p731-736頁

分析化学用語辞典 日本分析化学会編		2011年10月	(オーム社)		
高分子材料の耐久性・信頼性試験 ノウハウ集		2012年 1月	(技術情報協会) 第3章第2節 1. 高分子の水による劣化とそのメカニズム		p99-108頁
透明性を損なわないフィルム・コーティング剤への機能付与		2012年11月	(技術情報協会)		
ベーシックマスター分析化学 (査読付)	共著	2013年 8月	(オーム社)		p338-351頁
気泡・ボイドの発生メカニズムと未然防止・除去技術		2014年 2月	(技術情報協会)		p173-175頁
高分子における劣化・破壊現象の写真・データ事例集		2014年 3月	(技術情報協会)		p71-75頁
最新材料の性能・評価技術 (査読付)		2014年 5月	(産業技術サービスセンター)		319-324, 333-336頁
これだけ！分析化学	単著	2015年 2月	(秀和システム)		
論文					
スキマーインターフェースで接続した[TG/DTA]/[イオン付着イオン化-TOFMS]による高分子材料からの熱分解発生ガスのモニタリング (査読付)	共著	2011年 3月	分析化学 60(3)	三島有二、吉田宏美、樋野賢治、小貫聖美、津越敬寿、齋藤直昭、西本右子	261-268頁
熱可逆性ゲル中の水の状態分析 (査読付)	共著	2011年 3月	分析化学 60(3)	西本右子、飯高佑一、柴田健一、相川徹	223-228頁
ソフトイオン化質量分析法と多変量解析法を用いる植物油脂の定性分析 (査読付)	共著	2011年 5月	分析化学 60(5)	三島有二他	409-417頁

4種のアミノ酸とグルタチオンに対する次亜塩素酸の作用と殺菌効果	共著	2011年11月	防菌防黴 39(11)	安富真央、岩沢篤郎、西本右子	673-677頁
ゴム・プラスチックのDSC, TGを用いたJIS (査読付)	単著	2012年 1月	熱測定 39(1)		22-26頁
各種機能水の評価法について	単著	2012年10月	グリーンテクノロジー 22(10)		35-38頁
特殊土砂分離剤の微細構造解析	共著	2013年 6月	Science Journal of Kanagawa University 24	張、西本、本城、久慈	101-104頁
Current Status and Application of Woodceramics Made from Biomass (査読付)	共著	2013年 7月	Trans. Mat. Res. Soc. Japan 38(2)	.Okabe, K. Kakishita, H. Simizu, K. Ogawa, Y. Nishimoto, A. Takasaki, T. Suda, M. Fushitani, H. Togawa, M. Sato, r. Yamamoto	191-194頁
環境水からのホウ素及び稀少元素の分離を目的とした試薬フリーな分離濃縮システム	共著	2013年 7月	Science Journal of Kanagawa University 24	澤田、清水、武井、鈴木、金沢、西本	41-46頁
Water State in Methyl cellulose Thermo Reversible Hydrogels Containing Salt and Polyethylene Glycol (査読付)	共著	2013年12月	Trnas. Mat. Res. Soc. Japan 38(4)	Y. Uehara, E. Shimoda, Y. Iitaka, Y. Nishimoto	589-592頁
天然砥石の種類・産地推定法に関する一考察ー溜池遺跡出土砥石(鳴滝砥)の成分分析結果ー (査読付)	共著	2014年 3月	古代文化研究 (22)	高岡真美、西本右子、青柳佑希	75-83頁
地球環境保護に貢献する多孔質炭素材料ウッドセラミックス (査読付)	共著	2014年 4月	J. Life Cycle Assesment, Japan 10(2)	岡部、柿下、西本、清水、高崎、佐藤、須田、伏谷、山本	

考古資料・歴史資料の 元素分析（査読付）	単著	2014年 9月	Scientific Instrument News 57(2)		4894-4900頁
その他					
VOC吸脱着特性に対す るウッドセラミックス の表面処理の影響	共著	2010年 5月	第71回分析化学討論会	小貫聖美、高山与樹、津越敬寿 、岡部敏弘、西本右子	
イオン付着イオン化質 量分析装置を用いた植 物油脂のスクリーニン グ分析法の検討	共著	2010年 5月	第71回分析化学討論会	三島有二、大西直美、津越敬寿 、斉藤直昭、西本右子	
環境水中のホウ素除去 を目的とした基礎検討 3－凍結・融解過程で の元素濃縮－	共著	2010年 5月	第71回分析化学討論会	清水秀世、鶴田雄介、西本右子	
電解水とアミノ酸と野 相互作用 4－pHの影響 －	共著	2010年 5月	第71回分析化学討論会	安富真央、内海恭兵、岩沢篤郎 、西本右子	
高分子の水・湿度によ る変色・劣化と分析・ 評価技術	単独	2010年 5月	粘着研究会第115回例会（ 東京）		
高分子の水・湿度によ る変色・劣化と分析・ 評価技術（査読付）	単著	2010年 5月	塗装工学 45(5)		189-195頁
Development of New Concept Thermal Analysis Apparatus using TG-DTA and Soft Ionization TOFMS Connected with Skimmer Interface	共著	2010年 8月	ESTAC 2010	Takahisa TSUGOSHI, Yuji MISHIMA, Naoaki Saito, Yuko NISHIMOTO	

Round Robin Test on Validation of Cyclohexane as a Reference Material for Calibration of Differentia Scanning Calorimeter	共著	2010年 8月	ICCT2010	Y. Shimizu, R. Ozao, H. Kawaji, T. Kimura, N. Koga, Y. Sawada, Y. Nishimoto, A. Yamazaki, H. yoshida	
VOC-Adsorption and Desorption Properties of Woodceramics Prepaered from Ceder Waste	共著	2010年 8月	ICCT2010	Yuko Nishimoto, Satomi Onuki, Takahisa Tsugoshi, Toshihiro Okabe	
Water State Analysis in Envilonmental Compatible Thermo Reversible Hydrogels	共著	2010年 8月	ICCT2010	Yuko Nishimoto, Yuichi Iitaka, Itsuro Takenoshita, Toru Aikawa	
TG/DTA -スキマー型インターフェース接続-IA/TOF-MS装置の試作	共著	2010年 9月	日本分析化学会第59年会	津越敬寿、三島有二、齋藤直昭、西本右子	
イオン付着イオン化質量分析法と多変量解析技術による植物油脂の異同識別法の検討	共著	2010年 9月	日本分析化学会第59年会	三島有二、大西直美、丸山はる美、樋野賢治、津越敬寿、齋藤直昭、小貫聖美、西本右子、三井利幸	
イオン付着イオン化質量分析装置を用いた擬分子イオンスペクトルパターンからの植物油脂の特性評価法の検討	共著	2010年 9月	日本油化学会第49回年会	三島有二、大西直美、丸山はる美、樋野賢治、津越敬寿、齋藤直昭、小貫聖美、西本右子、三井利幸	
寛永通寶の成分分析	共著	2010年 9月	日本分析化学会第59年会	西本右子、石塚香織、梅崎恵司	
有効塩素を含有する電解水の殺菌機構に関する基礎研究-グルタチオンとの相互作用-	共著	2010年 9月	日本分析化学会第59年会	安富真央、岩沢篤郎、西本右子	

表面処理ウッドセラミックスのVOC吸脱着特性評価	共著	2010年 9月	第46回熱測定討論会	小貫聖美、高山与樹、津越敬寿、岡部敏弘、西本右子	
VOC吸脱着特性に対するウッドセラミックスの調製条件の検討	共著	2010年 9月	日本分析化学会第59年会	高山与樹、小貫聖美、岡部敏弘、津越敬寿、西本右子	
Analytical study on boron separation of environmental water	共著	2010年12月	20th academic Symposium of MRS-Japan 2010	H. Shimizu, Y. Nishimoto	
Detection of Water-Polyethhtlene Glycol Interaction Using Melting of a Eutectic	共著	2010年12月	20th Academic Symposium of MRS-Japan 2010	M. Inaba, Y. Uehara, Y. Nishimoto	
Influence of Carbonized Temperature on VOC-Adsorption and Desorption Properties of Woodceramics Prepared from Cedar	共著	2010年12月	20th Academic Symposium of MRS-Japan 2010	S. Onuki, S. Yamada, Y. Takayama, T. Tsugoshi, T. Okabe, Y. Nishimoto	
Influence of salt on interaction water-solble polymer and water	共著	2010年12月	ICPAC2010	NISHIMOTO, Yuko; INABA, Mayumi; UEHARA Uzuru; SHIMOZU Hideyo	
Interaction between Amino acids and Hypochlorous acid 2	共著	2010年12月	20th Academic Simposium of MRS-Japan 2010	M. Yasutomi, A. Iwasawa, Y. Nishimoto	
Interaction between amino acids and hypochlorous acid in the functional water	共著	2010年12月	Pacificchem 2010	M. Yasutomi, A. Iwasawa, Y. Nishimoto	

Interaction of hydrophilic polymer and water containing salt	共著	2010年12月	ICPAC2010	NISHIMOTO, Yuko; UEHARA, Yuzuru; INABA, Mayumi; SHIMIZU, Hideyo	
Screening technique for discrimination of vegetable oils using ion attachment ionization mass spectrometry	共著	2010年12月	Pacificchem 2010	T. Tsugoshi, Y. Mishima, S. Onuki, Y. Nishimoto, N. Saito	
VOC-adsorption and desorption properties of Oga Tan and Woodceramics prepared from Oga Tan	共著	2010年12月	20th Academic Symposium of MRS-Japan 2010	Y. Takayama, S. Onuki, T. Tsugoshi, T. Okabe, Y. Nishimoto	
VOC-Adsorption and Desorption Properties of Woodceramics Prepared from Cedar Waste	共著	2010年12月	Pacificchem 2010	S. Onuki, T. Okabe, T. Tsugoshi, Y. Nishimoto,	
Water state analysis in environmental compatible thermo reversible hydrogels	共著	2010年12月	Pacificchem 2010	Y. Nishimoto, Y. Iitaka, I. Takenoshita, T. Aokawa	
Water State in Methylcellulose Thermo Reversible Hydrogels Containing Salt	共著	2010年12月	20th Academic Symposium of MRS-Japan2010	Y. Uehara, M. Inaba, Y. Nishimoto	
バイオマスの炭化によるバイオコンポジット-ウッドセラミックスの現状と将来展望-	共著	2011年 2月	材料 60(2)	岡部敏弘、柿下和彦、清水洋隆、 西本右子、高崎明人、須田敏和、 伏谷賢美、山本良一	175-181頁

リンゴウッドセラミックス	共著	2011年 2月	セラミックス 46(2)	岡部敏弘、小川和彦、柿下和彦、清水弘隆、西本右子、高崎明人、須田敏和、山本良一	122-124頁
未利用資源の活用例： ウッドセラミックス	共著	2011年 2月	コンバーテック (2011-2)	岡部敏弘、柿下和彦、清水洋隆、須田敏和、小川和彦、西本右子、高崎明人、伏谷賢美、戸川斎、山本良一	95-100頁
オガ炭及びオガウッドセラミックスのVOC吸脱着特性	共著	2011年 3月	日本化学会第91回春季年会	高山与樹、小貫聖美、岡部敏弘、津越敬寿、西本右子	
スギウッドセラミックスのVOC吸脱着特性に対する焼成温度の影響 2	共著	2011年 3月	日本化学会第91回春季年会	小貫聖美、山田早季、岡部敏弘、西本右子	
スギウッドセラミックスのVOC吸脱着特性に対する焼成温度の影響	共著	2011年 3月	日本化学会第91回春季年会	小貫聖美、山田早季、岡部敏弘、津越敬寿、西本右子	
ポリエチレングリコールと水の相互作用に対する塩の影響	共著	2011年 3月	日本化学会第91回春季年会	稲葉真由美、上原弓弦、西本右子	
メチルセルロースヒドロゲル中の水の状態に対する塩の影響	共著	2011年 3月	日本化学会第91回春季年会	上原弓弦、稲葉真由美、西本右子	
次亜塩素酸を含有する電解水の殺菌機構に関する基礎検討ーアミノ酸との相互作用ー	共著	2011年 3月	日本化学会第91回春季年会	安富真央、村岡光、岩澤篤郎、西本右子	
環境水中のホウ素除去を目的とした基礎検討 4	共著	2011年 3月	日本化学会第91回春季年会	清水秀世、山本航平、西本右子	
Influence of salt on interaction water-soluble polymer and water	共著	2011年 5月	ICAS 2011	Y. NISHIMOTO, M. INABA, Y. UEHARA, H. SHIMIZU	

Interaction of hydrophilic polymer and water containing salt	共著	2011年 5月	ICAS 2011	Y.Nishimoto, Y.Uehara, M. Inaba, H. Shimizu	
Polymer characterization using skimmer interface/connected [TG/DTA]/[Ion attachment ionization-TOFMS]	共著	2011年 5月	ICAS 2011	T. Tsugoshi, Y. Mishima, S. Onuki, N. Saito, Y. Nishimoto	
The interction of amino acid with hydrochlous acid and their bactericidal effects	共著	2011年 5月	ICAS 2011	M. Yasutomi, H. Muraoka, A. Iwasawa, Y. Nishimoto	
VOC-Adsorption and Desorption Properties of Woodceramics	共著	2011年 5月	ICAS 2011	S. Onuki, Y. Takayama, S. Yamada, T. Tsugoshi, T. Okabe, Y. Nishimoto	
高分子と水の関係を熱分析で探る	単独	2011年 5月	分析化学会高分子分析研究懇談会第357例会(東京)		
エコマテリアルとしての機能水、その評価法	単独	2011年 6月	スーパーコンポジット研究会 第3回討論会(東京)		
Influence of carbonized temperature on VOC-Adsorption and Desorption Properties of Woodceramics Prepaared fron Cedar	共著	2011年 8月	CATS 2011	S. Onuki, S. Yamada, T. Tsugoshi, T. Okabe, Y. Nishimoto	

Influence of UV irradiation on the thermal properties of PVA	共著	2011年 8月	CATS 2011	Y.Uehara, S.Yamada, T.Tsugoshi, Y.Nishimoto	
スキマーインターフェース接続 {TG-DTA}/{IA-TOFMS} 装置による樹脂試料の分析	共著	2011年 9月	日本分析化学会第60年会	津越、三島、吉田、齋藤、西本、樋野	
ソフトイオン化質量分析のための多変量解析技術（異同識別）の検討	共著	2011年 9月	日本分析化学会第60年会	三島、吉田、津越、齋藤、西本	
木材及び古紙を原料とした多孔質炭素材料ウッドセラミックスの室内空気汚染対策への応用	単著	2011年 9月	エコマテリアルフォーラムワークショップ「バイオマス資源を用いた循環型処理技術」		
次亜塩素酸を含有する電解水の殺菌機構に関する基礎検討ーペプチドとの相互作用ー	共著	2011年 9月	日本分析化学会第60年会	安富真央、佐々木雄也、岩沢篤郎、西本右子	
熱分析研究懇談会設立に当たって	共著	2011年 9月	日本分析化学会第60年会	藤枝修子、西本右子	
静電霧化により生成した微小水滴中の活性酸素種とにおい物質への影響 2	共著	2011年 9月	日本分析化学会第60年会	高山与樹、内海恭兵、稲垣純、田中史子、西本右子	
EGA-IA QMSとTG-DTA/IA-TOF MSによるウッドセラミックスのVOC脱離過程の検討	共著	2011年10月	第47回熱測定討論会講演要旨集	西本、小貫、三島、津越、岡部	
ウッドセラミックスのVOC吸脱着特性に対する紫外線照射の影響	共著	2011年10月	第47回熱測定討論会講演要旨集	山田、高山、小貫、岡部、津越、西本	

ソフトイオン化質量分析のための多変量解析技術の検討	共著	2011年10月	第16回高分子分析討論会講演要旨集	三島、吉田、津越、齋藤、西本、三井	
ポリエチレングリコール塩-水系の水の状態分析	共著	2011年10月	第16回高分子分析討論会講演要旨集	稲葉、上原、西本	
メチルセルロースヒドロゲルに対する塩の影響	共著	2011年10月	第16回高分子分析討論会講演要旨集	上原、稲葉、西本	
紫外線照射高分子の熱分解過程	共著	2011年10月	第47回熱測定討論会講演要旨集	上原、山田、津越、西本	
第47回熱測定討論会のホットトピックス	単著	2011年11月	第32回熱物性シンポジウム講演論文集		
Antibacterial activity, antidecay and anti-termite effects of Mokusaku Oil obtained by pyrolysis of wood	共著	2011年12月	第21回日本MRS学術シンポジウム2011	T. Okabe, K. Kakishita, H. Shimizu, T. Suda, K. Ogawa, Y. Nishimoto, A. Takasaki, H. Togawa, M. sato, M. Fushitani, R. Yamamoto	
Basic study for deodorization and bactericidal effects of fine water droplets generated by electrostatic atomization	共著	2011年12月	第21回日本MRS学術シンポジウム2011	K. Utsumi, Y. Takayama, M. Tani, J. Inagaki, F. Tanaka, Y. Nishimoto	
Detection on water-polyethylene glycol interaction using melting of a eutectic 2	共著	2011年12月	第21回日本MRS学術シンポジウム2011	M. Inaba, Y. Uehara, Y. Nishimoto	

Discrimination of polymers using skimmer interface connected [TG-DTA/IA-TOFMS] prototype apparatus	共著	2011年12月	第21回日本MRS学術シンポジウム2011	T. Tsugoshi, Y. Mishima, N. Saito, Y. Nishimoto	
Interaction between peptides and hypochlorous acid	共著	2011年12月	第21回日本MRS学術シンポジウム2011	M. Yasutomi, Y. Sasaki, A. Iwasawa, Y. Nishimoto	
The influence of pH on the hypochlorous acid on the action to amino acids and active oxygen generation	共著	2011年12月	第21回日本MRS学術シンポジウム2011	M. Yasutomi, K. Utsumi, Y. Sasaki, H. Iki, Y. Nishimoto	
VOC-adsorption and desorption properties of Oga Tan and woodeceramics prepared from Oga Tan 2	共著	2011年12月	第21回日本MRS学術シンポジウム2011	Y. Takayama, Y. Miyazaki, T. Tsugoshi, T. Okabe, Y. Nishimoto	
VOC-adsorption and desorption properties of woodceramics prepared from apple waste	共著	2011年12月	第21回日本MRS学術シンポジウム2011	S. Yamada, S. Onuki, Y. Takayama, T. Tsugoshi, T. Okabe, Y. Nishimoto	
Water state in methylcellulose thermo reversible hydrogels containing salt 2	共著	2011年12月	第21回日本MRS学術シンポジウム2011	Y. Uehara, E. Shimoda, Y. Nishimoto	
各種機能水の評価法について	単著	2012年 1月	高分子表面研究会		

機能水の分析	単著	2012年 2月	日本学術振興会 水の先端理工学 第183委員会 第8回講演会「水と機能性」		
ポリエチレングリコールと水の相互作用に対する塩の影響2	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 予稿集	稲葉真由美、中道修司、西本右子	
メチルセルロースヒドロゲル中の水の状態に対する塩の影響3	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 予稿集	上原弓弦、下田瑛太、西本右子	
メチルセルロースヒドロゲル中の水の状態に対する塩及びポリエチレングリコールの影響	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 予稿集	上原弓弦、下田瑛太、西本右子	
廃材を原料とする炭のVOC吸脱着特性と水蒸気賦活の影響	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 予稿集	山田早季、高山与樹、岡部敏弘、津越敬寿、西本右子	
次亜塩素酸のアミノ酸への作用に対するpHの影響-2	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 予稿集	佐々木雄也、安富真央、壺岐瞳、石川幸、西本右子	
次亜塩素酸を含有する電解水の殺菌作用に関する基礎検討-アミノ酸・ペプチドとの相互作用	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 予稿集	安富真央、佐々木雄也、岩沢篤郎、西本右子	
電解水中の活性酸素種とその測定法	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 予稿集	内海恭兵、安富真央、西本右子	
静電霧化により生成した微小水滴中の脱臭及び除菌効果に関する基礎検討2	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 予稿集	高山与樹、内海恭兵、谷実緒奈、稲垣純、田中史子、西本右子	
イオン付着イオン化質量分析法による樹脂製品中の添加剤のスクリーニング分析	共著	2012年 5月	第72回分析化学討論会講演要旨集(P2029)	三島、津越、齋藤、西本	

スキマーインターフェース接続 [TG/DTA]/[IA-TOFMS] による結束バンドの製品識別	共著	2012年 5月	第72回分析化学討論会講演要旨集(A1007)	三島、津越、西本、齋藤	
メチルセルロースヒドロゲル中の水の状態に対する塩及びポリエチレングリコールの影響 2	共著	2012年 5月	第72回分析化学討論会講演要旨集(P2143)	上原弓弦、下田瑛太、西本右子	
廃材を原料とする炭のVOC吸脱着特性に対する水蒸気賦活の影響	共著	2012年 5月	第72回分析化学討論会講演要旨集(P2012)	山田、高山、岡部、津越、西本	
次亜塩素酸を含有する電解水の殺菌機構に関する基礎検討ー各種アミノ酸との相互作用ー	共著	2012年 5月	第72回分析化学討論会講演要旨集(P2144)	安富真央、佐々木雄也、岩沢篤郎、西本右子	
水・湿度による高分子の変色・劣化と分析・評価技術	単著	2012年 5月	高分子材料の要因毎の劣化メカニズムと対策：技術情報協会セミナー		
40th NATAS Detection of Water State in Methylcellulose Thermo Reversible Hydrogels	単独	2012年 8月	(Orland FL, USA)		
Detection of Water State in Methylcellulose Thermo Reversible Hydrogels using Melting of a Eutectic	共著	2012年 8月	40th NATAS Proceedings	Yuko Nishimoto, Yuzuru Uehara, Yuichi Iitaka	

Investigation of VOC-adsorption and desorption properties of woodceramics using EGA-IA QMS and TG/DTA/IA-TOF MS	共著	2012年 8月	15th ICTAC abstract	Y.Nishimoto, Y.Takayama, Y.Mishima, T.Tsugoshi, T.Okabe	
Round Robin test on validation of cyclohexane as a reference materials for calibration of differential scanning calorimeter	共著	2012年 8月	15th ICTAC	Y. Shimizu, H. Abe, R. Ozao, H. Kawaji, S. Kidokoro, T. Kimura, N. Koga, Y. Sawada, Y. Nishimoto, A. Yamazaki, H. Yoshida, H. Kato	
Standarization working group of ICTAC-Reviews and Prospect	共著	2012年 8月	15th ICTAC	R. Ozao, Y. Shimizu, H. Abe, H. Kawaji, T. Kimura, N. Koga, Y. Sawada, Y. Nishimoto, A. Yamazaki, H. Yoshida, H. Kato	
VOC-adsorption and desorption properties of charcoal and steam activated charcoal prepared from apple waste and sawdust	共著	2012年 8月	15th ICTAC	S. Yamada, Y. Takayama, Y. Miyazaki, T. Tsugoshi, T. Okabe, Y. Nishimoto	
Water state in Methylcellulose Thermo Reversible Hydrogels Containing Salt and Polyethylene glycol	共著	2012年 8月	15th ICTAC	Y. Uehara, E. Shimoda, K. Shibata, Y. Nishimoto	
循環型ウッドセラミックスのVOC吸脱着特性評価	共著	2012年 8月	第48回熱測定討論会要旨集	山田、小貫、高山、岡部、津越、西本	

Analytical Study for Deodorization and Bactericidal Effects of Fine Water Droplets Generated by Electrostatic Atomization	共著	2012年 9月	IUMRS-ICEM2012	Y. Takayama, K. Utsumi, M. Tani, Y. Sasaki, J. Inagaki, F. Tanaka, Y. Nishimoto	
Polymer Discrimination Using Skimmer Interface-Connected [TG/DTA]/ [Ion Attachment Ionization-TOFMS]	共著	2012年 9月	IUMRS-ICEA 2012	T. Tsugoshi, Y. Mishima, Y. Nishimoto, N. Saito	
TG/PI-QMSによる樹脂製品分析・評価のためのデータ解析ソフトウェアの開発	共著	2012年 9月	日本分析化学会第61年会	三島、宮下、森、津越、齋藤、西茂呂、三井	
VOC-Adsorption and Desorption Properties of Charcoal and Woodceramics Prepared from Apple waste	共著	2012年 9月	IUMRS-ICEM2012	S. Yamada, Y. Takayama, S. Onuki, Y. Miyazaki, T. Okabe, T. Tsugoshi, Y. Nishimoto	
Water State in Methylcellulose Thermo Reversible Hydrogels Containing Salt and Polyethylene glycol	共著	2012年 9月	IUMRS-ICEM2012	Y. Uehara, S. Shimoda, Y. Nishimoto	
刀剣研磨に用いる天然砥石の成分分析	共著	2012年 9月	日本分析化学会第61年会	西本右子、高岡真美、山田早季、藤代興里、高橋一夫、岸証、友瀧満広	
廃材を原料とする炭のVOC吸脱着特性と水蒸気賦活の影響(2)	共著	2012年 9月	日本分析化学会第61年会	山田、高山、宮崎、岡部、津越、西本	

電解水中の活性酸素種とその測定法	共著	2012年 9月	日本防菌防黴学会第39年次大会	佐々木雄也、内海恭兵、岩沢篤郎、西本右子	
静電霧化により生成した微小水滴中の除菌及び脱臭効果に関する基礎検討	共著	2012年 9月	日本防菌防黴学会第39年次大会	佐々木雄也、内海恭兵、高山与貴、稲垣純、岩沢篤郎、西本右子	
TG/PI-QMSによる樹脂製品分析・評価のためのデータ解析ソフトウェアの開発	共著	2012年10月	第17回高分子分析討論会	三島、宮下、森、津越、齋藤、西本、三井	
メチルセルロースヒドロゲルに対する塩及びポリエチレングリコールの影響	共著	2012年10月	第17回高分子分析討論会	下田瑛太、上原弓弦、西本右子	
親水性高分子の熱特性に対する紫外線照射の影響	共著	2012年10月	第17回高分子分析討論会	西本右子、山田早季、下田瑛太、上原弓弦	
刀剣研磨に用いる天然砥石の分析	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会 3PB-160	青柳佑希、山田早季、高岡真美、西本右子	
廃材を原料とする炭及びウッドセラミックスのVOC吸脱着特性	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会 3PB-161	山田早季、白石拓人、岡部敏弘、津越敬寿、西本右子	
木綿炭のVOC吸脱着特性と水蒸気賦活の影響	共著	2013年 3月	日本化学会第93年会 3PB-159	山田早季、片岡裕介、齋藤圭佑、岡部敏弘、津越敬寿、西本右子	
次亜塩素酸のアミノ酸への作用に対するpHの影響-3	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会 3PB-169	佐々木雄也、岩沢篤郎、西本右子	
TG/MSとケモメトリクスによる樹脂複合材料の評価手法の検討	共著	2013年 5月	第73回分析化学討論会	三島、津越、齋藤、西本、三井	
メチルセルロースヒドロゲル中の水の状態に対するポリエチレングリコール添加の影響	共著	2013年 5月	第73回分析化学討論会	下田、柴田、西本	

刀剣研磨に用いる天然砥石の成分分析2	共著	2013年 5月	第73回分析化学討論会	青柳、高岡、西本	
環境水への適用を目的とした凍結濃縮法の基礎検討	共著	2013年 5月	第73回分析化学討論会	西本、澤田、鈴木	
静電霧化技術により生成した微小水滴の脱臭・除菌効果に関する基礎研究	共著	2013年 5月	第73回分析化学討論会	西本、佐々木、川合、稲垣、岩澤	
高分子材料における劣化・変色原因の解明とその対策 2. 高分子の分析・評価技術と水・湿度劣化の対策技術	単著	2013年 5月	技術情報協会 セミナー		
41th NATAS Harmful-Reagent-Free Separation and Concentration Sysytem of Boron with Freeze and Melt Process of Environmental Water	単独	2013年 8月	(Bowling Green, Kentucky, USA)		
Harmful-Reagent-Free Separation and Concentration System of Boron with Freze and Melt Process of Environmental Water	共著	2013年 8月	41th North American Thermal Analysis Society Conference	Y. Nishimoto, H. Shimizu, N. sawada, T. Takei, Y. Suzuki	
Interaction of amino acids with hypochlorous acid	共著	2013年 8月	Asianalysis Ⅻ	Y. Sasaki, A. Iwasawa, Y. Nishimoto	

Water State in Methyl Cellulose Thermo Reversible Hydrogels Containing Salt and Polyethylene Glycol	共著	2013年 8月	41th North American Thermal Analysis Society Conference	Y. Nishimoto, E. Shimoda, Y. Uehara, T. Suzuki	
Water state in methyl cellulose thermo reversible hydrogels containing salt and polyethylene glycol	共著	2013年 8月	ASIANALYSIS Ⅻ	E. Shimoda, Y. Uehara, T. Suzuki, Y. Nishimoto	
TG/MSとケモメトリクスによる樹脂複合材料の評価法の検討	共著	2013年 9月	第18回高分子分析討論会	三島、津越、齋藤、西本、三井	
コットンリンターを原料とするVOC吸着材	共著	2013年 9月	日本分析化学会第62年会	白石拓人、山田早季、片岡祐介、岡部敏弘、津越敬寿、西本右子	
ソフトイオン化質量分析法の樹脂製品分析への適用	共著	2013年 9月	日本分析化学会第62年会	三島有二、津越敬寿、齋藤直昭、西本右子	
メチルセルロースヒドロゲル中の水の状態分析	共著	2013年 9月	第18回高分子分析討論会	下田瑛太、柴田健一、西本右子	
出土砥石の成分分析ー溜池遺跡出土砥石ー	共著	2013年 9月	日本分析化学会第62年会	青柳佑希、高岡真美、西本右子	
次亜塩素酸のアミノ酸への作用と殺菌効果	共著	2013年 9月	日本分析化学会第62年会	西本右子、佐々木雄也、岩沢篤郎	
熱分析とラマン分光同時測定を用いたPEG-MCの水溶液挙動	共著	2013年 9月	日本分析化学会第62年会	鈴木俊之、西本右子	
親水性高分子の熱特性に対する紫外線照射の影響 2	共著	2013年 9月	第18回高分子分析討論会	下田瑛太、柴田健一、白石拓人、津越敬寿、西本右子	

塩及びポリエチレングリコールを含むメチルセルロースヒドロゲルの状態分析	共著	2013年10月	第49回熱測定討論会 講演要旨集	下田瑛太、鈴木俊之、西本右子	
高分子の熱分解特性に対する紫外線照射の影響	共著	2013年10月	第49回熱測定討論会 講演要旨集	柴田健一、下田瑛太、西本右子、市村裕、岩佐真行	
Elemental Analysis of Natural Whetstones	共著	2013年12月	23th Annual Meeting of MRS-Japan	Y. Aoyanagi, M. Takaoka, Y. Nishimoto	
Influence of UV irradiation on the thermal properties of Methyl Cellulose and PVA	共著	2013年12月	23th Annual Meeting of MRS-Japan	K. Shibata, M. Iwasa, Y. Ichimura, T. Tsugoshi, E. Shimoda, Y. Nishimoto	
Separation and Concentration System of Minor Element with a freeze and Melt Process of Environmental Water	共著	2013年12月	23th Annual Meeting of MRS-Japan	Y. Nishimoto, N. Oda, T. Takei, Y. Suzuki	
State Analysis of Methyl Cellulose Thermo Reversible Hydrogels Containing Salt and Polyethylene Glycol	共著	2013年12月	23th Annual Meeting of MRS-Japan	E. Shimoda, T. Suzuki, Y. Nishimoto	
VOC-Adsorption and Desorption properties of Charcoals and Steam Activated Charcoal	共著	2013年12月	23th Annual Meeting of MRS-Japan	T. Shiraishi, S. Yamada, Y. Kataoka, T. Okabe, T. Tsugoshi, Y. Nishimoto	
バイオマス炭化物の表面官能基とVOC吸脱着特性	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会	白石拓人、岡部敏弘、津越敬寿、西本右子	
出土砥石及び基石の成分分析	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会	青柳佑希、高岡真美、西本右子	

メチルセルロースヒドロゲル中の水の状態分析ー塩及びポリエチレングリコール添加の影響ー	共著	2014年 5月	第74回分析化学討論会	江口、下田、西本	
建築廃材を原料とする炭及びウッドセラミックスのVOC吸脱着特性	共著	2014年 5月	第74回	猪股、白石、高宮、岡部、津越、西本	
高分子の水・湿度による変色・劣化と分析評価技術	単著	2014年 5月	技術情報協会		
Harmful-Reagent-Free Separation and Concentration Sysytem of Munor Metal with Freeze and Melt Process of Envilonmental Water	共著	2014年 8月	IUMRS-ICA2014	N. Oda , T.Takei, Y. Suzuki, Y.Nishimoto	
Water State Analysis of Methyl Cellulose Thermo Reversible Hydrogels Containng Salt and Polyethylene Glycol	共著	2014年 8月	IUMRS-ICA2014	E. Shimoda, H. Eguchi, Y. Nishimoto	
State Analysis of Methyl Cellulose Thermo Reversible Hydrogels Containing Polyethylene Glycol and Salt	共著	2014年 9月	RSC Tokyo International Conference 2014	H. Eguchi, E. Shimoda, T. Suzuki, Y. Nishimoto	
VOC-Adsorption and Desorption Properties of Charcoal and Steam Activated Charcoal Perepaered from Waste	共著	2014年 9月	RSC Tokyo International Conference 2014	N. Inomata, T. Shiraishi, T. Okabe, T. Tsugoshi, Y. Nishimoto	

バイオマス炭化物のVOC吸脱着特性と水蒸気賦活の影響	共著	2014年 9月	日本分析化学会第63年会	白石拓人、猪股尚也、岡部敏弘、津越敬寿、西本右子	
出土砥石及び基石の成分分析ー尾張藩上屋敷跡遺跡出土試料ー	共著	2014年 9月	日本分析化学会第63年会	青柳佑希、高岡真美、西本右子	
塩と水の共晶の凍結融解過程を利用した環境水中の微量元素の分離濃縮	共著	2014年 9月	第50回熱測定討論会	織田奈々、武井尊也、鈴木祥弘、西本右子	
廃材を原料とする炭及び活性炭のVOC吸脱着特性評価	共著	2014年 9月	第50回	白石拓人、猪股尚也、岡部敏弘、津越敬寿、西本右子	
熱分析を使う公定法	単著	2014年 9月	JAIMA セミナー8 これであなただも専門家-熱分析編		
空中浮遊微生物除去に有効な活性成分の評価と現状	単著	2014年 9月	日本防菌防黴学会第41回年次大会		
静電霧化微粒子水の脱臭・除菌効果に関する基礎研究	共著	2014年 9月	日本防菌防黴学会第41回年次大会	猪股尚也、川合優、岩澤篤郎、西本右子	
高分子における水・湿度による変色・劣化影響と分析技術からの対策	単著	2014年 9月	Science & Technology		
PVA及びHDPEの熱特性に対する紫外線照射の影響	共著	2014年10月	第19回高分子分析討論会	江口浩晃、白石拓人、下田瑛太、津越敬寿、西本右子	
メチルセルロースヒドロゲルの状態分析ー塩及びポリエチレングリコール添加の影響ー	共著	2014年10月	第19回高分子分析討論会	江口浩晃、西本右子	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			

	個人研究 住環境
	個人研究 出土試料や劣化試料の分析と分析法に関する研究
	個人研究 機能を有する水に関する基礎研究
	個人研究 水溶液の構造と機能およびその分析に関する研究
	個人研究 水試料を中心とした環境試料の分析法に関する研究
	個人研究 熱分析の測定法と応用に関する研究
	国内共同研究 室内空気汚染対策のための基礎研究
	国内共同研究 文化財試料の分析
1981年10月～現在に至る	日本分析化学会(国内学会)会員
1981年10月～現在に至る	日本化学会(国内学会)会員
1987年 4月～現在に至る	日本熱測定学会(国内学会)会員
1991年 4月～現在に至る	高分子学会(国内学会)会員
1992年 4月～現在に至る	アメリカ化学会(国際学会)会員
1993年～現在に至る	日本ゴム協会(国内学会)会員
1993年 1月～現在に至る	国際熱測定連合(国際学会)会員
1993年 9月～現在に至る	日本ゴム協会研究部会分析研究分科会 委員
1996年 4月～現在に至る	マテリアルライフ学会(国内学会)会員
1997年 5月～現在に至る	ISO/TC45国内審議委員会 WG1化学試験方法分科会 委員
1998年 4月～現在に至る	出土銭貨研究会(国内学会)会員
2000年～現在に至る	国内共同研究 電解水の殺菌効果と分析値に関する研究
2001年 2月～2011年 2月	日本工業標準調査会臨時委員(経済産業省) 一般化学技術専門委員会 委員
2002年 9月～現在に至る	日本機能水学会(国内学会)会員
2003年～現在に至る	企業からの受託研究 磁化水の分析
2003年～現在に至る	企業からの受託研究 電解装置開発に関する性能試験
2003年 5月～2011年 2月	日本工業標準調査会労働安全用具技術専門委員会 委員
2005年 2月～2011年 3月	Associate Editors of “Journal of Thermal Analysis and Calorimetry” Associate Editors
2005年 4月～現在に至る	エコマテリアルフォーラム(国内学会)会員
2007年 5月～2013年 3月	平塚市環境審議会 委員(副委員長)
2007年 8月～現在に至る	NATAS(国際学会)会員
2007年10月～2010年10月	ICCT-2010組織委員会 委員
2008年 4月～現在に至る	日本MRS(国内学会)会員
2008年 5月～2011年 3月	科学研究費補助金 3,600,000円 「基盤研究C」環境影響を考慮したVOC吸着剤の迅速評価法(研究代表者)
2009年 4月～2012年 9月	15th ICTAC実行委員会 委員
2009年 4月～現在に至る	ISO・JISプラスチック審議委員会 (ISO/TC61, SC5) 委員
2009年 6月～現在に至る	エコマテリアルフォーラム(国内学会)事業企画委員会 委員
2009年 6月～2012年 6月	エコマテリアル・フォーラム 企画委員会 委員
2009年10月～2010年12月	International conference on polymer analysis and characterization Scientific advisory committee

2009年10月～2011年 9月	日本熱測定学会(国内学会)庶務幹事
2010年 1月～2011年 3月	千葉市新港清掃工場長期責任委託審査委員会 委員
2010年 4月～2011年 3月	JIS K 原料ゴムー示差走査熱量測定 (DSC)によるガラス転移温度の求め方」作成委員会 委員 (委員長)
2010年 6月～2013年 5月	日本MRS(国内学会)理事
2010年10月～2011年10月	第47回熱測定討論会 実行委員
2010年11月～2011年 3月	エコマテリアルフォーラム 専門委員会委員、第1WG委員
2010年12月～2013年 3月	平塚市地球温暖化対策実行計画策定協議会 委員 (副会長)
2011年 4月～2011年 9月	CATS2011 Organizing committee
2011年 4月～2012年 3月	JIS原案作成委員会 (ゴムーガスクロマトグラフ/質量分析報による老化防止剤の同定) 委員(委員長)
2011年 4月～2012年 3月	JIS原案作成委員会 : JISK 6237原料ゴムーSBRの石けん分及び有機酸分の求め方(定量) 委員(委員長)
2011年 4月～2012年 3月	平成23年度サポイン開発委員会 (千葉県産業振興センター、東葛テクノプラザ) 委員
2011年 6月～現在に至る	神奈川県国土利用計画審議会 委員
2012年 1月～2012年 3月	JIS原案作成/熱分析追補改正委員会 委員
2012年 3月～2014年 3月	日本分析化学会(国内学会)理事 (会計担当)
2013年 4月～2014年 3月	JIS原案作成委員会 : JIS K 6229 ゴム-溶媒抽出物の求め方(定量) 委員(委員長)
2013年 6月～現在に至る	日本MRS(国内学会)経営企画委員会委員
2013年 6月～2014年 3月	第23回日本MRS年次大会 シンポジウム 代表オーガナイザー
2013年10月～2014年 9月	IUMRS-ICA2014 シンポジウム連絡オーガナイザー (A-1)
2014年 6月～2015年 3月	JIS原案 原料ゴムーNBR中のアクリロニトリル量の求め方 第1部、第2部 原案作成委員会 委員(委員長)
2015年 3月～現在に至る	JIS原案 ゴムーイオンクロマトグラフ法による全硫黄量の求め方 作成委員会 委員 (委員長)
2015年 3月～現在に至る	第25回日本MRS年次大会代表及び連絡オーガナイザー 代表オーガナイザー

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部化学科	職名 助教	氏名 力石 紀子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
学生による授業評価アンケート結果の活用		2008年 4月 ～現在に至る	(授業科目：基礎化学演習I、基礎化学演習II) 平成20年度前期授業評価アンケート評価を受け、内容をわかりやすく伝えるため、パワーポイント、小テストを使用し、授業運営の改善活動を行った。		
dotCampusを活用した授業の実践		2011年 4月 1日 ～現在に至る	dotCampusによる学生の習熟度アンケートをとり、授業に活用した。またやむをえず欠席した学生への課題連絡等を行い、利便性を確保することができた。		
2 作成した教科書、教材					
物質科学実験IIテキスト		2007年 3月 ～現在に至る	神奈川大学理学部化学科3年生が行う学生実験の一つである物質科学実験II(無機合成、有機合成)で行うテーマについて記述、改訂した。これらの実験を通して、物質合成の実験は反応させるだけではなく、目的物をいかに分離精製し、その構造を解析するかが重要であるかを身をもって体験してもらうように配慮した。また実験の安全についても基礎的な注意を増やした。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

Synthesis, structure and antimicrobial activities of polymeric and nonpolymeric silver and other metal complexes	共著	2014年	(RSC book Polymeric materials with antimicrobial activity from synthesis to application (Ed) by A. Munoz-Bonilla, M. Cerrada, M. Fernandez-Garcia) Chapter 7	K. Nomiya, <u>N. C. Kasuga</u> and A. Takayama	156-207頁
論文					
Synthesis, structure and antimicrobial activities of meso silver(I) histidinate $[Ag_2(D-his)(L-his)]_n$ (Hhis = histidine) showing different self-assembly from those of chiral silver(I) histidinate (査読付)	共著	2011年	368	<u>Noriko Chikaraishi Kasuga</u> , Yoshitaka Takagi, Shin-ichiro Tsuruta, Wataru Kuwana, Rie Yoshikawa, Kenji Nomiya	44-48頁
広い抗菌活性スペクトルを示すヒスチジン銀(I)錯体の合成、構造と投与後のバクテリアの電子顕微鏡観察	共著	2011年	Science Journal of Kanagawa University 22	力石紀子、野宮健司、高木由貴、吉田拓也、吉川理絵、伊能小百合、鈴木季直、早津学、井上和仁、北島正治、川上洋司、	29-35頁

Syntheses, Structures, and Antimicrobial Activities of Remarkably Light-Stable and Water-Soluble Silver Complexes with Amino Acid Derivatives, Silver(I) N-Acetylmethioninates (査読付)	共著	2012年	Inorg. Chem. 51	<u>Noriko Chikaraishi Kasuga</u> , Rie Yoshikawa, Yoshitaka Sakai, and Kenji Nomiya	1640 - 1647頁
バクテリア, 酵母, カビに対して広い抗菌活性スペクトルを示す新規銀(I)錯体の合成, 構造解析と抗菌機構の解明	共著	2012年	Science Journal of Kanagawa University 24	力石紀子, 野宮健司, 松永諭, 早津学, 鈴木季直	31-39頁
Syntheses, Structures, and Antimicrobial Activities of Remarkably L-argininesilver(1+) nitrate (査読付)	共著	2013年	Polyhedron 52	Akihiko Takayama, Rie Yoshikawa, Sayuri Iyoku, <u>Noriko Chikaraishi Kasuga</u> and Kenji Nomiya	844-847頁
Syntheses, characterization and antimicrobial activities of sodium salt of L-histidinatoargentate(I) derived from the pH 11 solution (査読付)	共著	2014年	Polyhedron. in press	Akihiko Takayama, Yokshitaka Takagi, Kousuke Yanagita, Chisato Inoue, Rie Yoshikawa, <u>Noriko Chikaraishi Kasuga</u> and Kenji Nomiya	
その他					

Synthesis and Crystal and Molecular Structures of Light-stable and Water-soluble Silver(I) Complexes Showing Effective Antimicrobial Activities	共著	2010年 7月	International Symposia on Advancing the Chemical Sciences (ISACS)	K. Nomiya, <u>N. C. Kasuga</u> , R. Yoshikawa, Y. Takagi	F9頁
光に安定で水溶性のN-アセチル-DL-, L-メチオオナト銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2010年 9月	日本防菌防黴学会第37回 年次大会	野宮健司、 <u>力石紀子</u> 、吉川理絵、桑名渉、高木由貴	1PA-05頁
2-ニトロベンジルエステル誘導体の光分解に対するベンジル位の置換基効果	共著	2011年 3月	日本化学会第92春季年会	斉藤佑典・渡邊和博・佐藤光・ <u>力石紀子</u> ・山口和夫	3PA-112頁
2-ニトロベンジルエステル誘導体の光分解に対するベンジル位の置換基効果	共著	2011年 3月	日本化学会第91 春季年会	渡邊和博・佐藤光・中嶋一樹・三原真理乃・ <u>力石紀子</u> ・山口和夫	
aurophilic interactionを示すメチルジフェニルホスフィン金(I)錯体の合成及び分子構造	共著	2011年 3月		野宮健司、伊能小百合、吉田拓也、 <u>力石紀子</u>	
アルコキシ置換基を有する光分解部位を持つデンドロンの自己組織化単分子膜の調製と性質	共著	2011年 3月	日本化学会第91 春季年会	松下和輝・藤田悟・ <u>力石紀子</u> ・山口和夫	

ペンタフルオロベンゼンチオレート銀(I)配位ポリマーとメチルジフェニルホスフィンによる六核及び二核銀(I)錯体の合成と相互変換	共著	2011年 3月	1PB-152	野宮健司, 黒田真梨恵, 桑名渉, 吉川理絵, 力石紀子	
光に安定で水溶性の3-(メチルチオ)プロピオン酸銀(I)錯体の合成と分子構造	共著	2011年 3月	日本化学会第91春季年会 1PB-155	野宮健司, 吉川理絵, 力石紀子	
水溶性のS-メチル-L-システイン銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2011年 8月	日本防菌防黴学会第38回 年次大会 P42-31P	野宮健司, 力石紀子, 吉川理恵	
水溶性ヒスチジン銀(I)錯体を加えて培養した細菌の電子顕微鏡観察	共著	2011年 8月	防菌防黴学会第38回年次 大会Abst	野宮健司、力石紀子、吉川理絵、高木由貴、伊能小百合、吉田拓也、鈴木季直、早津学、	P43-30P頁
2-ニトロベンジルエステル誘導体の光分解速度に対する α 位の置換基及び脱離基の影響	共著	2012年 3月	日本化学会第93春季年会	斉藤佑典・太田貴亮・力石紀子・山口和夫	2PB-145頁
L-アルギニン銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2012年 3月	日本化学会第92 春季 年会	野宮健司、力石紀子、高山晃彦、吉川理絵、伊能小百合	1PB-060頁
L-ヒスチジンを配位子としたアニオン性三核銀(I)錯体の合成、キャラクターリゼーション及び抗菌活性	共著	2012年 3月	日本化学会第92 春季 年会	野宮健司、力石紀子、柳田貢助、吉川理絵、高木由貴	1PB-061頁
L-アルギニンを配位子とするポリマー性銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2012年 9月	日本防菌防黴学 会第39 回年次大会	高山晃彦、野宮健司、力石紀子、吉川理絵、伊能小百合	12Pa-02頁

L-アルギニンを配位子とするポリマー性銀(I)錯体の合成、分子構造及び抗菌活性	共著	2012年 9月	第62回錯体化学 討論会	野宮健司、力石紀子、高山晃彦、伊能小百合、吉川理絵	1PA-052頁
L-ヒスチジンを配位子とするアニオン性三核銀(I)錯体の合成、分子構造抗菌と活性	共著	2012年 9月	日本防菌防黴学会第39回 年次大会	野宮健司、力石紀子、吉川理絵、柳田貢助、伊能小百合、高木由貴、高山晃彦	12Pa-06頁
上グルタミン酸を配位子とするポリマー性銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2012年 9月	、日本防菌防黴学 会第 39回年次大会	伊能小百合、野宮健司、力石紀子、高山晃彦、高木由貴	12Pa-11頁
L-アルギニンを配位子とするポリマー性銀(I)錯体の合成、構造解析及び抗菌活性	共著	2012年10月	第2回CSJ化学フェスタ	高山晃彦、野宮健司、力石紀子	P1-19頁
L-リシン銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会	井上ちさと、力石紀子、吉田拓也、伊能小百合、高山晃彦、野宮健司	2PA-023頁
ポリフルオロ安息香酸銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2013年 3月	日本化学会第93春季年会	古越裕也、力石紀子、伊能小百合、高山晃彦、野宮健司	2PA-024頁
アルギニンを配位子とする種々のポリマー性銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2013年 9月	日本防菌防黴学会第40回 年次大会	高山晃彦、野宮健司、力石紀子	10Pa-49頁
ポリフルオロ安息香酸銀(I)錯体の合成、構造解析及び抗菌活性	共著	2013年 9月	日本防菌防黴学 会第40 回年次大会	坂元亮介、古越裕也、高山晃彦、伊能小百合、力石紀子、野宮健司	10Pa-51頁
中性及びカチオン性のルリシンを配位子とした銀(I)錯体の合成、構造解析抗菌活性	共著	2013年 9月	日本防菌防黴学 会第40 回年次大会	井上ちさと、力石紀子、吉田拓也、伊能小百合、高山晃彦、野宮健司	1Pa-50頁
L-リシンを配位子とする銀(I)錯体の合成、分子構造及び抗菌活性	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ	井上ちさと、力石紀子、伊集院久子、吉田拓也、高山晃彦、野宮健司	P1-74頁

アルギニンを配位子とするポリマー性銀(I)錯体の合成、構造解析及び抗菌活性	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ	高山晃彦, 野宮健司, 力石紀子	P1-65頁
新規NHC配位子1:2かご型銀(I)錯体の合成及び構造解析	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ	坂元亮介, 高山晃彦, 力石紀子, 野宮健司	P1-67頁
新規NHC配位子2:2型銀(I)錯体の合成及び構造解析	共著	2013年10月	第3回CSJ化学フェスタ	外山瑞季, 坂元亮介, 井上ちさと, 高山晃彦, 力石紀子, 野宮健司	1P-68頁
アルギニンを配位子とするポリマー性銀(I)錯体の合成、分子構造及び抗菌活性	共著	2013年11月	第63回錯体化学討論会	高山晃彦, 力石紀子, 野宮健司	2PA-036頁
ルリシンを配位子とする銀(I)錯体の合成、分子構造及び抗菌活性	共著	2013年11月	第63回錯体化学討論会	井上ちさと, 力石紀子, 伊集院久子, 吉田拓也, 高山晃彦, 野宮健司	2PA-018頁
(D-, L-, DL-)アルギニン銀(I)錯体の合成、分子構造と抗菌活性	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会	高山晃彦, 力石紀子, 野宮健司	2PB-143頁
α 位にイソプロピル基を導入した4,5-ジメトキシ-2-ニトロベンジルエステル誘導体の光分解反応	共著	2014年 3月	日本化学会第94春季年会	斉藤佑典・渡邊和博・佐藤光・森本修平・岡村直道・力石紀子・山口和夫	PC-098頁
III 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
	個人研究 生理活性を有する遷移金属錯体の合成と構造解析				
	個人研究 非環状多座配位子の分子設計				
1989年 3月～現在に至る	日本化学会(国内学会)会員				
1990年 3月～現在に至る	日本結晶学会(国内学会)会員				
1995年 6月～現在に至る	社団法人高分子学会(国内学会)会員				
1998年～現在に至る	アメリカ化学会(国内学会)会員				
2005年～現在に至る	個人研究 有機ホスト分子と無機化合物の自己組織化による超分子の構築				

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部化学科	職名 助教	氏名 渡邊 信子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
学生による授業評価アンケート結果の活用		2007年 9月 1日 ～現在に至る	(基礎化学演習II)演習問題を自分で解く努力をするように、予めヒントを与え模範解答を作成してこれをハンドプリントとして配布した。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					

Marked difference in fragmentation between collision-induced excitation and chemi-excitation of keto esters produced from dioxetanes bearing a 4-(benzothiazol-2-yl)-3-hydroxyphenyl moiety in negative-mode matrix-assisted laser desorption/ionization time-of-flight tandem mass spectrometry (査読付)	共著	2010年	Rapid Communications in Mass Spectrometry 24(18)	H. K. Ijuin, M. Yamada, M. Ohashi, M. Tanimura, <u>N. Watanabe</u> , M. Matsumoto.	2715-2722頁
Synthesis of Sulfanyl-, Sulfinyl-, and Sulfonyl-Substituted Bicyclic Dioxetanes and Their Base-Induced Chemiluminescence	共著	2010年	J. Org. Chem. 75(3)	<u>N. Watanabe</u> , M. Kikuchi, Y. Maniwa, H. K. Ijuin, M. Matsumoto.	879-884頁
Synthesis of Thermally Stable Acylamino-Substituted Bicyclic Dioxetanes and Their Base-Induced Chemiluminescent Decomposition (査読付)	共著	2010年	J. Org. Chem. 75(17)	<u>N. Watanabe</u> , Y. Sano, H. Suzuki, M. Tanimura, Masatoshi, H. K. Ijuin, M. Matsumoto.	5920-5926頁

Thermodynamic Aspects of Thermal Decomposition and Charge-Transfer-Induced Chemiluminescent Decomposition for Bicyclic Dioxetanes Bearing a 4-(Benzothiazol-2-yl)-3-hydroxyphenyl Moiety (査読付)	共著	2010年	J. Org. Chem. 75(11)	M. Tanimura, <u>N. Watanabe</u> , H. K. Ijuin, M. Matsumoto.	3678-3684頁
Intramolecular Charge-Transfer-Induced Decomposition Promoted by an Aprotic Polar Solvent for Bicyclic Dioxetanes Bearing a 4-(Benzothiazol-2-yl)-3-hydroxyphenyl Moiety. (査読付)	共著	2011年	J. Org. Chem. 76(3)	M. Tanimura, <u>N. Watanabe</u> , H. K. Ijuin, M. Matsumoto.	902-908頁
その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
	個人研究 多置換芳香族化合物の簡便合成法の開発				
	個人研究 発光基質としての1,2-ジオキセタン設計と合成				
1984年～現在に至る	日本化学会(国内学会)会員				
1998年 4月～現在に至る	光化学協会(国内学会)会員				

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部化学科	職名 教授	氏名 平田 善則	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
授業に関するアンケート結果の活用		2006年 4月 ～現在に至る	(授業科目：物理化学I, II) 授業中の小テストに加え、理解度に関するアンケートを行い、次回授業時にその結果を踏まえた復讐、指導を行うことで学生の理解度の向上を図った。		
dot Campusを活用した授業		2011年 4月 ～現在に至る	dot Campusを用い、講義ノートを事前に配布したことで予習、復習が可能になった。また、課題の提示を行うことで演習を効率的に行うことができ、提出率の向上につながった。		
2 作成した教科書、教材					
物理化学特論では自著『化学反応』をテキストとして使用した。基礎物理化学I、物理化学IIでは自身作成の教材を事前配布した。		2010年 4月 ～現在に至る			
「物質科学実験I」のテキスト作成		2014年 3月 ～現在に至る	学科の物質科学実験I担当全教員によりテキストを作成し、実験内容について共通の認識を持ち、連携した授業進行を行えるようになった。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
光化学の事典 (査読付)		2014年 6月	(朝倉書店)		

論文					
Molecular dynamics simulation of the vapour → liquid transition of argon and the reaction coordinate of condensation (査読付)	単著	2010年12月	Molecular Physics 108 (24)		3383-3391頁
Photoisomerization of <i>trans</i> -Stilbene in Poly(vinyl alcohol) and Importance of SolutePolymer Interactions (査読付)	単著	2015年 2月	Bull. Chem. Soc. Jpn. 88		303-307頁
その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		個人研究 液体のダイナミクスと溶液化学反応メカニズム			
		個人研究 溶液中の光解離反応とジェミネート過程			
1974年 1月～現在に至る		日本化学会(国内学会)会員			
1975年 1月～現在に至る		日本分光学会(国内学会)会員			
1980年 9月～現在に至る		レーザー学会(国内学会)会員			
1984年10月～現在に至る		日本放射線化学会(国内学会)会員			
2000年 2月～現在に至る		アメリカ化学会(国内学会)会員			
2011年～現在に至る		個人研究 PVAフィルム中の芳香族化合物の光化学初期過程			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部理学部化学	職名 教授	氏名 加部 義夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
一般化学における演示実験および簡単な学生実験の導入		2004年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：一般化学II)化学を専門としない理学部の学生に化学への興味をもってもらうために、毎回の講義内容に関連した簡単な演示実験を講義の終了時のショートテストの時間に行っている。そのうち2-3回は学生も参加できるような実験を増やしている。現時点では、折り紙分子モデル、液体窒素凍結実験、高分子密度浮遊沈降法など。
フリーのX線構造解析ソフトWingxの導入		2005年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：理学部機器分析演習ならびにならびに大学院理学研究科先端機器分析演習) 情報化推進本部と協力して計算機実習室にフリーのX線構造解析ソフトWingxを導入して、理学部および大学院理学研究科の学生のX線構造解析を習熟させるために供している。
分子計算ソフトウェアGaussian03と入出力ソフトウェアMolStuidoの導入		2005年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：理学部機器分析演習ならびに大学院理学研究科先端機器分析演習) 化学科の共通予算からGaussian03のLinux版とWin版サイトライセンスを購入し、さらにNECから入出力ソフトウェアMolStuidoを5年間無償貸与していただき、情報化推進本部の協力で計算機実習室に導入した。上記科目の実習以外にも化学科卒業研究でも利用されている。
学生による授業評価アンケート結果の活用		2006年 7月 3日 ～現在に至る	(授業科目：基礎有機化学) 平成18年度前期授業評価アンケート結果より、進み方が早くわかりにくいとの意見をいただき、内容を絞り時間に余裕をもつようにした。毎回パワーポイントとアニメーションを用いて視覚的にし、さらに資料の配布とショートテストを実施し次回その解答を説明した。また中間テストを実施し期末テストの範囲を狭くし学生の負担を軽減したが、これらについては評価していただいたので以後継続して実施していく。

学生による授業評価アンケート結果の活用	2006年 7月 6日 ～現在に至る	(授業科目：有機化学II)平成18年度前期授業評価アンケート結果より、はじめ教科書を購入していない学生のためにパワーポイントの出力を資料として毎回配布したが、評価していただいたので以後継続して実施した。授業の進度が速いとか、毎回のショートテストの時間が短いなどの指摘があったので、ショートテストの解答を解答用紙の裏に印刷して返却し、期末試験もその中から出題することで、勉強してほしい内容を学生に示すようにした。
フリーの化学式作成ソフトウェアChemSketchの導入	2007年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：基礎化学演習) 情報化推進本部と協力して、フリーの化学式作成ソフトウェアChemSketchを計算機実習室に導入して、1年次化学科学生のレポート作成の指導に供している。
2 作成した教科書、教材		
Gaussian98W操作マニュアル	2000年12月 ～現在に至る	理学部機器分析演習ならびに大学院理学研究科先端機器分析演習で分子計算を実習する際のマニュアルとして作成した。ソフトウェアがGaussian03にバージョンアップされたために今後改訂する予定。この他理学部化学科の卒業研究で分子計算を希望する学生には適宜配布している。
Wingx操作マニュアル	2005年 5月 ～現在に至る	理学部機器分析演習ならびに大学院理学研究科先端機器分析演習においてX線構造解析をPCで実習する際のマニュアルとして作成し、この科目以外にも化学科の卒業研究や大学院の研究でつかわれている。
Winmopac操作マニュアル	2005年 6月 ～現在に至る	理学部機器分析演習ならびに大学院理学研究科先端機器分析演習において半経験的分子計算を実習するためにマニュアルとして作成し、毎年利用している。
Gaussian03W操作マニュアル	2009年 6月 ～現在に至る	理学部機器分析演習ならびに大学院理学研究科先端機器分析演習で非経験的分子計算を実習する際のマニュアルとして作成した。以前作成したマニュアルをGaussian98からGaussian03用にバージョンアップし改訂した。この科目以外でも化学科の卒業研究や大学院の研究で利用されている。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
2004年度後期授業評価アンケート結果	2004年12月13日 ～現在に至る	(授業科目：基礎化学演習II) 「興味関心が持てた4.1点(5点満点)」「総合的に満足した4.0点」という比較的良好な評価をいただいた。上位年次に必要な化学に関するPC実習、演習、実験を織り交ぜ、学生の興味を引きつけながら授業運営したのが評価された理由と思われる。
2004年度後期授業評価アンケート結果	2004年12月16日 ～現在に至る	(授業科目：一般化学II) 「教員に熱意を感じた4.1点(5点満点)」「教科書・資料に役立った3.9点」の比較的良好な評価をいただいた。毎回多くに資料と、毎回のテーマに関する演習実験ないし学生全員で行える簡単な実験を準備し、さらには毎回ショートテストも準備したことが評価されたと思われる。

4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
神奈川県立大学入門テキストシリーズ 化学の魅力 大学で何を学ぶか 4章現代社会を支える ケイ素-半導体からシリコンまで	共著	2010年	(お茶の水書房)	松本正勝 杉谷嘉則 西本右子 加部義夫 大石不二夫	
現代ケイ素化学 第I部 第4章 29Si NMR スペクトル	共著	2013年 6月	(東京化学同人)	吉良満夫・玉尾皓平編 加部 義夫	p65-76頁
論文					
Hydrogen-Bonding 3D Networks by Polyhedral Organosilanol: Selective Inclusion of Hydrocarbons in Open Frameworks (査 読付)	共著	2010年	Organometallics 29	Y. Kawakami, Y. Sakuma, T. Wakuda, T. Nakai, M. Shirasaka, <u>Y. Kabe</u>	3281-3288頁
Novel meta-Selective Friedel-Crafts Acylation of Phenylsilsesquioxane (査読付)	共著	2010年	Chem. Lett., 39	Y. Kawakami, <u>Y. Kabe</u>	1082頁

ポリシラノールの3次元水素結合ネットワーク-細孔性材料の新しい例として-	共著	2010年	ケイ素化学協会誌 2010, N027, pp5-9	加部義夫 川上義輝	
穴あきフラーレンゲトラクタム誘導体のヒドロアミノ化反応と水内包	共著	2012年	Science J. Kanagawa University 23	志村慶太、石田卓也、金子愛、竹内貴、関野隼人、綿貫宣裕、鈴木康之、横山宙、安藤亘、加部義夫	27-37頁
その他					
ポリヘドラルオリゴシルセスキオキサン (POSS)の合成と官能基化反応(依頼講演) 日本化学会 第4回関東支部大会 2A1-05		2010年 8月	(筑波大学)		
ポリシラノールおよび関連化合物のつくる3次元ネットワーク構造 (トピックス講演) 第15回ケイ素化学協会シンポジウム		2011年10月	(神戸 須磨)		
New Cage Opening Reactions of fulleroid and water encapsulation, Y. Kabe, 第3回つくば国際シンポジウム&ICHAC-10 プレシンポジウム - 典型元素化学と π 電子化学のハイブリッド化 -		2012年 5月	(筑波大学)		
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1978年 4月～現在に至る		日本化学会(国内学会)会員			

1996年 4月～現在に至る	ケイ素化学協会(国内学会)会員
2001年 7月～現在に至る	フラーレン・ナノチューブ学会(国内学会)会員
2002年 4月～現在に至る	日本コンピュータ化学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	個人研究 ケイ素化合物合成のための触媒反応の開発
2004年 4月～現在に至る	個人研究 ナノスケール含ケイ素超分子の合成
2004年 4月～現在に至る	個人研究 フラーレン骨格変換反応の開発
2004年 4月～現在に至る	個人研究 理論的に興味のあるケイ素分子の合成
2010年 4月～現在に至る	ケイ素化学協会(国内学会)理事
2010年 4月～2012年 3月	機関内共同研究 (神奈川大学共同研究)有機ケイ素超分子化合物の設計・合成・構造解析
2011年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 -194,967,296円 「基盤研究(c)」ポリシラノールを用いた新規な多孔性材料の研究(研究代表者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部化学科	職名 教授	氏名 木原 伸浩	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
小演習	2005年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：有機化学1、立体化学) 授業の最後に演習問題を解かせ、その授業の内容の定着を図っている。	
dotCampusを活用した授業の実践	2012年 4月 1日 ～現在に至る	dotCampusによって授業資料を配布しているので、予習復習が可能になるだけでなく、資料の紛失、欠席、補講で授業が重なってしまう場合に 対応できるようになった。	
2 作成した教科書、教材			
教材作成	2005年 4月 1日 ～現在に至る	担当したいずれの授業においても、講義の要点をあらかじめ一覧表として配布し、授業はポイントや反応例をまとめたスライドを多用して進めた。スライドは全て印刷して対応する講義の際に配布し、授業のポイントを整理しやすくする教材として使用させた。さらに、スライドをdotCampusで公開することで、予習復習ができるようにするとともに、授業の欠席にも対応させた。スライドは授業の反省を元に、より分かりやすく正確な教材になるように毎回改良を重ねている。	
過去の定期試験のWeb公開	2009年 1月 1日 ～現在に至る	担当授業に関するWebページを作成し、そこに過去の定期試験を公開している。定期試験は授業の重要ポイントを問うものなので、授業の内容をまとめるための良い教材となっている。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価			

<p>2006年度授業評価アンケート</p>	<p>2006年10月 6日 ～現在に至る</p>	<p>(授業科目：化学表現1)</p> <p>(1)担当教員はこの授業の狙いや達成目標を常に明確に示したか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.8</p> <p>(2)この授業の内容や進め方は、シラバスに基づいていたか 全学平均3.7、学部平均3.6、学科平均3.7に対して、当科目では3.6</p> <p>(3)この授業の内容に興味もしくは関心が持てたか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では4.0</p> <p>(4)担当教員の話し方は、明確で学生を引きつけるものだったか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.5に対して、当科目では4.0</p> <p>(5)担当教員の板書の仕方や視聴覚教材はわかりやすいか 全学平均3.4、学部平均3.4、学科平均3.5に対して、当科目では4.0</p> <p>(6)この授業は、受講生の学習意欲や興味が増すように創意・工夫されていたか 全学平均3.4、学部平均3.2、学科平均3.4に対して、当科目では3.6</p> <p>(7)この授業の担当教員に、授業に取り組む熱意を感じたか 全学平均3.8、学部平均3.7、学科平均3.9に対して、当科目では4.3</p> <p>(8)担当教員は、授業の中で、学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしたか 全学平均3.4、学部平均3.2、学科平均3.3に対して、当科目では3.4</p> <p>(9)この授業で使用した教科書、参考書、配布資料等は、授業の役に立ったか 全学平均3.5、学部平均3.6、学科平均3.7に対して、当科目では4.1</p> <p>(10)担当教員は、この授業に必要な事前・事後の課題を適切に指示したか 全学平均3.5、学部平均3.4、学科平均3.6に対して、当科目では3.8</p> <p>(11)あなたは、この授業が目的としていた知識や技術を獲得できたか 全学平均3.4、学部平均3.3、学科平均3.3に対して、当科目では3.6</p> <p>(12)あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったか 全学平均3.5、学部平均3.4、学科平均3.5に対して、当科目では4.0 と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
------------------------	-------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>2006年度授業評価アンケート</p>	<p>2006年10月 6日 ～現在に至る</p>	<p>(授業科目：分子構造決定法1)</p> <p>(1)担当教員はこの授業の狙いや達成目標を常に明確に示したか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.8</p> <p>(2)この授業の内容や進め方は、シラバスに基づいていたか 全学平均3.7、学部平均3.6、学科平均3.7に対して、当科目では3.7</p> <p>(3)この授業の内容に興味もしくは関心が持てたか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では4.0</p> <p>(4)担当教員の話し方は、明確で学生を引きつけるものだったか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.5に対して、当科目では4.1</p> <p>(5)担当教員の板書の仕方や視聴覚教材はわかりやすいか 全学平均3.4、学部平均3.4、学科平均3.5に対して、当科目では4.1</p> <p>(6)この授業は、受講生の学習意欲や興味が増すように創意・工夫されていたか 全学平均3.4、学部平均3.2、学科平均3.4に対して、当科目では3.9</p> <p>(7)この授業の担当教員に、授業に取り組む熱意を感じたか 全学平均3.8、学部平均3.7、学科平均3.9に対して、当科目では4.5</p> <p>(8)担当教員は、授業の中で、学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしたか 全学平均3.4、学部平均3.2、学科平均3.3に対して、当科目では3.7</p> <p>(9)この授業で使用した教科書、参考書、配布資料等は、授業の役に立ったか 全学平均3.5、学部平均3.6、学科平均3.7に対して、当科目では3.8</p> <p>(10)担当教員は、この授業に必要な事前・事後の課題を適切に指示したか 全学平均3.5、学部平均3.4、学科平均3.6に対して、当科目では3.5</p> <p>(11)あなたは、この授業が目的としていた知識や技術を獲得できたか 全学平均3.4、学部平均3.3、学科平均3.3に対して、当科目では3.5</p> <p>(12)あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったか 全学平均3.5、学部平均3.4、学科平均3.5に対して、当科目では3.8と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
------------------------	-------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>2006年度授業評価アンケート</p>	<p>2007年 2月28日 ～現在に至る</p>	<p>(授業科目：生物有機化学)</p> <p>(1)担当教員はこの授業の狙いや達成目標を常に明確に示したか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.5に対して、当科目では3.9</p> <p>(2)この授業の内容や進め方は、シラバスに基づいていたか 全学平均3.7、学部平均3.6、学科平均3.6に対して、当科目では3.9</p> <p>(3)この授業の内容に興味もしくは関心が持てたか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.5に対して、当科目では4.1</p> <p>(4)担当教員の話し方は、明確で学生を引きつけるものだったか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.3に対して、当科目では4.1</p> <p>(5)担当教員の板書の仕方や視聴覚教材はわかりやすいか 全学平均3.5、学部平均3.4、学科平均3.1に対して、当科目では3.8</p> <p>(6)この授業は、受講生の学習意欲や興味が増すように創意・工夫されていたか 全学平均3.4、学部平均3.2、学科平均3.1に対して、当科目では3.6</p> <p>(7)この授業の担当教員に、授業に取り組む熱意を感じたか 全学平均3.8、学部平均3.7、学科平均3.7に対して、当科目では4.4</p> <p>(8)担当教員は、授業の中で、学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしたか 全学平均3.5、学部平均3.2、学科平均3.0に対して、当科目では3.3</p> <p>(9)この授業で使用した教科書、参考書、配布資料等は、授業の役に立ったか 全学平均3.6、学部平均3.6、学科平均3.5に対して、当科目では3.8</p> <p>(10)担当教員は、この授業に必要な事前・事後の課題を適切に指示したか 全学平均3.6、学部平均3.4、学科平均3.3に対して、当科目では3.3</p> <p>(11)あなたは、この授業が目的としていた知識や技術を獲得できたか 全学平均3.4、学部平均3.3、学科平均3.2に対して、当科目では3.5</p> <p>(12)あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったか 全学平均3.6、学部平均3.4、学科平均3.4に対して、当科目では3.9と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
------------------------	-------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>2006年度授業評価アンケート</p>	<p>2007年 2月28日 ～現在に至る</p>	<p>(授業科目：有機化学1)</p> <p>(1)担当教員はこの授業の狙いや達成目標を常に明確に示したか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.7</p> <p>(2)この授業の内容や進め方は、シラバスに基づいていたか 全学平均3.7、学部平均3.6、学科平均3.6に対して、当科目では3.7</p> <p>(3)この授業の内容に興味もしくは関心が持てたか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.9</p> <p>(4)担当教員の話し方は、明確で学生を引きつけるものだったか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.4に対して、当科目では3.7</p> <p>(5)担当教員の板書の仕方や視聴覚教材はわかりやすいか 全学平均3.5、学部平均3.4、学科平均3.5に対して、当科目では3.9</p> <p>(6)この授業は、受講生の学習意欲や興味が増すように創意・工夫されていたか 全学平均3.4、学部平均3.2、学科平均3.4に対して、当科目では3.6</p> <p>(7)この授業の担当教員に、授業に取り組む熱意を感じたか 全学平均3.8、学部平均3.7、学科平均3.8に対して、当科目では4.1</p> <p>(8)担当教員は、授業の中で、学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしたか 全学平均3.5、学部平均3.2、学科平均3.4に対して、当科目では3.7</p> <p>(9)この授業で使用した教科書、参考書、配布資料等は、授業の役に立ったか 全学平均3.6、学部平均3.6、学科平均3.7に対して、当科目では3.9</p> <p>(10)担当教員は、この授業に必要な事前・事後の課題を適切に指示したか 全学平均3.6、学部平均3.4、学科平均3.5に対して、当科目では3.5</p> <p>(11)あなたは、この授業が目的としていた知識や技術を獲得できたか 全学平均3.4、学部平均3.3、学科平均3.4に対して、当科目では3.6</p> <p>(12)あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったか 全学平均3.6、学部平均3.4、学科平均3.5に対して、当科目では3.7と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
------------------------	-------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>2008年度授業評価アンケート</p>	<p>2008年12月11日 ～現在に至る</p>	<p>(授業科目：生物有機化学)</p> <p>(1)担当教員はこの授業の狙いや達成目標を常に明確に示したか 全学平均3.7、学部平均3.6、学科平均3.6に対して、当科目では4.2</p> <p>(2)この授業の内容や進め方は、シラバスに基づいていたか 全学平均3.7、学部平均3.7、学科平均3.7に対して、当科目では4.1</p> <p>(3)この授業の内容に興味もしくは関心が持てたか 全学平均3.7、学部平均3.5、学科平均3.7に対して、当科目では4.2</p> <p>(4)担当教員の話し方は、明確で学生を引きつけるものだったか 全学平均3.6、学部平均3.4、学科平均3.6に対して、当科目では4.4</p> <p>(5)担当教員の板書の仕方や視聴覚教材はわかりやすいか 全学平均3.5、学部平均3.4、学科平均3.4に対して、当科目では4.2</p> <p>(6)この授業は、受講生の学習意欲や興味が増すように創意・工夫されていたか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.4に対して、当科目では4.0</p> <p>(7)この授業の担当教員に、授業に取り組む熱意を感じたか 全学平均3.9、学部平均3.7、学科平均3.8に対して、当科目では4.5</p> <p>(8)担当教員は、授業の中で、学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしたか 全学平均3.5、学部平均3.4、学科平均3.3に対して、当科目では3.4</p> <p>(9)この授業で使用した教科書、参考書、配布資料等は、授業の役に立ったか 全学平均3.7、学部平均3.6、学科平均3.7に対して、当科目では4.2</p> <p>(10)担当教員は、この授業に必要な事前・事後の課題を適切に指示したか 全学平均3.7、学部平均3.5、学科平均3.5に対して、当科目では3.6</p> <p>(11)あなたは、この授業が目的としていた知識や技術を獲得できたか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.4に対して、当科目では3.7</p> <p>(12)あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では4.1と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
------------------------	-------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>2008年度授業評価アンケート</p>	<p>2008年12月19日 ～現在に至る</p>	<p>(授業科目：有機化学I)</p> <p>(1)担当教員はこの授業の狙いや達成目標を常に明確に示したか 全学平均3.7、学部平均3.6、学科平均3.7に対して、当科目では3.8</p> <p>(2)この授業の内容や進め方は、シラバスに基づいていたか 全学平均3.7、学部平均3.7、学科平均3.7に対して、当科目では3.8</p> <p>(3)この授業の内容に興味もしくは関心が持てたか 全学平均3.7、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.7</p> <p>(4)担当教員の話し方は、明確で学生を引きつけるものだったか 全学平均3.6、学部平均3.4、学科平均3.5に対して、当科目では3.8</p> <p>(5)担当教員の板書の仕方や視聴覚教材はわかりやすいか 全学平均3.5、学部平均3.4、学科平均3.5に対して、当科目では3.9</p> <p>(6)この授業は、受講生の学習意欲や興味が増すように創意・工夫されていたか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.4に対して、当科目では3.7</p> <p>(7)この授業の担当教員に、授業に取り組む熱意を感じたか 全学平均3.9、学部平均3.7、学科平均3.8に対して、当科目では4.2</p> <p>(8)担当教員は、授業の中で、学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしたか 全学平均3.5、学部平均3.4、学科平均3.4に対して、当科目では3.5</p> <p>(9)この授業で使用した教科書、参考書、配布資料等は、授業の役に立ったか 全学平均3.7、学部平均3.6、学科平均3.7に対して、当科目では3.9</p> <p>(10)担当教員は、この授業に必要な事前・事後の課題を適切に指示したか 全学平均3.7、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.4</p> <p>(11)あなたは、この授業が目的としていた知識や技術を獲得できたか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.4に対して、当科目では3.5</p> <p>(12)あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.7と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
------------------------	-------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2010年度授業評価アンケート	2010年 7月	<p>(授業科目：化学表現 I)</p> <p>(7)授業の達成目標が明確に示されていたか 全学平均3.7、学部平均3.7、学科平均3.9に対して、当科目では3.9</p> <p>(8)シラバスの授業計画通りに授業が進められていたか 全学平均3.9、学部平均3.8、学科平均3.8に対して、当科目では4.0</p> <p>(9)授業の内容の説明や話し方は明確だったか 全学平均3.8、学部平均3.6、学科平均3.9に対して、当科目では4.2</p> <p>(10)教材の提示方法は授業の理解を助ける工夫がされていたか 全学平均3.7、学部平均3.7、学科平均3.8に対して、当科目では4.0</p> <p>(11)教科書、参考書、配布資料等は、授業の理解に役立ったか 全学平均3.8、学部平均3.8、学科平均4.0に対して、当科目では4.1</p> <p>(12)学生が授業に積極的に参加できるような工夫がされていたか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.5に対して、当科目では3.6</p> <p>(13)授業に必要な事前・事後の課題について適切に指示されていたか 全学平均3.7、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.8</p> <p>(15)あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.7に対して、当科目では3.9と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
2010年度授業評価アンケート	2010年 7月	<p>(授業科目：分子構造決定法 I)</p> <p>(7)授業の達成目標が明確に示されていたか 全学平均3.7、学部平均3.7、学科平均3.9に対して、当科目では4.1</p> <p>(8)シラバスの授業計画通りに授業が進められていたか 全学平均3.9、学部平均3.8、学科平均3.8に対して、当科目では4.1</p> <p>(9)授業の内容の説明や話し方は明確だったか 全学平均3.8、学部平均3.6、学科平均3.9に対して、当科目では4.3</p> <p>(10)教材の提示方法は授業の理解を助ける工夫がされていたか 全学平均3.7、学部平均3.7、学科平均3.8に対して、当科目では4.3</p> <p>(11)教科書、参考書、配布資料等は、授業の理解に役立ったか 全学平均3.8、学部平均3.8、学科平均4.0に対して、当科目では4.2</p> <p>(12)学生が授業に積極的に参加できるような工夫がされていたか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.5に対して、当科目では3.8</p> <p>(13)授業に必要な事前・事後の課題について適切に指示されていたか 全学平均3.7、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.9</p> <p>(15)あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.7に対して、当科目では4.1と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>

2010年度授業評価アンケート	2011年 1月	<p>(授業科目：有機化学Ⅰ)</p> <p>(7)授業の達成目標が明確に示されていたか 全学平均3.7、学部平均3.7、学科平均3.9に対して、当科目では4.0</p> <p>(8)シラバスの授業計画通りに授業が進められていたか 全学平均3.9、学部平均3.8、学科平均3.8に対して、当科目では3.9</p> <p>(9)授業の内容の説明や話し方は明確だったか 全学平均3.8、学部平均3.6、学科平均3.9に対して、当科目では4.2</p> <p>(10)教材の提示方法は授業の理解を助ける工夫がされていたか 全学平均3.7、学部平均3.7、学科平均3.8に対して、当科目では4.1</p> <p>(11)教科書、参考書、配布資料等は、授業の理解に役立ったか 全学平均3.8、学部平均3.8、学科平均4.0に対して、当科目では4.1</p> <p>(12)学生が授業に積極的に参加できるような工夫がされていたか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.5に対して、当科目では3.7</p> <p>(13)授業に必要な事前・事後の課題について適切に指示されていたか 全学平均3.7、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.8</p> <p>(15)あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.7に対して、当科目では3.9と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
2010年度授業評価アンケート	2011年 1月	<p>(授業科目：生物有機化学)</p> <p>(7)授業の達成目標が明確に示されていたか 全学平均3.7、学部平均3.7、学科平均3.9に対して、当科目では4.1</p> <p>(8)シラバスの授業計画通りに授業が進められていたか 全学平均3.9、学部平均3.8、学科平均3.8に対して、当科目では4.3</p> <p>(9)授業の内容の説明や話し方は明確だったか 全学平均3.8、学部平均3.6、学科平均3.9に対して、当科目では4.2</p> <p>(10)教材の提示方法は授業の理解を助ける工夫がされていたか 全学平均3.7、学部平均3.7、学科平均3.8に対して、当科目では4.2</p> <p>(11)教科書、参考書、配布資料等は、授業の理解に役立ったか 全学平均3.8、学部平均3.8、学科平均4.0に対して、当科目では4.2</p> <p>(12)学生が授業に積極的に参加できるような工夫がされていたか 全学平均3.5、学部平均3.3、学科平均3.5に対して、当科目では3.2</p> <p>(13)授業に必要な事前・事後の課題について適切に指示されていたか 全学平均3.7、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.6</p> <p>(15)あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったか 全学平均3.6、学部平均3.5、学科平均3.7に対して、当科目では3.7と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>

2012年度授業評価アンケート	2012年 7月	<p>(授業科目：立体化学)</p> <p>(7)この授業を履修して良かったか 全学平均3.9、学部平均3.9、学科平均4.0に対して、当科目では4.2</p> <p>(10)授業の達成目標が明確に示されていたか 全学平均3.9、学部平均3.8、学科平均3.8に対して、当科目では4.0</p> <p>(11)シラバスの授業計画通りに授業が進められていたか 全学平均4.0、学部平均3.9、学科平均3.9に対して、当科目では4.0</p> <p>(13)授業に必要な事前・事後の課題について適切に指示されていたか 全学平均4.0、学部平均3.8、学科平均3.9に対して、当科目では4.0と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
2012年度授業評価アンケート	2012年 7月	<p>(授業科目：化学表現 I)</p> <p>(7)この授業を履修して良かったか 全学平均3.9、学部平均3.9、学科平均4.0に対して、当科目では4.2</p> <p>(10)授業の達成目標が明確に示されていたか 全学平均3.9、学部平均3.8、学科平均3.8に対して、当科目では3.9</p> <p>(11)シラバスの授業計画通りに授業が進められていたか 全学平均4.0、学部平均3.9、学科平均3.9に対して、当科目では4.1</p> <p>(13)授業に必要な事前・事後の課題について適切に指示されていたか 全学平均4.0、学部平均3.8、学科平均3.9に対して、当科目では4.2と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
2012年度授業評価アンケート	2013年 1月	<p>(授業科目：有機化学 I)</p> <p>(7)この授業を履修して良かったか 全学平均4.0、学部平均3.9、学科平均4.0に対して、当科目では4.3</p> <p>(10)授業の達成目標が明確に示されていたか 全学平均4.0、学部平均3.9、学科平均3.9に対して、当科目では4.1</p> <p>(11)シラバスの授業計画通りに授業が進められていたか 全学平均4.1、学部平均4.0、学科平均4.0に対して、当科目では4.1</p> <p>(13)授業に必要な事前・事後の課題について適切に指示されていたか 全学平均4.1、学部平均4.0、学科平均3.9に対して、当科目では4.1と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>

2012年度授業評価アンケート	2013年 1月	<p>(授業科目：有機合成法)</p> <p>(7)この授業を履修して良かったか 全学平均4.0、学部平均3.9、学科平均4.0に対して、当科目では4.5</p> <p>(10)授業の達成目標が明確に示されていたか 全学平均4.0、学部平均3.9、学科平均3.9に対して、当科目では4.3</p> <p>(11)シラバスの授業計画通りに授業が進められていたか 全学平均4.1、学部平均4.0、学科平均4.0に対して、当科目では4.5</p> <p>(13)授業に必要な事前・事後の課題について適切に指示されていたか 全学平均4.1、学部平均4.0、学科平均3.9に対して、当科目では3.8と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
2014年度授業評価アンケート	2014年 7月	<p>(授業科目：立体化学)</p> <p>(8)この授業を履修してよかったか 全学平均4.0、学部平均3.9、学科平均3.9に対して、当科目では4.5</p> <p>(11)授業の達成目標が明確に示されていたか 全学平均4.0、学部平均3.8、学科平均3.9に対して、当科目では4.3</p> <p>(12)シラバスの授業計画通りに授業が進められていたか 全学平均4.1、学部平均3.9、学科平均4.0に対して、当科目では4.3</p> <p>(13)授業の到達目標を十分に達成したか 全学平均3.8、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では4.1</p> <p>(13)授業に必要な事前・事後の課題について適切に指示されていたか 全学平均4.1、学部平均3.8、学科平均3.8に対して、当科目では4.3と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>
2014年度授業評価アンケート	2014年 7月	<p>(授業科目：化学表現I)</p> <p>(8)この授業を履修してよかったか 全学平均4.0、学部平均3.9、学科平均3.9に対して、当科目では4.4</p> <p>(11)授業の達成目標が明確に示されていたか 全学平均4.0、学部平均3.8、学科平均3.9に対して、当科目では4.3</p> <p>(12)シラバスの授業計画通りに授業が進められていたか 全学平均4.1、学部平均3.9、学科平均4.0に対して、当科目では4.1</p> <p>(13)授業の到達目標を十分に達成したか 全学平均3.8、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では3.9</p> <p>(13)授業に必要な事前・事後の課題について適切に指示されていたか 全学平均4.1、学部平均3.8、学科平均3.8に対して、当科目では4.4と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。</p>

2014年度授業評価アンケート	2014年 7月	(授業科目：化学特論II) (8)この授業を履修してよかったか 全学平均4.0、学部平均3.9、学科平均3.9に対して、当科目では4.8 (11)授業の達成目標が明確に示されていたか 全学平均4.0、学部平均3.8、学科平均3.9に対して、当科目では4.8 (12)シラバスの授業計画通りに授業が進められていたか 全学平均4.1、学部平均3.9、学科平均4.0に対して、当科目では4.6 (13)授業の到達目標を十分に達成したか 全学平均3.8、学部平均3.5、学科平均3.6に対して、当科目では4.5 (13)授業に必要な事前・事後の課題について適切に指示されていたか 全学平均4.1、学部平均3.8、学科平均3.8に対して、当科目では4.4 と、いずれの項目でも非常に高い評価を受けた。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
一日体験化学教室	2006年 7月 ～現在に至る	日本化学会夢化学21委員会の事業「一日体験化学教室」で、ヒドロキンプロピルセルロースによるリオトロピック液晶の作成の実験を2年に1回行なっている。（「一日体験化学教室」の開催主体は、2010年から日本化学会関東支部に移っている）
神奈川科学技術アカデミー出張授業	2007年 7月 ～現在に至る	神奈川科学技術アカデミーが実施している「神奈川県研究者・技術者等学校派遣事業」の研究者として登録し、小学校、中学校での出張授業を行なっている。実施テーマは「ガラス細工」「炎の着色」「液体窒素」で、希望に応じて実施している。実施にあたっては小中学生の理科への関心をかき立てるように配慮している。年間2-4回の出張授業を行ない、いずれも大変好評を博している。
ひらめき☆ときめきサイエンス	2010年 8月 8日 ～現在に至る	独立行政法人日本学術振興会の研究成果の社会還元・普及事業「ひらめき☆ときめき サイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」に、「キッチンハイターで分解できるプラスチック～酸分解性ポリマーを作って分解してみよう～」というプログラムで参加している。毎年、神奈川大学湘南ひらつかキャンパスのオープンキャンパスに合わせて中高校生約40人を集め、酸分解性ポリマーについて、講義をすると共に、実際に合成し、フィルムに成型し、酸分解の様子を実験してもらう。2011年度には全国の300程のプログラムから10プログラムが選ばれる「よく工夫されたプログラム」に選ばれた。
5 その他		
静岡県立浜松湖東高等学校模擬授業（高大連携事業）	2010年11月18日	分子の間に働く力と 生きているということ ー水素結合ー
神奈川県立港北高等学校模擬授業（高大連携事業）	2012年 5月10日	なぜ水と油は分かれるのか？ 命の始まりと化学
神奈川県立江田高等学校模擬授業（高大連携事業）	2012年11月22日	なぜ水と油は分かれるのか？ 命の始まりと化学
高校生向け公開講座	2013年 6月 7日	なぜ水と油は分かれるのか？ 命の始まりの化学

神奈川県立瀬谷高等学校模擬授業（高大連携事業）		2013年10月28日	なぜ水と油は分かれるのか？ 命の始まりの化学		
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
魂はどこにある？	単著	2010年 8月	化学の魅力II 大学で何を学ぶか(御茶ノ水書房)		5-20頁
ポリロタキサン・ポリカタナン	単著	2011年 4月	環状・筒状超分子の応用展開(CMC)		20-42頁
酸化分解性ポリアミド	単著	2012年 9月	接着とはく離のための高分子－開発と応用－(CMC)		95-106頁
酸化分解性ポリマーによる解重合と脱架橋	単著	2014年 1月	架橋の反応・構造制御と分析－事例集(技術情報協会)		16-21頁
論文					
Asymmetric Benzoin Condensation: Unique Asymmetric Field Constructed by the Cooperation of Rotaxane Components (査読付)	共著	2010年	Phosphorus, Sulfur, and Silicon 185(5-6)	Yuya Tachibana, <u>Nobuhiro Kihara</u> , Kazuko Nakazono, Toshikazu Takat	1182-1205頁
Axle Length Effect on Photoinduced Electron Transfer in Triad Rotaxane with Porphyrin, [60]Fullerene, and Triphenylamine (査読付)	共著	2010年 4月	J. Phys. Chem. A 114(16)	Atula S. D. Sandanayaka, Hisahiro Sasabe, Yasuyuki Araki, <u>Nobuhiro Kihara</u> , Yoshio Furusho, Toshikazu Takata, Osamu Ito	5242-5250頁

酸化分解性ポリマー	単著	2010年 7月	ファインケミカル 39(7)		47-55頁
酸化分解性ポリマー	単著	2010年10月	マテリアルステージ 10(3)		1-3頁
Polymer Architecture Assisted by Dynamic Covalent Bonds: Synthesis and Properties of Boronate-Functionalized Polyrotaxane and Graft Polyrotaxane (査読付)	共著	2012年 1月	Polym. J. 44(1)	Yasuhito Koyama, Yudai Suzuki, Tomonori Asakawa, <u>Nobuhiro Kihara</u> , Kazuko Nakazono, Toshikazu Takata	30-37頁
Oxidative Coupling Polymerization of Bishydrazide for the Synthesis of Poly(diacylhydrazine): Oxidative Preparation of Oxidatively Degradable Polymer (査読付)	共著	2012年10月	J. Polym. Sci. Part A: Polym. Chem. 50(20)	Kentaro Nagashima, <u>Nobuhiro Kihara</u> , Yusuke Iino	4230-4238頁
酸化反応のみによる架橋-脱架橋とリサイクル系の構築 (査読付)	共著	2013年12月	高分子論文集 70(12)	長島 健太郎、 <u>木原 伸浩</u>	704-711頁
Directed one-pot syntheses of crown ether wheel-containing main chain-type polyrotaxanes with controlled rotaxanation ratios (査読付)	共著	2014年	Chem. Commun. 50(97)	Kazuko Nakazono, Tomonori Ishino, Tomoyuki Takashima, Daisaku Saeki, Daisuke Natsui, <u>Nobuhiro Kihara</u> , Toshikazu Takata	15341-15344頁

The Cyclopentyl Group, As a Small but Bulky Terminal Group, Allows Rapid and Efficient Active Transport (査読付)	共著	2015年 1月	Org. Lett. 17(1)	Junya Nishiyama, Yoshimasa Makita, <u>Nobuhiro Kihara</u>	138-141頁
その他					
第39回湘南地区講演会		2011年 7月	(平塚)		
首都大学東京 集中講義		2011年 8月	(東京)		
Gesellschaft Deutscher Chemiker, Wissenschaftsforum Chemie		2011年 9月	(Bremen, Germany)		
第60回高分子討論会		2011年 9月	(岡山)		
7th International Symposium on the Kanagawa University - National Taiwan University Exchange Program		2012年 3月	(Hiratsuka, Japan)		
2012 Intel ISEF Educator Academy		2012年 5月	(Pittsburg, USA)		
第1回高分子学会グリーンケミストリー研究会シンポジウム		2012年 8月	(東京)		
第61回高分子討論会		2012年 9月	(名古屋)		
8th International Symposium on the Kanagawa University - National Taiwan University Exchange Program		2012年12月	(Taipei, Taiwan)		
第62回高分子討論会		2013年 9月	(金沢)		
第24回神奈川大学平塚シンポジウム		2014年 3月	(平塚)		

汎用高分子への酸化的脱架橋ポイントの導入	単独	2014年 8月	第3回高分子学会グリーンケミストリー研究会シンポジウム(日本大学理工学部駿河台校舎)		
小さくても嵩高いシクロペンチル基は高速能動輸送を可能にする	共同	2014年 9月	第25回基礎有機化学討論会(東北大学川内北キャンパス)	西山淳也・木原伸造	
酸化分解性エポキシ樹脂の開発	共同	2014年 9月	第62回高分子討論会(長崎大学文教キャンパス)	木原伸造・小栗崇弘	
ポリカテナンの合成研究	共同	2014年10月	第15回リング・チューブ超分子研究会シンポジウム(東京工業大学大岡山キャンパス)	櫻井真吉・木原伸造	
2-(フェニルセレノ)エタンスルホンアミドのラジカル還元で生成するアミノラジカルの利用	共同	2015年 3月	日本化学会第95春季年会(日本大学船橋キャンパス)	岩崎亮・木原伸造	
Asymmetric Reaction Field Based on the Hydrogen Bonding of the Imide Group	共同	2015年 3月	10th International Symposium on the Kanagawa University - National Taiwan University Exchange Program(Taipei, Taiwan)		
Synthesis and oxidative degradation of polystyrene-poly(diacylhydrazine) block copolymers	共同	2015年 3月	日本化学会第95春季年会(日本大学船橋キャンパス)	PARVEZ, Md. Masud・ <u>KIHARA, Nobuhiro</u>	
イミド構造を有する不斉反応場の開発	共同	2015年 3月	日本化学会第95春季年会(日本大学船橋キャンパス)	小堀彩夏・木原伸造	

ヘテロDiels-Alder反応を利用した α -アミノカルボニル化合物の合成反応の開発	共同	2015年 3月	日本化学会第95春季年会 (日本大学船橋キャンパス)	櫻井真吉・木原伸浩	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1986年10月～現在に至る		日本化学会(国内学会)会員			
1987年 4月～現在に至る		有機合成化学協会(国内学会)会員			
1991年 4月～現在に至る		高分子学会(国内学会)会員			
1996年 1月～現在に至る		American Chemical Society(国内学会)会員			
1998年 1月～現在に至る		American Association for the Advancement of Science(国内学会)会員			
1998年 4月～現在に至る		近畿化学協会(国内学会)会員			
2000年 4月～現在に至る		バイオインダストリー協会(国内学会)会員			
2003年 4月～現在に至る		個人研究 反応場制御による高選択的有機反応の開発 (研究代表者)			
2003年 4月～現在に至る		個人研究 酸化分解性高分子材料 (研究代表者)			
2004年 4月～現在に至る		個人研究 小分子・ラジカルを利用した有機合成反応の開拓			
2008年 4月～2011年 3月		科学研究費補助金 (独立行政法人日本学術振興会)3,800,000円 「基盤研究(C)」ヒドラジドの特性を利用した酸化分解性ポリマーの開発と応用 (研究代表者)			
2008年12月～2010年11月		科学研究費委員会 専門委員			
2009年 2月～現在に至る		日本化学会(国内学会)化学オリンピックWG			
2010年 7月～2010年 7月		国際化学オリンピック第42回東京大会 日本役員団 ヘッドメンター			
2011年 4月～2013年 3月		科学研究費補助金 (独立行政法人日本学術振興会)5,330,000円 「基盤研究(C)」酸化分解性ポリマー材料の開発 (研究代表者)			
2011年 4月～現在に至る		高分子学会(国内学会)湘南支部幹事			
2012年 4月～現在に至る		高分子学会(国内学会)グリーンケミストリー研究会運営委員			
2013年 4月～2014年 3月		国内共同研究 (総合理学研究所)1,000,000円 ロタキサンを用いた一方向移動分子モーターの開発 (研究代表者)			
2013年 4月～現在に至る		競争的資金等の外部資金による研究 (文部科学省)250,000,000円 「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」シリカと相互作用の強いポリアミドと ナノ無機物との自己組織化 (研究分担者)			
2013年 7月～2013年 7月		国際化学オリンピック第45回モスクワ大会 日本役員団 メンター			
2014年 4月～現在に至る		高分子学会(国内学会)湘南支部代表			
2014年 7月～2014年 7月		国際化学オリンピック第46回ベトナム大会 日本役員団 ヘッドメンター			
2014年 9月～2014年12月		高分子学会(国内学会)The 10th International Polymer Conference実行委員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部化学科	職名 特別助教	氏名 松永 諭	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					

Reversible Magnetism between an Antiferromagnet and a Ferromagnet Related to Solvation/Desolvation in a Robust Layered [Ru ₂]2TCNQ Charge-Transfer System (査読付)	共著	2010年 8月	J. Am. Chem. Soc. 132	Natsuko Motokawa, <u>Satoshi Matsunaga</u> , Shinya Takaishi, Hitoshi Miyasaka, Masahiro Yamashita, Kim R. Dunbar	11943-11951頁
Chemistry of Group IV Metal Ion-Containing Polyoxometalates (査読付)	共著	2011年	Eur. J. Inorg. Chem.	Kenji Nomiya, Yoshitaka Sakai, <u>Satoshi Matsunaga</u>	179-196頁
Encapsulation of Anion/Cation in the Central Cavity of Tetrameric Polyoxometalate, Composed of Four Trititanium(IV)-Substituted Dawson Subunits, Initiated by Protonation/Deprotonation of the Bridging Oxygen Atoms on the Intramolecular Surface (査読付)	共著	2011年 6月	Inorg. Chem. 50	Yoshitaka Sakai, Shuji Ohta, Yukihiro Shintoyo, Shoko Yoshida, Yuhki Taguchi, Yusuke Matsuki, <u>Satoshi Matsunaga</u> , and Kenji Nomiya	6575-6583頁

A New Metal Carboxylate Framework Based on Porphyrin with Extended π -Conjugation (査読付)	共著	2011年10月	Eur. J. Inorg. Chem.	<u>Satoshi Matsunaga</u> , Nanako Endo, Wasuke Mori	4550-4557頁
Microporous Porphyrin-Based Metal Carboxylate Frameworks with Various Accessible Metal Sites: [Cu ₂ (MDDCPP)] (M = Zn ²⁺ , Ni ²⁺ , Pd ²⁺ , Mn ³⁺ (NO ₃), Ru ²⁺ (CO)) (査読付)	共著	2012年	European Journal of Inorganic Chemistry	<u>Satoshi Matsunaga</u> , Nanako Endo, and Wasuke Mori	4885-4897頁
Novel intercluster compound between heptakis(triphenylphosphine)gold(I) dioxonium cation and α -Keggin polyoxometalate anion (査読付)	共著	2012年	Dalton Trans.	Takuya Yoshida, Kenji Nomiya, <u>Satoshi Matsunaga</u>	

<p>Reaction products of titanium(IV) sulfate with the two, dimeric precursors, 1,2,3-tri-titanium(IV)- and 1,2-di-titanium(IV)-substituted α-Keggin polyoxometalates (POMs), under acidic conditions. A tetra-titanium(IV) oxide cluster and one coordinated sulfate ion grafted on a di-lacunary Keggin POM (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>2012年 1月</p>	<p>Inorg. Chem. Commun. 19</p>	<p>Kenji Nomiya, Yuki Mouri, Yoshitaka Sakai, <u>Satoshi Matsunaga</u></p>	<p>10-14頁</p>
<p>Hetero Bi-Paddlewheel Coordination Networks: a New Synthetic Route to Rh-containing Metal-Organic Frameworks (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>2012年 4月</p>	<p>Bull. Chem. Soc. Jpn. 85(4)</p>	<p><u>Satoshi Matsunaga</u>, Ken-ichi Hasada, Kenji Sugiura, Naoki Kitamura, Yuri Kudo, Nanako Endo, and Wasuke Mori</p>	<p>433-438頁</p>

<p>2 : 2-Type complexes of zirconium(IV)/hafnium(IV) centers with mono-lacunary Keggin polyoxometalates: Syntheses and molecular structures of $[(\alpha\text{-SiW}_{11}\text{O}_{39}\text{M})_2(\mu\text{-OH})_2]^{10-}$ (M = Zr, Hf) with edge-sharing octahedral units and $[(\alpha\text{-SiW}_{11}\text{O}_{39}\text{M})_2(\mu\text{-OH})_3]^{11-}$ with face-sharing octahedral units (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>2013年</p>	<p>Polyhedron 52</p>	<p>Hironori Osada, Akio Ishikawa, Yoshio Saku, Yoshitaka Sakai, Yusuke Matsuki, <u>Satoshi Matsunaga</u>, and Kenji Nomiya</p>	<p>389-397頁</p>
<p>Expansion of Pore Windows and Interior Spaces of Microporous Porphyrin-Based Metal Carboxylate Frameworks: Synthesis and Crystal Structure of $[\text{Cu}_2(\text{ZnBDCBPP})]$ (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>2013年</p>	<p>Chemistry Letters 42</p>	<p><u>Satoshi Matsunaga</u>, Shigeki Kato, Nanako Endo, and Wasuke Mori</p>	<p>298-300頁</p>

Monomer and Dimer of Mono-Titanium(IV)-Containing α -Keggin Polyoxometalate: Synthesis, Molecular Structures and pH-Dependent Monomer-Dimer Interconversion in Solution (査読付)	共著	2013年	European Journal of Inorganic Chemistry	Yusuke Matsuki, Yuki Mouri, Yoshitaka Sakai, <u>Satoshi Matsunaga</u> and Kenji Nomiya	1754-1761頁
Novel Intercluster Compounds Composed of a Tetra{phosphanegold(I)}oxonium Cation and an α -Keggin Polyoxometalate Anion Linked by Three Monomeric Phosphanegold(I) Units (査読付)	共著	2013年	Chemistry Letters 42	Takuya Yoshida, <u>Satoshi Matsunaga</u> , and Kenji Nomiya	1487-1489頁
Tetra-Nuclear Hafnium(IV) and Zirconium(IV) Cationic Complexes Sandwiched between Two Di-Lacunary Species of α -Keggin Polyoxometalates: Lewis Acid Catalysis of the Mukaiyama-Aldol Reaction (査読付)	共著	2013年	Bulletin of the Chemical Society of Japan 86	Kenji Nomiya, Kazuaki Ohta, Yoshitaka Sakai, Taka-aki Hosoya, Atsushi Ohtake, Akira Takakura, and <u>Satoshi Matsunaga</u>	800-812頁

Two types of tetranuclear phosphanegold(I) cations as dimers of dinuclear units, $[(\text{Au}\{\text{P}(\text{p-RPh})_3\})_2(\mu\text{-OH})_2]^{2+}$ (R = Me, F), synthesized by polyoxometalate-mediated clusterization (査読付)	共著	2013年	Dalton Transactions 42	Takuya Yoshida, Satoshi Matsunaga and Kenji Nomiya	11418-11425頁
その他					
なし					

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
2001年12月～現在に至る	日本化学会(国内学会)会員
2008年11月～現在に至る	触媒学会(国内学会)会員
2010年 4月～現在に至る	錯体化学会(国内学会)会員
2012年 4月～2015年 3月	科学研究費補助金 4,290,000円 「若手研究B」 多孔性“貴金属”錯体を用いた高活性・高選択性を有する不均一系触媒の創製 (研究代表者)
2013年 6月～現在に至る	ポルフィリン・フタロシアニン学会(国際学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
理学部化学科	教授	川本 達也	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
学生個別の授業参加	2009年 4月 ～現在に至る	学生が能動的に授業に参加する機会として、授業の終盤に学生によるプレゼンテーションの場を設定した。具体的には、個々にある課題に対する調査結果発表し、全体で質疑することを行った。それにより、ひとつの達成感を得るとともに、授業内容に対する理解を深めることにもなった。	
学生個別の授業参加	2009年 4月 ～現在に至る	学生個々の興味・疑問を引き出すことを目的に、毎回授業の最後にその日の授業に対して「分かったこと」と「分からなかったこと」を書かせ、次回の授業でそれに対する回答等をするようにした。これにより学生個々の授業への参加を促すことができた。なお、回答は昨年度にも増してより詳細に解説した。	
学生個別の授業参加	2010年 4月 ～現在に至る	学生が能動的に授業に参加する機会として、授業の終盤に学生によるプレゼンテーションの場を設定した。具体的には、個々にある課題に対する調査結果発表し、全体で質疑することを行った。それにより、ひとつの達成感を得るとともに、授業内容に対する理解を深めることにもなった。	
学生個別の授業参加	2010年 4月 ～現在に至る	学生個々の興味・疑問を引き出すことを目的に、毎回授業の最後にその日の授業に対して「分かったこと」と「分からなかったこと」を書かせ、次回の授業でそれに対する回答等をするようにした。これにより学生個々の授業への参加を促すことができた。なお、回答は昨年度にも増してより詳細に解説した。	
2 作成した教科書、教材			
教材作成	2008年 9月 ～現在に至る	(授業科目：化学表現II) 担当教員により、共通テキストを作成することで講義内容を統一し、スムーズかつ効果的な授業を進めることができたようになった。	
教材作成	2009年 4月 ～現在に至る	(授業科目：錯体化学特論) 自身作成の教材を毎回 (A4で7枚程度) 配布した。	

教材作成	2009年 4月 ～現在に至る	(授業科目：無機化学II) 自身作成の教材を毎回 (B 4で3枚程度) 配布した。			
教材作成	2010年 4月 ～現在に至る	(授業科目：錯体化学特論) 自身作成の教材を毎回 (A 4で7枚程度) 配布した。			
教材作成	2010年 4月 ～現在に至る	(授業科目：無機化学II) 自身作成の教材を毎回 (B 4で3枚程度) 配布した。			
教材作成	2010年 9月 ～現在に至る	(授業科目：化学表現II) 担当教員により、共通テキストを作成することで講義内容を更新・統一し、スムーズかつ効果的な授業を進めることができるようになった。			
教材作成	2013年 9月 ～現在に至る	(授業科目：化学概論I) 自身作成の教材を毎回 (A 4で3枚程度) 配布した。			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2010年度後期授業評価アンケート結果	2011年 3月	(授業科目：化学表現II) 学生による授業評価アンケートにおいて、すべての項目にて平均値を上回った。総合満足度も高評価であった。			
グループ代表として2011年度グッドティーチャー賞受賞	2012年 5月				
2012年度前期授業評価アンケート結果	2012年 9月				
2012年度後期授業評価アンケート結果	2013年 3月				
2014年度前期授業評価アンケート結果	2014年 9月				
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
理学部FD関連の活動	2008年 6月 ～現在に至る	教員の授業内容・方法の改善・向上の取り組みとして、教員が授業参観を行うことによる改善活動を始めた。			
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
神奈川大学入門テキストシリーズ 「化学の魅力II」 大学で何を学ぶか	共著	2010年 7月	(御茶の水書房)		
論文					

Platinum(II) Complexes Derived from a Benzothiazoline with Chiral Substituent	共著	2010年 6月	Sci. J. Kanagawa Univ. 21	T. Kawamoto, N. Suzuki, S. Aizawa, and I. Nagasawa	47-50頁
Solid-state Thermal and Photochemical E/Z Isomerization of Bidentate-N,S Schiff Base Ligands in Iridium(III) Complexes, (査読付)	共著	2010年12月	Chem. Lett. 39	T. Kawamoto, Yusuke Takino, Keiichi Sakoda, and Takumi Konno	1264-1266頁
Preparation and properties of sandwiched trinuclear palladium(II) complexes with tridentate phosphine and phosphine sulfide ligands (査読付)	共著	2011年 3月	J. Organomet. Chem. 696	S. Aizawa, T. Kawamoto, S. Nishigaki, and A. Sasaki	2471-2476頁
Metal-Crossing between Thiolato-Bridged Tetragold(I) and Tetrasilver(I) Metallorings (査読付)	共著	2011年 9月	Chem. Asian J. 6	Y. Takino, K. Tsuge, A. Igashira-Kamiyama, T. Kawamoto, and Takumi Konno	2931-2935頁

Synthesis, Crystal Structure and Gas Adsorption Properties of Four Pd-Zn Coordination Polymers Containing Potential Catalytic Active Sites (査読付)	共著	2012年 1月	Eur. J. Inorg. Chem.	Y. Miyazaki, Y. Kataoka, <u>T. Kawamoto</u> , and W. Mori	807-812頁
Halide-controlled Construction and Structural Determination of a Series of Thiolato-bridged 16-Nuclear Copper(I) Clusters from Benzothiazoline (査読付)	共著	2012年 3月	Chem. Lett. 41(3)	Y. Takino, N. Yoshinari, K. Tsuge, <u>T. Kawamoto</u> , and T. Konno	334-336頁
Synthesis, crystal structures and properties of novel heterobimetallic Cd-Pt and Zn-Pt coordination polymers using nicotinic acid (査読付)	共著	2012年 8月	Inorg. Chem. Commun. 25	Yuhei Miyazaki, Yusuke Kataoka, Wasuke Mori, and <u>Tatsuya Kawamoto</u>	14-17頁
Thiolato-bridged Au ₂ Cu ₂ and Cu ₄ Metallorings Derived from Benzothiazoline: Can Gold(I) Plus Copper(I) Make Silver(I)? (査読付)	共著	2012年 8月	Chem. Lett. 41(8)	Yusuke Takino, Nobuto Yoshinari, <u>Tatsuya Kawamoto</u> , and Takumi Konno	834-836頁

Chirality transfer based on reversible C-C bond formation/breaking in nickel(II) complexes (査読付)	共著	2013年 1月	Chem. Commun. 49	Tatsuya Kawamoto, Narumi Suzuki, Takeshi Ono, Dafei Gong, and Takumi Konno	668-670頁
Effect of phosphine and phosphine sulfide ligands on the cobalt-catalyzed reductive coupling of 2-iodobutane with n-butyl acrylate (査読付)	共著	2013年 6月	Polyhedron (Elsevier) 62	Sen-ichi Aizawa, Koichi Fukumoto, <u>Tatsuya Kawamoto</u>	37-41頁
Synthesis and Structure of Mixed-Valence Oxido-Bridged Diruthenium Complexes Bearing Ethylbis(2-pyridylmethyl)amine (査読付)	共著	2014年 1月	European Journal of Inorganic Chemistry (Wiley-VCH)	Tomoyo Suzuki, Kazuhiro Matsuya, <u>Tatsuya Kawamoto</u> , Hirotaka Nagao	722-727頁
Photocatalytic activity of α -PbO ₂ -type TiO ₂ (査読付)	共著	2014年 8月	Phys. Status Solidi RRL (Wiley-VCH) 8(10)	Hidenobu Murata, Yusuke Kataoka, <u>Tatsuya Kawamoto</u> , Isao Tanaka, Takashi Taniguchi	822-826頁
その他					
Pacificchem2010		2010年12月	(ハワイ)		
40th International Conference on Coordination Chemistry		2012年 9月	(スペイン)		

A model complex of Cu _A Center: A dicopper complex composed of the Cu ₂ S ₂ core with a short Cu...Cu distance	共同	2014年 7月	41st International Conference on Coordination Chemistry(Singapore)	Tatsuya Kawamoto, Wataru Takahashi, Masaharu Kitashima, Kazuhito Inoue	
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		公益財団法人平塚市まちづくり財団 評議員選定委員			
1984年 4月～現在に至る		日本化学会(国内学会)会員			
1999年 4月～現在に至る		アメリカ化学会(国内学会)会員			
2003年 7月～現在に至る		錯体化学会(国内学会)会員			
2008年 4月～2013年 2月		個人研究 物性的に魅力ある金属錯体の開発			
2012年 4月～現在に至る		その他の補助金・助成金(文部科学省)140,000,000円 太陽光活用を基盤とするグリーン/ライフイノベーション創出技術研究拠点の形成(研究代表者)			
2013年 1月～現在に至る		個人研究 水の光分解のための錯体触媒の開発			
2013年 1月～現在に至る		個人研究 酵素類似機能を有する金属錯体の開発			
2013年 1月～現在に至る		個人研究 酸化還元活性な金属錯体の合成			
2013年 4月～現在に至る		科学研究費補助金 4,030,000円 「挑戦的萌芽研究」多電子移動型錯体触媒による水の光分解反応システムの開発(研究代表者)			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
理学部化学科	教授	堀 久男	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
環境化学特論における外部の研究者を交えた授業の実施	2010年 1月 ～現在に至る	環境化学特論では毎年環境技術に関する最先端の研究者を交えた講義を1回行い、環境技術に関する認識を深めている。	
授業履修者の公開講演会への参加	2011年 5月28日 ～2011年 5月28日	環境化学の履修者に最先端の環境技術に関する認識を深めてもらうためにキャンパス内で行われた第21回神奈川大学平塚シンポジウム:機能性フッ素化合物のグリーンケミストリー ～環境・資源問題に対応する新技術～に参加させ、レポートを書かせた。	
dotCampusを活用した授業の実践	2011年 7月 6日 ～現在に至る	dotCampusにより講義のポイントや予習、復習のための教材を提供した。	
環境化学における外部の研究者を交えた授業の実施	2012年 7月 ～現在に至る	環境化学の授業では毎年1回地球環境観測の専門家(南極観測隊員)を交えた講義を行い、地球環境問題に関する認識を深めている。	
2 作成した教科書、教材			
基礎無機分析化学の教材作成	2010年 9月 ～現在に至る	毎年5回基礎無機化学に関するプリントを作製し、配布している。	
環境化学特論の教材作成	2010年 9月 ～現在に至る	環境基準や環境の現状、分析法に関して毎年4回プリントを作製して配布している。	
環境化学の教材作成	2011年 4月 ～現在に至る	環境化学の授業の資料として自身作成のプリントを直接あるいはdotCampusにより毎年6回程度配布している	
無機化学Vの教材作成	2011年11月 ～現在に至る	毎年4回固体の構造に関するプリントを配布している。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
なし			
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
なし			
5 その他			
なし			
II 研究活動			

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
世界の化学品規制・ルールの解釈とその違反回避のための実務	単著	2012年12月	(技術情報協会) 第6章7節、「有機フッ素化合物 (PFOS/PFOA)」		504-509頁
フッ素樹脂の最新動向	単著	2013年 4月	(シーエムシー出版) 第13章「機能性フッ素化合物の分解反応の開発」		126-137頁
論文					
Efficient mineralization of hydroperfluorocarboxylic acids with persulfate in hot water (査読付)	共著	2010年 4月	Catalysis Today 151(1-2)	H. Hori, M. Murayama, N. Inoue, K. Ishida, S. Kutsuna	131-136頁
Photocatalytic mineralization of hydroperfluorocarboxylic acids with heteropolyacid H4SiW12O40 in water (査読付)	共著	2010年 8月	Chemosphere (Elsevier) 82(8)	H. Hori, K. Ishida, N. Inoue, K. Koike, S. Kutsuna	1129-1134頁
Solubility and hydrolysis of HCFC-22 (CHF2Cl): Upward revision of rate constants for aqueous reactions of CHF2Cl with OH ⁻ at elevated temperature (査読付)	共著	2011年 8月	International Journal of Chemical Kinetics 43(11)	S. Kutsuna, H. Hori, M. Naganuma, A. Shimono	639-647頁
フッ素系イオン交換膜の亜臨界水分解 (査読付)	共著	2011年11月	用水と廃水(産業用水調査会) 53(11)	堀 久男、村山美沙子、忽那周三	70-77頁

機能性フッ素ポリマー および関連物質の分解 ・再資源化反応の開発 (査読付)	単著	2011年12月	高分子 (高分子学会) 60(12)		856-858頁
Preferential solvation of perfluorooctanoic acid (PFOA) by methanol in methanol water mixtures: A potential overestimation of the dissociation constant of PFOA using a Yasuda Shedlovsky plot (査 読付)	共著	2012年 2月	Atmospheric Environment 49	S. Kutsuna, <u>H. Hori</u> , T. Sonoda, T. Iwakami, A. Wakisaka	411-414頁
Efficient decomposition of perfluoroether carboxylic acids in water with a combination of persulfate oxidant and ultrasonic irradiation (査読付)	共著	2012年 9月	Journal of Fluorine Chemistry 141	<u>H. Hori</u> , Y. Nagano, M. Murayama, K. Koike, S. Kutsuna	5-10頁
Metal-induced decomposition of perchlorate in pressurized hot water (査読付)	共著	2012年10月	Chemosphere 89(6)	<u>H. Hori</u> , T. Sakamoto, T. Tanabe, M. Kasuya, A. Chino, Q. Wu, K. Kannan	737-742頁

Iron-induced efficient mineralization of a cyclic perfluoroalkyl surfactant in subcritical and supercritical water (査読付)	共著	2012年11月	Catalysis Today(Elsevier) 196(1)	H. Hori, T. Sakamoto, Y. Kimura, A. Takai	132-136頁
First radical homopolymerisation of 2-trifluoromethacrylic acid in water and study of the degradation of the resulting homopolymers (査読付)	共著	2013年 6月	Chemical Communications (Royal Society of Chemistry) 49	Y. Patil, H. Hori, H. Tanaka, T. Sakamoto, B. Ameduri	6662-6664. 頁
過塩素酸イオンの環境残留性と対策技術の研究動向 (査読付)	単著	2013年 8月	ぶんせき (日本分析化学会) (8)		458-463頁
Decomposition of perfluorinated ionic liquid anions to fluoride ions in subcritical and supercritical water with iron-based reducing agents (査読付)	共著	2013年 9月	Industrial & Engineering Chemistry Research(The American Chemical Society) 52(38)	Hisao Hori, Yoshinari Noda, Akihiro Takahashi, Takehiko Sakamoto	13622-13628頁
有機フッ素化合物をはじめとする環境負荷物質の分解・無害化反応の開発 (査読付)	単著	2013年 9月	水環境学会誌(日本水環境学会) 36(9)		331-334頁

Visible light-induced decomposition of a fluorotelomer unsaturated carboxylic acid in water with a combination of tungsten trioxide and persulfate (査読付)	共著	2013年11月	Chemosphere(Elsevier) 93(11)	Hisao Hori, Atsushi Ishigro, Kohei Nakajima, Taizo Sano, Shuzo Kutsuna, Kazuhide Koike	2657-2922頁
有機フッ素化合物の分解反応の開発 (査読付)	単著	2014年 1月	ファルマシア(日本薬学会) 50(1)		54-58頁
Efficient-oxygen induced mineralization of melt-processible fluoropolymers in subcritical and supercritical water (査読付)	共著	2014年 4月	Industrial & Engineering Chemistry Research (The American Chemical Society) 53(17)	Hisao Hori, Takehiko Sakamoto, Kenta Ohmura, Haruka Yoshikawa, Tomohisa Seita, Tomoyuki Fujita, Yoshitomi Morizawa	6934-6940頁
Iron-induced efficient decomposition of perchlorate using pressurized hot water (査読付)	共著	2014年12月	Organohalogen Compounds 76		454-458頁
その他					
ケイ素系ポリオキシメタレートを用いた新規フッ素系界面活性剤の光触媒分解反応、2010年光化学討論会		2010年 9月	(千葉)		

タングステイ酸を用いた新規フッ素系界面活性剤の光触媒分解反応、第60回錯体化学討論会		2010年 9月	(大阪)		
環境残留性有機フッ素化合物およびフッ素ポリマーの高効率分解・再資源化反応の開発、第59回高分子討論会		2010年 9月	(札幌)		
メタノール-水混合溶媒中のペルフルオロオクタンさん(PFOA)の選択的溶媒和 -Yasuda-Shedlovsky法で決められたpKa値の評価-	共著	2010年10月	第34回フッ素化学討論会 (札幌)	忽那周三, 堀久男, 園田高明, 岩上透, 脇坂昭弘	
亜臨界水と酸素をもちいたペルフルオロアルキルエーテルスルホン酸類の高効率無機化反応、第34回フッ素化学討論会		2010年10月	(札幌)		
亜臨界水と酸素を用いたペルフルオロアルキルエーテルスルホン酸類の高効率無機化反応	共著	2010年10月	第34回フッ素化学討論会 (札幌)	堀久男, 村山美沙子, 忽那周三	
環境残留性有機フッ素化合物およびフッ素ポリマーの高効率分解反応の開発	単著	2011年 5月	第21回神奈川大学平塚シンポジウム 機能性フッ素化合物のグリーンケミストリー～環境・資源問題に対応する新技術～ (平塚)		

亜臨界水と鉄粉を用いたフッ素系イオン交換ポリマーの高効率分解・無機化、第20回環境化学討論会		2011年 7月	(熊本)		
酸素と亜臨界水を用いたPFOS/PFOA代替物質の分解・再資源化反応の開発	共著	2011年 7月	平成23年度産総研環境エネルギーシンポジウムシリーズ1 リスク削減時代の環境新技術 (東京)	堀 久男, 村山美沙子, 忽那周三	
(特許取得) フッ素系有機化合物の熱水分解法	単著	2011年 7月	日本国特許第4788946号		
Efficient decomposition of perfluorinated ion-exchange membrane to fluoride ions by using zerovalent metals in subcritical water		2011年 9月	(T a l l i n n, E s t o n i a)		
ペルオキシ二硫酸イオンと超音波照射を併用したペルフルオロエーテル系界面活性剤の無機化反応、第35回フッ素化学討論会		2011年 9月	(岡山)		
微量化学物質の分解・無害化技術の最新動向～有機フッ素化合物を例として～、第57回日本水環境学会セミナー「微量化学物質による環境問題の最新動向」		2012年 1月	(東京)		

Efficient decomposition of perfluorinated ion-exchange membrane to fluoride ions using subcritical water with zerovalent metals, The 1st Indian International Symposium on Fluorine Chemistry		2012年 2月	(D e l h i)		
ペルオキシ二硫酸塩を用いた新規フッ素系界面活性剤の温水分解、日本化学会第92春季年会		2012年 3月	(横浜)		
塩化物イオンを含むペルフルオロプロピオン酸水溶液の分解処理：光照射下の硫酸イオンラジカル反応	共著	2012年 3月	日本化学会第92春季年会 (横浜)	忽那周三, 堀 久男	
金属を還元剤とした過塩素酸イオンの温水分解、第46回日本水環境学会年会		2012年 3月	(東京)		
Efficient mneralization of cyclic perfluoroalkyl surfactant in subcritical and supercritical water	共著	2012年 7月	20th International Conference on Fluorine Chemistry (Kyoto)	Hisao Hori, Takehiko Sakamoto, Yusuke Kimura, Akane Takai	
高温水と金属を用いた過塩素酸イオンの高効率分解、第21回環境化学討論会		2012年 7月	(松山)		

Efficient mineralization of a cyclic perfluoroalkyl surfactant in subcritical and supercritical water, 20th International Symposium of Fluorine Chemistry		2012年 8月	(K y o t o)		
酸化タンゲステンとペルオキシ二硫酸イオンを用いた水中の有機フッ素化合物の可視光分解、2012年光化学討論会		2012年 8月	(東京)		
(特許取得) フッ素化カルボン酸類の分解方法	共著	2012年 8月	日本国特許第5071929号	堀 久男、忽那周三	
酸化タンゲステンとペルオキシ二硫酸イオンを用いた水中の有機フッ素化合物の可視光分解	共著	2012年 9月	2012年光化学討論会	石黒敦志, 中島康平, 前田紀仁, 佐野泰三, 堀 久男	
(特許取得) フッ素系イオン交換樹脂膜の分解方法	共著	2012年 9月	日本国特許第4941997号	堀 久男、忽那周三	
Decomposition of fluorinated ionic liquids to fluoride ions in subcritical and supercritical water, Green Solvents Conference 2012		2012年10月	(B o p p a r d, G e r m a n y)		

機能性有機フッ素化合物の分解無害化・再資源化反応システムの開発、東京工業大学資源化学研究所講演会（2013年2月25日）		2013年 2月	(東京工業大学資源化学研究所)		
(招待講演) 機能性有機フッ素化合物の分解無害化・再資源化反応システムの開発	単著	2013年 2月	東京工業大学資源化学研究所講演会（2013年2月25日）		
フッ素系イオン液体の亜臨界水分解、第47回日本水環境学会年会		2013年 3月	(大阪)		
高温高圧水を用いたフッ素ポリマーPVDFおよび関連物質の高効率分解・無機化、日本化学会第93春季年会		2013年 3月	(滋賀)		
Efficient Mineralization of Fluorinated Ionic Liquid Anions Using Subcritical and Supercritical Water, 17th European Conference on Fluorine Chemistry		2013年 7月	(Paris)		
Mineralization of 2-Trifluoromethacrylic Acid Polymers by Use of Pressurized Hot Water, 17th European Symposium on Fluorine Chemistry		2013年 7月	(Paris)		

Efficient Decomposition of Perfluorinated Ionic Liquid Anions Using Hot Water: An Essential Step in Recover of Fluorine Component from the Ionic Liquid Waste, 6th International Conference on Green and Sustainable Chemistry		2013年 8月	(Nottingham, UK)		
フッ素系イオン液体の亜臨界水分解処理の検討、第22回環境化学討論会		2013年 8月	(東京)		
高温高压水を用いた機能性フッ素ポリマーの高効率分解・無機化反応の開発、第22回環境化学討論会		2013年 8月	(東京)		
光化学的手法による水中からのレニウムの回収、2013年光化学討論会		2013年 9月	(松山)		
フッ素系イオン液体の亜臨界水分解反応、第36回フッ素化学討論会		2013年10月	(つくば)		
ペルフルオロアルキルジスルホン酸類の亜臨界水分解、第36回フッ素化学討論会		2013年10月	(つくば)		
超臨界水を用いたナフイオン膜の酸化分解処理の検討、第36回フッ素化学討論会		2013年10月	(つくば)		

光化学的手法による水中からのレニウム成分の回収、第48回日本水環境学会年会		2014年 3月	(仙台)		
光化学的手法を用いた水中からのレニウム成分の回収、日本化学会第94春季年会		2014年 3月	(名古屋)		
有機カチオンを持つフッ素系界面活性剤の亜臨界水分解、日本水環境学会第48年会		2014年 3月	(仙台)		
過酸化水素を用いたフッ素ポリマー-PVDFの亜臨界水分解処理の検討、日本化学会第94春季年会		2014年 3月	(名古屋)		
鉄鋼スラグと亜臨界水を用いたフッ素系イオン液体の分解処理の検討、日本化学会第94春季年会		2014年 3月	(名古屋)		
Decomposition of perfluorinated ionic liquid anions using subcritical and supercritical water, International Conference on Fluorine Chemistry 2014 Tokyo		2014年 5月	(Yokohama)		
有機カチオンを持つフッ素系界面活性剤の亜臨界水分解処理の検討、第23回環境化学討論会		2014年 5月	(京都)		

環状メチルシロキサンの亜臨界水分解、第23回環境化学討論会		2014年 5月	(京都)		
電解硫酸の光励起を利用した水中のトリフルオロ酢酸の分解反応、第23回環境化学討論会		2014年 5月	(京都)		
有機フッ素化合物に関する環境問題の動向、分解無害化・再資源化技術の研究状況、サイエンス&テクノロジー株式会社有機フッ素化学セミナー (2014年8月29日)		2014年 8月	(東京)		
(依頼講演) 有機フッ素化合物に関する環境問題の動向、分解無害化・再資源化技術の研究状況	単著	2014年 8月	サイエンス & テクノロジー株式会社 有機フッ素化学セミナー (2014年8月29日)		
Iron-induced efficient decomposition of perchlorate using pressurized hot water	共著	2014年 9月	34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2014) Presentation No. 792	Hisao Hori, Takehiko Sakamoto, Takashi Tanabe, Miu Kasuya, Asako Chino, Qian Wu, Kurunthachalam Kannan	
Iron-induced efficient decomposition of perchlorate using pressurized hot water		2014年 9月	(Madrid)		
Decomposition of perfluorinated ionic liquid anions using subcritical and supercritical water	共著	2014年10月	7th Green Solvents Conference 2014	Hisao Hori, Yoshinari Noda, Akihiro Takahashi, Takehiko Sakamoto	

超臨界水を用いたフッ素ポリマーF E Pの酸化分解処理の検討	共著	2014年10月	第37回フッ素化学討論会	清田 倫央, 堀 久男, Abdellatif Mansei, Bruno Ameduri	
過酸化水素と亜臨界水を用いたPVDF関連物質の高効率分解	共著	2014年10月	、第37回フッ素化学討論会	田中浩貴、堀 久男	
電解硫酸の光励起に基づく水中の有機フッ素化合物の分解反応	共著	2014年10月	2014年光化学討論会	堀 久男、真仁田 遼、山口諒之助、山本健太、忽那周三、加藤昌明	
Efficient decomposition of a new fluorochemical surfactant: perfluoroalkane disulfonate to fluoride ions in subcritical and supercritical water	共著	2014年11月	International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014	Hisao Hori, Hiroki Saito, Hidenori Sakai, Toshiyuki Kitahara, Takehiko Sskamoto	
Efficient decomposition of perfluorinated ionic liquid anions in subcritical and supercritical water	共著	2014年11月	International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014	Akihiro Takahashi, Yoshinari Noda, Takehiko Sakamoto0, <u>Hisao Hori</u>	
III 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
1987年 4月～現在に至る	日本化学会(国内学会)会員				
2000年 4月～現在に至る	個人研究 環境有害・負荷物質の分解・無害化、再資源化反応の開発				
2000年 4月～現在に至る	錯体化学会(国内学会)会員				
2005年 3月～現在に至る	日本環境化学会(国内学会)会員				
2005年 8月～現在に至る	日本水環境学会(国内学会)会員				
2007年 3月～2011年 2月	日本化学会 環境・安全推進委員会事業小委員会委員				
2007年 3月～現在に至る	日本化学会(国内学会)環境・安全推進委員会事業小委員会委員				
2008年 7月～2010年 5月	株式会社産業情報研究センター(横浜国立大学委託) ライフサイクルリスク評価に関するデータの収集調査委員会委員				
2008年12月～2010年11月	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員				

2009年 2月～2011年 3月	その他の補助金・助成金 (旭硝子株式会社)51,952,000円 「公募型リサーチコラボレーション制度」熱水反応を用いる機能性フッ素ポリマーの分解システムの開発 (研究代表者)
2009年 4月～2012年 3月	科学研究費補助金 14,800,000円 「基盤研究(B)」熱水反応に基づく燃料電池用フッ素ポリマー膜材料の非焼却分解システム (研究代表者)
2009年 4月～2012年 3月	競争的資金等の外部資金による研究 (日本学術振興会)4,940,000円 熱水反応に基づく燃料電池用フッ素ポリマー膜材料の非焼却分解システム
2009年 4月～2011年 4月	経済産業省 計量士国家試験委員
2009年 8月～2010年 7月	日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員、国際事業委員会書面審査員
2010年 4月～2011年 3月	環境省 平成22年度POPs廃棄物適正処理等検討会委員
2010年 4月～2012年 3月	競争的資金等の外部資金による研究 (旭硝子株式会社)20,000,000円 熱水反応等を用いる機能性フッ素ポリマーの分解システムの開発
2010年 7月～2011年 3月	日本化学会 第91春季年会産学連携小委員会委員
2010年 7月～2011年 3月	日本化学会(国内学会)第91春季年会産学連携小委員会委員
2011年 6月～2013年 5月	経済産業省 計量士国家試験委員
2011年 7月～2012年 3月	その他の補助金・助成金 (神奈川県)2,000,000円 「神奈川県大学成果事業化促進事業」亜臨界水を用いた機能性フッ素ポリマー廃棄物の分解・再資源化反応システムの開発 (研究代表者)
2011年 7月～2012年 3月	日本化学会 第92春季年会産学連携小委員会委員
2011年 7月～2012年 3月	日本化学会(国内学会)日本化学会 第92春季年会産学連携小委員会委員
2012年 4月～現在に至る	その他の補助金・助成金 (文部科学省)5,000,000円 「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」太陽光活用を基盤とするグリーン/ライフイノベーション創出技術研究拠点の形成 (研究分担者)
2012年 4月～2015年 3月	科学研究費補助金 17,680,000円 「基盤研究B」エネルギーデバイス用フッ素系イオン液体の非焼却分解・再資源化反応システムの開発 (研究代表者)
2012年 4月～2015年 3月	科学研究費補助金 3,900,000円 「挑戦的萌芽研究」電解硫酸の光励起に基づく電子産業用有機フッ素化合物の分解・無害化反応システム (研究代表者)
2012年 5月～現在に至る	アメリカ化学会(国際学会)会員
2012年 7月～2013年 3月	日本化学会 第93春季年会産学連携小委員会委員
2012年 7月～2013年 3月	日本化学会(国内学会)第93春季年会産学連携小委員会委員
2012年 7月～2013年 3月	日本化学会(国内学会)第93春季年会産学連携小委員会委員
2013年 3月～2015年 2月	日本化学会 関東支部幹事・就職交流WG副委員長 (2013年度)・委員長 (2014年度)
2013年 3月～2015年 2月	日本化学会(国内学会)関東支部幹事・就職交流WG副委員長 (2013年度)・委員長 (2014年度)
2013年 4月～2015年 3月	平塚市 環境審議会副委員長
2013年11月～2014年10月	日本化学会 代議員
2013年11月～2014年10月	日本化学会(国内学会)代議員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部化学科	職名 教授	氏名 松原 世明	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Computational Study of the Binding Mechanism of Complement C3b with Antigen (査読付)	共著	2013年	Bull. Chem. Soc. Jpn. 86	T. Matsubara, C. Sasamoto	1426-1434頁

ONIOM Study of the Mechanism of Olefin Hydrogenation by the Wilkinson's Catalyst: Reaction Paths and Energy Surfaces of Trans and Cis Form (査読付)	共著	2013年	Bull. Chem. Soc. Jpn. 86	T. Matsubara, R. Takahashi, S. Asai	243-254頁
Computational Study of the Effects of the Steric Hindrance on the Amide Bond Cleavage (査読付)	共著	2014年	J. Phys. Chem. A(American Chemical Society) 118	©Toshiaki Matsubara, Chikako Ueta	8664-8675頁
Computational Study on the Mechanism of the Electron-Transfer Induced Repair of the (6-4) T-T Photoproduct of DNA by Photolyase: Possibility of a Radical Cation Pathway (査読付)	共著	2014年	Bull. Chem. Soc. Jpn. 581	Toshiaki Matsubara, Nozomi Araida, Daichi Hayashi, Hatsumi Yamada	390-399頁
その他					
なし					

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1986年 4月～現在に至る	日本化学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	触媒学会(国内学会)会員
1993年10月～現在に至る	アメリカ化学会(国内学会)会員
1997年 4月～現在に至る	日本コンピュータ化学会(国内学会)会員
1997年 4月～現在に至る	日本化学会理論化学研究会(国内学会)会員
2008年 3月～現在に至る	分子科学会(国内学会)会員

2010年 4月～現在に至る

個人研究 実在反応系の理論設計、ONIOM分子動力学法の開発と応用、新規分子理論の開発と応用

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部化学科	職名 教授	氏名 上村 大輔	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
生命科学への展開		2006年 4月19日 ～現在に至る	岩波書店 岩波講座 現代化学への入門 1 5 共) 袖岡幹子		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Bioactive Secondary Metabolites from Symbiotic Marine Dinoflagellates:Symb iodinolide and Durinskiols (査読付)	共著	2010年	(Chem Rec., vol. 10, pp. 57-69)	M. Kita, O. Ohno, D. Uemura共同研 究	

Dinohydrazides A and B, Novel Hydrazides from a Symbiotic Marine Dinoflagellate (査読付)	共著	2010年	(Chem. Lett., vol. 39, pp. 596-597)	N. Maru, O. Ohno, K. Yamada, <u>D. Uemura</u> 共同研究	
Engineering the Promiscuous Racemase Activity of an Arylmalonate Decarboxylase (査読付)	共著	2010年	Chem. Eur. J., vol.17, pp. 557-563	R. Kourist, Y. Miyauchi, D. Uemura, K. Miyamoto共同研究。	
Halichlorine is a novel L-type Ca ²⁺ channel inhibitor isolated from the marine sponge Halichondria okadai kadota (査読付)	共著	2010年	(Eur. J. Pharmacol., vol. 628, pp. 128-131)	Y. Tsubosaka, T. Murata, K. Kinoshita, K. Yamada, <u>D. Uemura</u> , M. Hori, H. Ozaki共同研究	
Halichlorine Reduces Monocytes Adhesion to Endothelium Through the Suppression of Nuclear Factor- κ B Activation (査読付)	共著	2010年	(J. Pharmacol. Sci in press)	Y. Tsubosaka, T. Murata, K. Yamada, <u>D. Uemura</u> , M. Hori, H. Ozaki共同研究	
Inhibitory Effects of Bakuchiol, Bavachin and Isobavachalcone Isolated from Piper longum on Melanin Production in B16 Mouse Melanoma Cells (査読付)	共著	2010年	(Biosci. Biotech. Biochem., vol174, pp. 1504-1506)	O. Ohno, T. Watabe, K. Nakamura, M. Kawagoshi, N. Uotsu, T. Chiba, M. Yamada, K. Yamaguchi, K. Yamada, K. Miyamoto, <u>D. Uemura</u> 共同研究	

Lyngbyacyclamides A and B, novel cytotoxic peptides from marine cyanobacteria <i>Lyngbya</i> sp. (査読付)	共著	2010年	Tetrahedron Letters vol. 51, pp. 6384-6387	. Maru, O. Ohno, D. Uemura共同研究。	
Marine Huge Molecules:the Longest Carbon Chains in Natural Products (査読付)	共著	2010年	(Chem, Rec. , vol. 10, pp. 48-52)	M. Kita, <u>D. Uemura</u>	
Neocomplanines A and B, a Complanine Family Isolated from the Marine Fireworm <i>Eurythoe complanata</i> (査読付)	共著	2010年	(J. Nat. Prod. , vol. 73, pp . 303-305)	K. Nakamura, Y. Tachikawa, O. Ohno , M. Kitamura. M. Suganuma, <u>D. Uemura</u> 共同研究	
Papillamide, a Novel Fatty Acid Amide from the Red Alga <i>Laurencia papillose</i> (査読付)	共著	2010年	(Chem Lett, vol. 39, pp. 366-367)	N. Maru, O. Ohno, T. Koyama. K. Yamada, <u>D. Uemura</u> 共同研究	
Stereocontrolled synthesis and structural confirmation of the C14-C24 degraded fragment of symbiodinolide (査読付)	共著	2010年	Tetrahedron, vol. 66, pp. 7569-7576	H. Takamura, Y. Kadonaga, I. Kadota, D. Uemura共同研究。	
Stereoselective synthesis of the C ₁₄ -C ₂₄ degraded fragment of symbiodinolide (査読付)	共著	2010年	(Terahedron Left. , vol. 51, pp. 2603-2605)	H. Takamura, Y. Kadonaga, I. Kadota, <u>D. Uemura</u> 共同研究	

Sunabedine, a Novel Toxic Bromotyrosine-derivative Alkaloid from Okinawan Sponge, Order Verongida (査読付)	共著	2010年	(Heterocycles, vol. 82 in press)	N. Maru, T. Koyama, O. Ohno, K. Yamada, D. Uemura共同研究	
Symbiopolyol, a VCAM-1 Inhibitor from a Symbiotic Dinoflagellate of the Jellyfish <i>Mastigias papua</i> (査読付)	共著	2010年	J. Nat. Prod., vol. 73, pp. 1318-1322	N. Hanif, O. Ohno, M. Kitamura, K. Yamada, D. Uemura共同研究。	
Total synthesis and cytotoxicity evaluation of all ochratoxin A stereoisomers (査読付)	共著	2010年	(Bioorg. Med. Chem, vol. 18, pp. 343-347)	B. Cramer, H. Harrer, K. Nakamura, D. Uemura共同研究	
巻頭言「教育における普遍と個別」	単著	2010年	化学と教育58巻5号199		
Amdigenol A, a Long Carbon-backbone Polyol Compound Produced by the Marine Dinoflagellate <i>Amphidinium</i> sp. (査読付)	共著	2011年	Tetrahedron Lett., vol. 52, 239-242	T. Inuzuka, H. Yamamoto, D. Uemura共同研究。	

Dramatically improved catalytic activity of an artificial (S)-selective arylmalonate decarboxylase by structure-guided directed evolution (査読付)	共著	2011年	Chem. Commun., vol.47, 7503-7505	Y. Miyauchi, R. Kourist, D. Uemura, K. Miyamoto共同研究。	
Grubbs carbene complex-catalyzed cleavage of allyl vic-diols to aldehydes with a co-oxidant: application to the selective cleavage of huge marine molecules (査読付)	共著	2011年	Tetrahedron, 9622-9626	C-G. Han, Y. Yamamoto, F. Kakiuchi, K. Nakamura, D. Uemura共同研究。	
Halichonines A, B, and C, Novel Sesquiterpene Alkaloids from the Marine Sponge <i>Halichondria okadai</i> Kadota (査読付)	共著	2011年	Chem. Commun., vol.47, 12453-12455	O. Ohno, T. Chiba, S. Todoroki, H. Yoshimura, N. Maru, K. Maekawa, H. Imagawa, K. Yamada, A. Wakamiya, K. Suenaga, D. Uemura共同研究。	
Melanin Biosynthesis Inhibitors from Tarragon <i>Artemisia dracunculus</i> (査読付)	共著	2011年	Biosci. Biotechnol. Biochem., vol.75, 1628-1630	M. Yamada, K. Nakamura, T. Watabe, O. Ohno, M. Kawagoshi, N. Maru, N. Uotsu, T. Chiba, K. Yamaguchi, D. Uemura共同研究。	

Pinnarine / Another Member of the Halichlorine Family. Isolation and Preparation from Pinnaic Acid (査読付)	共著	2011年	Journal of Natural Products vol.74, pp.1323-1326	S. Xu, H. Yoshimura, N. Maru, O. Ohno, H. Arimoto, D. Uemura	
Synthesis of Isotopically Labeled Fusarium Mycotoxin ¹³ C ₂ -Moniliformin [1-Hydroxy cyclobut-1-ene-3,4-dione] (査読付)	共著	2011年	Synlett, 2011 (15), 2242-2244	L. Lohrey, T. Murata, D. Uemura, H.-U. Humpf共同研究	
Construction of a Metagenomic Library for the Marine Sponge <i>Halichondria okadai</i> (査読付)	共著	2012年	Biosci. Biotechnol. Biochem., vol.76, 633-639	T. Abe, F. P. Sahin, K. Akiyama, T. Naito, M. Kishigami, K. Miyamoto, Y. Sakakibara, D. Uemura共同研究。	
Isolation and Structure of a Novel Biindole Pigment Substituted with an Ethyl Group from a Metagenomic Library Derived from the Marine Sponge <i>Halichondria okadai</i> (査読付)	共著	2012年	Chem. Lett., vol.41, 728-729	T. Abe, A. Kukita, K. Akiyama, T. Naito, D. Uemura共同研究。	
Isolation of 9-Hydroxy-10E, 12Z-octadecadienoic Acid, an Inhibitor of Fat Accumulation from <i>Valeriana fauriei</i> (査読付)	共著	2012年	Biosci. Biotechnol. Biochem., vol.76, 1233-1235	K. Yuki, M. Ikeda, K. Miyamoto, O. Ohno, K. Yamada, D. Uemura共同研究。	

Recent Aspects of Natural Venoms (査読付)	共著	2012年	Pure Appl. Chem., vol.84, 1297-1315	D. Uemura, C-G. Han, N. Hanif, T. Inuzuka, N. Maru, H. Arimoto共同研究。	
Enantioselective Total Synthesis of Pinnaic Acid and Halichlorine (査読付)	共著	2013年	Chem. Asian J., vol.9, 367-375	S. Xu, D. Uemura, H. Arimoto共同研究。	
Jolkinolide F, a Cytotoxic Diterpenoid from <i>Euphorbia jolkinii</i> (査読付)	共著	2013年	Chem. Lett., vol.42, 756-757	N. Maru, N. Chikaraishi, K. Yokota, Y. Kawazoe, D. Uemura共同研究。	
Relative configuration of luminaolide (査読付)	共著	2013年	Tetrahedron Lett. 54, 4385-4387	N. Maru, T. Inuzuka, K. Yamamoto, M. Kitamura, P. Schupp, K. Yamada, D. Uemura共同研究。	
Stereoselective synthesis of the C79-C97 fragment of symbiodinolide (査読付)	共著	2013年	Beilstein J. Org. Chem., vol.9, 1931-1935	H. Takamura, T. Fujiwara, I. Kadota, D. Uemura共同研究。	
Thermally driven asymmetric domino reaction catalyzed by a thermostable esterase and its variants (査読付)	共著	2013年	Tetrahedron Lett., vol.54, 1921-1923	R. Wada, T. Kumon, R. Kourist, H. Ohta, D. Uemura, S. Yoshida, K. Miyamoto共同研究。	
Design, synthesis, and evaluation, derivatives of the fat-accumulation inhibitor ternatin: toward ternatin molecular probes (査読付)	共著	2014年	Tetrahedron Letters, vol.55, 4445-4447	Y. Kawazoe, Y. Tanaka, S. Omura, D. Uemura共同研究。	

Total Synthesis of the Antibiotic Kendomycin: A Macrocyclization Using the Tsuji-Trost Etherification (査読付)	共著	2014年	Angew. Chem. Int. Ed. vol.53, 4213-4216	T. Sengoku, S. Xu, K. Ogura, Y. Emori, K. Kitada, D. Uemura, H. Arimoto共同研究。	
その他					
若い研究者のために63「今日きたる 遅咲きなれど山櫻」	単著	2010年	内藤財団時報第85号、財団法人内藤記科学振興財団、4-6		
切れ者分子が拓く新しい世界	単独	2010年 7月	理研シンポジウム第5回「有機合成化学のフロンティア」(埼玉)		
Marine huge molecules	単独	2010年12月	2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010)		
Recent Topics of Natural Venoms	単独	2011年 7月	27th International Symposium on the Chemistry of Natural Products (ISCNP27) (Brisbane (Australia))		
Natural Products as Drug Leads	単独	2011年11月	8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium(東京)		
Topics in the Research Institute of Natural Drug-leads at Kanagawa University	単独	2011年11月	International Symposium of Natural Products Chemistry and Chemical Biology(杭州(中国))		

The Search for Bioactive Natural Products with a Focus on Biological Phenomena	単独	2012年 3月	7th International Symposium on the Kanagawa University - National Taiwan University Exchange Program 21012(平塚)		
The Search for Bioactive Natural Products with a Focus on Biological Phenomena	単独	2012年 3月	Nakanishi Symposium on Natural Products and Bioorganic Chemistry 2012(横浜)		
Intriguing Natural Products from Marine Sources	単独	2012年11月	International Symposium of Natural Products Chemistry and Chemical Biology(杭州(中国))		
Lovely Natural Products in the Marine Chest	単独	2012年12月	3rd International Symposium on Creation of Functional Materials -Coordination Chemistry at the Front-(筑波)		
Marine Natural Products as Drug-leads	単独	2013年 8月	ANTICANCER DRUGS 2013(ストックホルム(スウェーデン))		
Discovery of Drug-Leads from Marine Organisms	単独	2013年 9月	International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan(仙台)		
Chemical Biology of a Cyclic Peptide Exhibiting Fat Accumulation Inhibition	単独	2013年11月	International Symposium on Natural Products Chemistry and Chemical Biology 2013(名古屋)		

Chemical Biology Fantasia	単独	2014年 2月	10th Yoshimasa Hirata Memorial Lecture & ITbM-IGER Nagoya Symposium on Transformative Synthesis(名古屋)		
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1968年 4月～現在に至る		日本化学会(国内学会)会員			
1979年 1月～現在に至る		米国化学会(国内学会)会員			
1994年 1月～現在に至る		英国化学会(国内学会)会員			
1995年 8月～現在に至る		有機合成化学協会(国内学会)会員			
1996年 4月～現在に至る		日本薬学会(国内学会)会員			
2000年 4月～現在に至る		公益信託林女性自然科学者研究助成基金運営委員 運営委員			
2000年 4月～2010年12月		(財) サントリー生物有機科学研究所 評議員			
2003年 4月～現在に至る		The Chemical Record 編集委員			
2005年 1月～2010年12月		Beilstein Journal of Organic Chemistry 編集委員			
2005年 4月～現在に至る		日本ケミカルバイオロジー学会(国内学会)幹事			
2006年 4月～2011年 3月		Natural Products Report 編集委員			
2007年 2月～現在に至る		(財) 岩垂奨学会(国内学会)理事			
2008年10月～2015年 3月		理研NMR施設利用者懇談会会長			
2009年 5月～2010年 5月		日本ケミカルバイオロジー学会(国内学会)第5回年会実行委員長			
2009年11月～現在に至る		静岡大学創造科学技術大学院外部評価委員 評価委員			
2010年 3月～2011年 2月		日本化学会(国内学会)筆頭副会長			
2010年 4月～2014年 3月		分子科学研究所運営会議委員 委員			
2010年 4月～2011年 3月		日本化学連合 理事			
2010年 7月～現在に至る		(財) 内藤記念科学振興財団評議員選定委員会 委員			
2010年 7月～2011年 3月		(財) 化学技術戦略推進機構平成22年度化学技術戦略推進会議委員 委員			
2011年 1月～現在に至る		(公益財団法人) サントリー生命科学財団 評議員			
2011年 4月～現在に至る		(財) 内藤記念科学振興財団 理事			
2011年10月～現在に至る		日本農芸化学会(国内学会)会員			
2013年 4月～現在に至る		個人研究 カイメン由来難培養性共生細菌に着目した新規物質探索研究			
2013年 4月～現在に至る		日本化学会(国内学会)「化学と工業」編集委員長			
2013年 4月～現在に至る		金沢大学 監事			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部化学科	職名 教授	氏名 菅原 正	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
学生・教員間の双方向授業の実践		2012年 4月 ～現在に至る			
2 作成した教科書、教材					
現代化学		2013年 3月			
超分子の化学 (化学の指針シリーズ)		2013年 4月			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
現代生物科学入門9巻 、合成生物学	共著	2010年	(岩波書店)	浅島誠・黒岩常祥・原雄治編	
生命の起源をさぐる一 宇宙からよみとく生物 進化	共著	2010年	(東京大学出版会)	奥野誠・馬場昭次・山下雅道編	
Handbook of Multifunctional Molecular Materials.	共著	2011年	(Pan Stanford Publishing Ltd. in press)	Ed, L. Ouahab, pp1-48 "Magnetism and Conductivity", T. Sugawara, A. Mi yazaki	

実験医学 増刊：細胞を創る・生命システムを創る	共著	2011年	(羊土社)	竹内昌治・上田泰己編	
Handbook of Multifunctional Molecular Materials (Ed. L. Ouahab)	共著	2012年			
Engineering of Chemical Complexity	共著	2013年			
現代化学	共著	2013年			
超分子の化学(化学の指針シリーズ)	共著	2013年			
スピン化学が拓く分子磁性の新展開	共著	2014年			
論文					
Autocatalytic Membrane-amplification on a Pre-existing vesicular Surface	共著	2010年	Chem. Commun. 46, 8791-8793RCS	H. Takahashi, K. Kageyama, K. Kurihara, K. Takakura, S. Murata, T. Sugawara	
Cell-Sorting of Robust Self-Reproducing Giant Vesicles Tolerant to Highly Ionic Medium	共著	2010年	Soft Matter, 6, 1888	K. Kurihara, K. Takakura, K. Suzuki, T. Toyota, T. Sugawara	
Influence of Magnetic Field upon Conductance of Unicomponent Crystal of TTF-based Nitrony Nitroxide	共著	2010年	J. Am Chem. Soc. , 132, 4528ACS	H. Komatsu, M. M. Matsushita, S. Yamamura, Y. Sugawara, K. Suzuki, T. Sugawara	

Superperiodic conductance in a molecularly wired double-dot system self-assembled in a nanogap electrode	共著	2010年	J. Appl, Phys. 108, 094313 1-5 AIP	Y. Noguchi, T. Terui, T. Katayama, M. M. Matsushita, T. Sugawara	
Compartment size dependence of performance of polymerase chain reaction inside giant vesicles	共著	2011年	Soft Matter, 7, 3750-3753	K. Shohda, M. Tamura, Y. Kageyama, K. Suzuki, A. Suyama, T. Sugawara	
Dimensionality in conductance of small networks composed of gold nanoparticles and terthiophene wire-molecules	共著	2011年	Applied Physics Letters, 98, 263114-1-3	Y. Noguchi, T. Terui, T. Katayama, M. M. Matsushita, T. Sugawara	
Giant Single-Molecule Conductance Response to Frontier Molecular Orbital Phase Differences	共著	2011年	J. Am. Chem. Soc. , 133, 114 26-11428	M. Taniguchi, M. Tsutsui, R. Mogi, T. Sugawara, K. Yoshizawa, T. Kawa i	
Multitude of morphological dynamics of giant multilamellar vesicles in regulated non-equilibrium environments	共著	2011年	Langmuir, DOI:10, 1021/ a2018456	T. Tomita, T. Sugawara, Y. Wakamot o	

Self-reproduction of supramolecular giant vesicles combined with the amplification of encapsulated DNA	共著	2011年	Nature Chemistry, in press	K. Kurihara, M. Tamura, K. Shohda, T. Toyota, K. Suzuki, T. Sugawara	
A Programmable Single-Component Diode Based on an Ambipolar OFET	共著	2012年	Pure Appl. Chem. 84(4), 979-989 (2012)		
Adhesion and Fusion of Two Kinds of Phospholipid Hybrid Vesicles Controlled by Surface Charges of Vesicular Membranes	共著	2012年	Chem. Lett. 41(8), 789-791 (2012)		
pH-Induced Switchable Vesicular Aggregation of Zwitterionic Phospholipids and Anionic Phospholipids	共著	2012年	Chem. Lett. 41(10) 1084-1086 (2012).		
化学：人工細胞の夢ついに達成?!—生命の起源に迫る第一歩	共著	2012年	化学 67(2) [2012年2月号], 43-49 (2012)		
生物の科学遺産：人工細胞(原始細胞モデル)の化学的構築	共著	2012年	生物の科学 遺産 66(7), 365-373 (2012).		
Biaxial Alignment Control of Guanine Crystals by Diamagnetic Orientation	共著	2013年	Appl. Phys. Express 6(3), 037002(4 pages) (2013).		

Macroscopic Motion of Supramolecular Assemblies Actuated by Photoisomerization of Azobenzene Derivatives	共著	2013年	Chem. Commun. 49, 9386-9388 (2013)		
Chemical control of the monovalent-divalent electron-transfer phase transition in biferrocenium-TCNQ salts	共著	2014年	Chem. Commun. 50, 5473-5475 (2014).		
Magnetic Manipulation of Nucleic Acid Base Microcrystals for DNA Sensing	共著	2014年	IEEE Trans. Magn. 50(11), 5001904(4 pages) (2014)		
Magnetic Rotation of Monosodium Urate and Urinary Tract Stones for Clinical Treatment Applications	共著	2014年	IEEE Trans. Magn. 50(11), 6101204(4 pages) (2014).		
Spontaneous Transformation from Micelles to Vesicles Associated with Sequential Conversions of Comprising Amphiphiles within Assemblies	共著	2014年	Chem. Commun. 50, 2190-2192 (2014).		
分子システムとしてつくる人工細胞	共著	2014年			

高分子：自らが増殖する人工細胞の化学構築	共著	2014年	高分子 63(6), 382-384 (2014)		
その他					
分子科学の挑戦ー可塑的応答ー自律運動ー自己生産する超分子システム	共著	2010年	Molecular Science Vol.4 A0033 p1-14	菅原正、鈴木健太郎	
化学で挑む生命の起源	単著	2010年	科学、89 (7) , pp712-720岩波書店		
Interplay between Magnetism and Conductivity Derived from Spin-polarized Donor	共著	2011年	Chem. Soc., Rev., 40, 3105-3118(2011)	T. Sugawara, H. Komatsu, K. Suzuki	
” ついに出来た！磁性と導電性を併せ持つ有機物質ー分子スピニエレクトロニクスへの展開ー”	共著	2011年	現代化学、pp49-53 4月号 東京化学同人	菅原正、小松英司、鈴木健太郎	
分子システムとしての人工細胞	単独	2013年 7月	第4回 CIMoS (Research Center of Integrative Molecular Systems : 分子科学研究所) セミナー		
Artificial Cell Viewed as a Molecular System	単独	2013年 8月	Okazaki Institute for Integrative Bioscience, Summer School 2013		
Approach to Evolvable Protocell	単独	2013年 9月	International Workshop “From Soft Matter to protocell”		
Artificial Cell Constructed as a Molecular System	単独	2013年 9月	第7回分子科学討論会		

分子システムとしてみた人工細胞	単独	2013年12月	公益財団法人 豊田理化学研究所第13回 フェロー研究報告会		
外的刺激により繰り返し自己増殖するベシクル型人工細胞	単独	2013年12月	第2回NINS Colloquium自然科学の将来像 セッション3 新物質と新機能		
Emergence of Active Site for Self-reproducing Dynamics in Vesicle-based Protocell	単独	2014年 1月	The 2nd Interanational Symposium on Dyanmical Ordering of Biomolecular Systems for Creation of Intergerated Functions		
ベシクル型人工細胞の第二世代に回帰性を獲得させるには	単独	2014年 6月	豊田理化学研究所第14回フェロー研究報告会		
Constructive Approach towards a Vesicle-based Protocell	共同	2014年 7月	Origins2014, 2nd ISSOL - The International Astrobiology Society and Bioastronomy (IAU C51) Joint International Conference		
How Prebiotic Materials Collaborate in a Vesicle-based Protocell	共同	2014年 7月	OQOL2014, Open Questions on the Origin of Life 2014		
分子システムとしてつくる人工細胞	単独	2014年 8月	錯体化学若手の会 夏の学校2014		
自己生産する人工細胞における回帰性の獲得	単独	2014年 8月	新学術研究領域「揺らぎと構造の協奏」第2回領域研究会		
ケージドオレイン酸油滴に見られる特異な自発運動ダイナミクス	共同	2014年 9月	第8回 分子科学討論会		
フェニルビオローゲン型分子ワイヤーの合成	共同	2014年 9月	第25回 基礎有機化学討論会		

紫外線応答型ベシクルを目指した珪藻土吸着法によるリン脂質合成	共同	2014年 9月	第25回 基礎有機化学討論会		
Constructive Approach towards Vesicle-based Protocell	単独	2014年10月	EARTH-LIFE SCIENCE INSTITUTE (ELSI) Seminar		
Constructive Approach towards Vesicle-based Protocell	単独	2014年10月	J-PARC 「Astrobiology, Origin of Life: 生命の起源」 研究検討会		
How could a model protocell acquire identity as life through autonomous responses towards external stimuli?	共同	2014年11月	4th Symposium on Artificial Life and Biomimetic Functional Materials		
Self-driven motion of oil droplets launched by UV irradiation	共同	2014年11月	4th Symposium on Artificial Life and Biomimetic Functional Materials		
人工細胞の構築で見えてくる生命の仕組み	単独	2014年12月	国際高等研究所研究プロジェクト「分子基盤に基づく生体機能への揺らぎとダイナミックネットワークの解明」2014年度第1回（通算第3回）研究会		
DNA添加によるカチオン性ベシクル表面状態の変化	共同	2015年 3月	日本化学会第95春季年会		
How Self-proliferative Vesicle-based Protocell Acquire Responsibility and Recursibility	共同	2015年 3月	BIT' s 1st Annual World Congress of Smart Material-2015		

フェニルピオローゲン部位に基づく酸化還元特性を示す分子ワイヤーの合成	共同	2015年 3月	日本化学会第95春季年会		
ベシクル型人工細胞におけるDNA-触媒分子複合体の膜局在化に及ぼす膜成分の効果	単独	2015年 3月	日本化学会第95春季年会		
分子が探る水和水の構造とダイナミクス	共同	2015年 3月	公益財団法人 新世代研究所主催 水とナノ構造研究会		
紫外線応答型二重ベシクル	共同	2015年 3月	日本化学会第95春季年会		
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		アメリカ化学会(国際学会)会員			
		日本化学会(国内学会)会員			
		日本物理学会(国内学会)会員			
		日本結晶学会(国内学会)会員			
		電子スピンサイエンス学会(国内学会)会員			
		高分子学会(国内学会)会員			
1996年11月～現在に至る		文部科学省主催第11回大学と科学公開シンポジウム「役立つ分子をデザインする」講演			
1997年10月～現在に至る		NHK「サイエンスアイ」名物研究室「有機分子で磁石をつくる」放映			
2001年 4月～現在に至る		分子磁性国際会議 国際組織委員			
2003年 5月～現在に至る		東京大学教養学部主催 高校生のための金曜特別講座「進化する機能性物質」講義			
2003年 6月～現在に至る		日本学術会議主催講演会「情報の創造と伝達における分子構造論」 組織委員長(廣田榮治・吉原経太郎と共催)			
2005年 4月～現在に至る		基礎有機化学連合討論会 組織委員			
2006年 4月～現在に至る		日本学術会議連携委員 結晶学分会委員長			
2008年～2010年		科学研究費補助金(文部科学省)「基盤研究(B)」有機局在スピン-伝導電子共存系を基盤とした新規物性の開拓(研究代表者)			
2009年～2010年		科学研究費補助金(文部科学省)「学術領域研究「新分子物質科学」代表:鹿野田一司(公募)ドナー・アクセプター性を併せ持つ有機分子の新物性の獲得(研究代表者)			
2009年～2013年		科学研究費補助金(文部科学省)「学術領域研究「配位プログラミング」領域代表:西原 寛」「特異な分子構造に基づく電子機能(研究分担者)			
2009年 4月～現在に至る		日本化学会有機結晶部 副部会長			
2011年～2014年		科学研究費補助金(文部科学省)「基盤研究(B)」繰り返し自己生産するベシクル型人工細胞の構築(研究代表者)			